

T-ACT



筑波大学
University of Tsukuba

つくばアクションプロジェクト

2014
活動報告書

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

2014

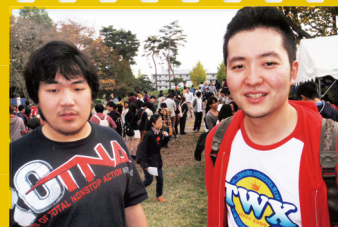


2014

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

2014



2014

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

2014

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

2014



2014

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

2014

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

2014

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT



2014

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

2014

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

目次 -T-ACT 活動報告書-

はしがき

アクション／プラン

プロレスで青春の無駄づかい！！ ～学生プロレスサークル誕生をめざして part 2～ (12036A)	1
Monday Morning Institute (MMI) (12038A)	2
Tsukuba for 3.11 第四弾 (12039A)	3
そのポテンシャル、最大限に引き出せ！ 商社体感セミナー ～業界研究：商社～ (12041A)	5
【第二弾】日本の難民問題の取り組みを通じた国際交流・国際協力 (12042A)	7
続・東日本大震災の被災地とともに歩むボランティア活動 ～今後につなげる被災地支援～ (12043A)	9
3R+1EcoCycle12-13 (12046A)	11
KASASAGI ～東北と僕らの架け橋を～ 第2期 (12048A)	12
Walk With … ～がんに対して大学生が出来ること～ (12050A)	14
学類生のための研究交流Ⅱ (12051A)	16
EXCHANGE ～海外体験～第3弾 (12056A)	18
「エコステーション」活動に参加してみようⅢ～5秒でエコをはじめよう～ (12058A) …	20
「2012年度版課外活動白書」を作ろう！ (12059A)	21
国を超えた語り場 Delta 第3弾 (12062A)	23
『コーチング講座』 ～プロコーチ岸英光が伝える、コミュニケーションの本質～ (12069A)	25
楽演祭 music festival FOR players (12071A)	27
希死回生～自殺予防のための啓発活動～ No.4 (12073A)	29
筑波学生授業研究会 (12076A)	31
つくバグ 2013 ～子どもたちと生き物をつなぐ自然体験教室～ (12082A)	33
教育実習事前シェア会 (12084A)	35
「結」応援プロジェクト 一筑波大学から宇宙へー Vol.1 (12087A)	37
Young Americans Asian Tour 2013 in Tsukuba に参加しよう！ (13001A)	39
Walk With … ーがんに対して大学生が出来ることー 2013 (13002A)	41
学生プロレスサークルの存続をめざして (13003A)	43
校友会 SNS 改善委員会！ (13004A)	44
筑波大学公務員志望者の会 (13005A)	46
あなたの小説が読みたい！ ー第六回筑波学生文芸賞の作品及び一般選考委員の募集ー (13006A)	48
田舎じまんプレゼン大会！ (13007A)	50
“宇宙”と“未来”にメッセージを贈ろう！ (13010A)	52
T-ACT ジャンパーの乱 (13012A)	54
ボウリング好き集合！ (13013A)	56

EXCHANGE ～海外体験～ 第4弾 (13014A).....	57
Wall Art Festival 2013 報告会 (13017A)	59
第二回・天の川クリーンプロジェクト (13020A)	61
院生プレゼンバトル 2013 (13022A)	63
ラック～ Lack & Luck ～ (13025A)	67
つくばの就活とは何だ (13027A)	69
就活 Start up!	
夏期インターンシップを利用したキャリア成長応援プロジェクト (13029A)	71
えいがをつくろう ～スタッフ・キャスト募集のお知らせ編～ (13031A)	72
ゆめ花火 (13032A)	73
プレゼンひろば (13034A)	75
Tsukuba International Debate Project (13038A).....	77
Pieces of Peace (13039A)	81
希死回生～自殺予防のための啓発活動～ No.5 (13040A).....	83
筑波大生専用キャリア支援サイト「つくキャリ」を作ろう！ (13041A)	85
Eating Place Map for Muslim Project (13044A)	86
四角大輔トークライブ@筑波大学 (13046A)	88
Tsukuba Ensemble Project 部屋で眠る管楽器のためのアンサンブル (13047A).....	89
演劇集団 NO PLAN (13048A)	91
世界食料デー月間イベント ～ One dish One hope ～ (13049A)	93
TMP アーティストライブ 2013 ～学園祭ライブでお客様、スタッフ、 アーティスト全員で「驚き、衝撃、感動」を共有しよう！！～ (13050A)	95
HAPPY PINNING! (13051A).....	97
つくちょこプロジェクト 2013 (13058A)	99
【インプロ×ダンス】プロの講師から表現する楽しさを学ぼう！ (13062A).....	101
セクシュアルマイノリティ×学校教育 (13068A)	103
アミーゴ！ アミー語！ ポルトガル語！ (13069A)	105
つくば発 IT ベンチャー企業 4 社の経営者大集合！！ 社長×社長のトークイベント (13072A)	106
Astro Cafe ～そうだ、宇宙に行こう。～ (13077A).....	107
【就活生向け】選考突破！ JOBWEB 代表取締役による面接の本質セミナー (13082A) ...	110
ボランティア	
イノベーションフォーラム in つくば 2013 (20130004V)	111
学校支援学生ボランティア「スクールフェロー (SF)」(20130005V)	112
ボードゲームの広場 (20130007V)	113
第 41 回筑波山梅まつり 縁結びイベント (20130013V)	114
友だち活動 (20130015V)	115
2013年度実施状況報告	116
編集後記	

はしがき

「つくばアクションプロジェクト」(T-ACT)の『活動報告書(平成25年度)』をお届けします。本プロジェクトは、平成20年度に採択された「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」にはじまります。学生の自主性と社会性の育成を図るために、学生生活の中で学生が「やりたい」と考える健全で多様な活動を大学として支援することを目標としています。

T-ACTがスタートしてから6年が経ちました。平成23年度末で学生支援GPの補助事業期間が終了となり、昨年度からは筑波大学における人間力育成支援事業の一環として再スタートしています。T-ACTには、学生が主体となって企画するT-ACTアクションと、教職員が主体となって企画するT-ACTプランがありますが、昨年度から、学生による主体的なボランティア活動を支援するT-ACTボランティアという新たな枠が設立されました。学外から各種のボランティア情報を収集して、その情報を参考に学生が自ら主体的にボランティア活動を企画するプロジェクト型にすることで、学生の「やりたい」という活力を、学内に留まらず学外にも展開させることができます。社会に出て学外の人とふれあい、様々な経験を積んでもらうことにより、社会貢献・地域貢献を通して学生の成長を支援するものです。

T-ACTにおいて大学公認の活動として承認された企画は、この6年間で450件ほどにのぼりました。本報告書には、昨年度に実施された約100件の企画のうち、活動報告が提出された企画について掲載されています。それ以前の企画については昨年発行された活動報告書をご覧ください。本年度も文字通り多種多様な活動が企画、実施されました。その中で特に印象に残ったのは、最優秀賞を受賞した「ゆめ花火」という企画です。これは筑波大学病院に入院中の子供たちが「夢の花火」をテーマに描いた絵をもとに、花火師に頼んでその絵を実際に花火にしてもらい、夜空に描いてもらうという企画です。雙峰祭の後夜祭の夜空を飾るまるで夢のような花火を、闘病生活に苦しむ子供たちに見せてあげることができました。

また、秋に開催された公開シンポジウムでは、「未来の扉をあけるT-ACT」をテーマに、卒業生による実体験が語られました。T-ACTを通して培った成功体験と失敗体験の蓄積により、それまで控えめだった自分が自信と積極性を勝ち取り、未来への扉をこじ開けることができた、と感謝の気持ちが伝えられると、会場の多くの関係者の目にはうれし涙がこぼれていました。本プロジェクトの継続・発展のためにご尽力いただいた学内外の皆様、それから、活動を大いに盛り上げることにより、プロジェクトの高評価をもたらしてくれた学生および卒業生の皆さんにお礼を申し上げます。

本プロジェクトは、平成26年度から学生生活支援室のひとつの部会からT-ACT推進室へと格上げされました。ボランティア関連の機能強化を図りながら、さらに展開していくことになります。皆様のこれまで以上のご支援とご助力をお願いいたします。

平成26年4月

つくばアクションプロジェクト推進室
室長 田中 博

● プロレスで青春の無駄づかい!! ～学生プロレスサークル誕生をめざして part 2～ (12036A)

T-ACT プランナー 久保 希久男 (医学群医学類)

活動内容

昨年の雙峰祭で T-ACT 企画の学生プロレス興行が行われました。本企画はその第 2 弾として、学園祭だけの一過性のイベントではなく、正式なサークルとして新入部員を集めることを目的としています。そして、今回は新入部員が集まったということで、筑波初の学生プロレスラーのデビュー戦を雙峰祭でやるための第 3 弾の企画です。学園祭を盛り上げるイベントとして多くの観客を動員すべく宣伝活動及び当日の運営スタッフを大募集します。

活動計画

- 9月 学生プロレスの練習
- 10月6日 雙峰祭興行2012「Everyday, シャープシューター」
- 10月後半 反省会&サークル申請

活動期間

平成24年9月18日～25年3月17日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：小平義之 (情報メディア創成学類)
- P：入江賢児 (医学医療系)

活動報告

活動成果

- ・活動内容
 - 8-9月 練習
 - 10月 雙峰祭興行
- ・目標達成度
 - 雨天の中、不完全ながらも最低限の興行を開催することができた。達成度は70%
- ・得られた成果
 - T-ACT 表彰にて特別賞を受賞

今後の課題

より積極的な新歓活動を行い、あたらしい人材を確保するとともに、安定したサークル運営を目指す。

経験者からのメッセージ

「誰かに賞賛されたい！誰かに認められたい！」そんな自己愛型のパーソナリティを自覚されている方。それは一見短所のように見える。だがしかし、T-ACT においては長所にしかならない。

運営者側から見たパーティシパントの変化

プロレスリングに対する知識と愛情が増してきたように感じた。

T-ACT に関する感想

今のままで十分です。細やかな相談にのってくださりながら、同時にやさしく見守ってくださって感謝しております。母性と父性のカタマリ、それが T-ACT である。



Monday Morning Institute (MMI) (12038A)

T-ACT プランナー 秋山 茉莉花 (生命環境学群生物学類4年)

活動内容

筑波大学での学術的な交流を促進するインフラの一つとして、週に1度の定期的な活動を行う。院生や学群生が自身の研究プレゼンを異分野の人へ向けて行う機会を創る。

活動計画

- 10月1日～3月末 毎週月曜朝8時から、筑波大学附属中央図書館前にて活動する
(活動自体は昨年度から継続している)
- 10月後半～ 認知度向上のため、ポスターやフライヤーを作成する
内容は活動予告と運営スタッフの募集とプレゼンターの募集
- 3月末 半期の活動の振り返り
来年度へ向けての運営引き継ぎ

活動期間

平成24年10月1日～25年3月31日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 角谷雄哉 (人間総合科学研究科)、田中みさよ (人間総合科学研究科)、佐藤良太 (システム情報工学研究科)
P: 野村港二 (生命環境系)

活動報告

活動成果

・活動内容

<通常の活動>

10月～3月授業のある毎週月曜日 朝8時～9時

<新たな活動>

2月19日 18時～19時 夕方MMIを初開催

<まとめの活動>

3月19日 報告論文を執筆、『Costep』に投稿

・目標達成度

通常の活動を続けつつ、夕方に行うことで参加者を増加させる試みと、論文として形に残す試みは成功したと言える。しかし、今期の目標としていた、T-ACTであることを活かして新たな広報戦略を確立することは達成されなかったため、目標達成度としては3割程度である。

・得られた成果

4月からの活動へとつなげることができた。

今後の課題

夕方に行うことで参加者を増加させることはできたので、今後は月曜朝というアイデンティティを活かしつつ、さらに効果的な広報を行う。

経験者からのメッセージ

活動を始めたら半年間くらいあっという間です。
有意義に活動してください。

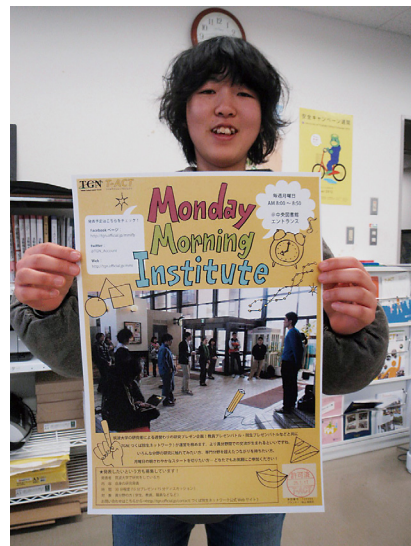
運営者側から見たパーティシパントの変化

元から能力の高い仲間が集まったので、著しい変化は見られなかったが、朝8時から活動する中で、それぞれの生活習慣を見直す機会を得ていたと思う。

T-ACTに関する感想

T-ACTシステムから、探している情報にたどり着きにくいと感じました。

また、「プランナー」や「アクション」など、T-ACTの専門用語が多く、初めて登録する時にT-ACTについて理解するのに時間がかかりました。



Tsukuba for 3.11 第四弾 (12039A)

T-ACT プランナー 水落 裕樹 (生命環境学群生物資源学類4年)

活動内容

これまで同様の企画「Tsukuba for 3.11」「Tsukuba for 3.11 第二～三弾」にて、東日本大震災の被災地支援へのボランティアコーディネーターや地域に根ざしたコミュニティ支援を行ってきました。今後とも大学とも連携しながら継続的に本活動を続けていきたいため、申請させていただきます。

活動計画

- 9月 プランナー（代表）引き継ぎ、団体再編
10月～ つくばにおける震災避難民との交流・情報提供（学生新聞「つくしま」など）と震災への関心喚起（学祭への展示、イベント企画など）。
また、福島県いわき市、宮城県気仙沼市を被災地域での拠点として、現地スタディツアーの企画や学生らしさを生かした継続的な支援（教育支援等）を行っていく。
3月 活動の振り返りとまとめ

活動期間

平成24年9月26日～25年3月26日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：細田真萌（体育専門学群）、相原奨之（体育専門学群）、吉田紳吾（体育専門学群）、櫻井史穂（生物資源学類）、中山靖子（生物資源学類）、木下拓耶（生物資源学類）、松田侑希（生物資源学類）、木村昌司（生命環境科学研究科）、山下裕之（心理学類）、横田華奈（医学類）、藪下みき（人文学類）、中原萌里（人文学類）、藤岡晶子（看護学類）、兒玉拓巳（情報学類）、千葉友希子（国際総合学類）、片山美希（医療科学類）、春原若菜（地球学類）、平松真由美（国際総合学類）、加藤早織（生物資源学類）、福井俊介（生物資源学類）、木村奈那子（看護学類）、園田有紀乃（芸術専門学群）

P：長谷川聖修（体育系）

活動報告

活動成果

・活動内容

- ～9/28 : 学内復興写真展の開催
10/6～8 : 2012年雙峰祭「東北復興 cafe ♪」出店
10/9～10 : 気仙沼学童にて子供たちと交流（4名）
10/27～28 : 気仙沼高台移転に関する市民説明会・議事録ボランティア（2名）
11/4 : いわき市仮設にてワークショップ（4名）
11/10～13 : 気仙沼、陸前高田 被災地スタディツアー（2名）
11/23 : つくばに在住している福島からの避難者を対象として「想いをおいもにつくしま交流会」イベントの開催
11/27～28 : 気仙沼・塩釜入り（3名）
12/22～24 : 気仙沼スタディツアー（5名）
12/8～25 : イーアスにて開催された「100本のクリスマスツリー」イベントに東北復興ツリーとして出品
1/12～13 : いわき市仮設にてフリマ手伝い（6名）
2/3 : つくばに在住している福島からの避難者を対象として「つくしま大芋煮会」イベントの開催
3/9～10 : いわき・勿来において追悼イベント「なこそ希望ウォーク2013」の運営手伝い（26名）
3/11 : 土浦にて追悼イベント「3.11こころの明かりプロジェクト」トークセッションに参加
3/20 : 気仙沼スタディツアー（4名）
3/24 : 筑波学院大学にて開催された福島・浪江町からの避難者向けの交流イベント「なみえの“しゃべり場”～集まれ！浪江のなかま in 茨城県」の運営手伝い

・成果

東北被災地域への継続的な関係づくりを行いつつ、つくば周辺での震災への関心喚起活動と、避難者へのケアを行うことができた。とくに避難者のケアについては、福島からの避難者向けの学生新聞「つくしま」などを継続的に発行することができた。

今後の課題

中心的なメンバーとして動いた上級生の多くが卒業・就職してしまうため、今後の活動をどう展開していけるかが課題。また、被災地や原発を巡る状況の変化に臨機応変に対応していくことの必要性を再認識した。

経験者からのメッセージ

学内だけでなく、様々な外部の団体や社会人とのつながりも作りながら、柔軟に動いていって欲しいと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパント（一般参加者）の中には震災から二年経った今でも「被災地に入ったことがない」「震災のことをよく知らない」という方も多かったです。こうした方々に、震災のこと、被災地のことを知るきっかけを与えられたのは非常に有意義だったと思う。

また、オーガナイザー（運営メンバー）の間でも、少しずつ新たなメンバーを増やしていく中で、団体の方向性を検討したり、震災について認識を新たにしたりといった発見があった。特に震災の発生初期の様子をあまり知らない下級生などは、実際に現地に行き避難者の方々と交流を重ねていくなかで、多くのことを学び取り、震災のことにとどまらない、今後の社会をどう復興させていくかということに関する自分なりの意見を徐々に形成しつつあるようである。

T-ACT に関する感想

お世話になっているのであまり要望というのはありませんが、今後も気づき次第ご相談させていただきたく思います。



そのポテンシャル、最大限に引き出せ！ 商社体感セミナー ～業界研究:商社～ (12041A)

T-ACT プランナー 尾澤 将大 (生命環境科学研究科2年)

活動内容

【背景】

「商社」という業界は、CMなどのメディアでは取り上げられにくく、学生が出会う場面がほとんど皆無である。一方で就活生には「商社」は人気企業である。筑波大生が商社を次の自分の活躍のフィールドにする傾向はこれまでの就職先を見ても他の都内大学に比べて格段にして低い。TXは開通したもの、やはり筑波大学が物理的に東京から距離があり、多くの業界、ここでは商社に出会わないからだと思える。さらに出会ったとしても目先の「給料」や「海外」に囚われて本質を見据えていないからだと思える。

【目的】

今回の目的は、世界を垣間見、「商社」という業界を知り、就活生に選択肢を広げる場を提供することである。そこで総合商社である双日株式会社を招き、ビジネス体感ゲームを行うことで、商社に興味を持ってもらう。その中で筑波大生に「商社」という業界が、どういうビジネスを行い、ヒト・モノ・カネ・ジヨウホウを使い、モノ・サービスなど商品を提供しているかを理解してもらう。また企業を招くことで、どんな雰囲気業界かを身近に感じてもらう。

活動計画

- 10月 活動開始
11月 先方とのアポイントメント①、②、③、
タスクの割り振り（告知 / 事務書類 / 受付 / ゲスト迎え / 会場案内・整理 / 司会 / 挨拶 / 写真担当 / Timekeeper / クロージング / ゲスト送り / 懇親会担当）企画準備
- 12月14日(金) 18:15～21:45 教室：3A202 規模：80名程度
①商社業界体感セミナー（共催：TAKE@WAY, 双日株式会社）
コンテンツ：商社ビジネスゲーム
- 1月下旬頃 18:15～21:45 教室：3C201 規模：40名程度
②商社業界を深く知る！セミナー（共催：TAKE@WAY）
コンテンツ：
1) 商社部門別「ビジネスモデルを探れ」グループワーク
2) 商社勤務社員によるパネルディスカッション
- 2月下旬頃 18:15～21:45 教室：3C201 規模：20名程度
③必勝！商社面接対策
共催：TAKE@WAY, 協力：双日株式会社
コンテンツ：内定者+双日人事部社員による面接練習
- 3月 活動終了
メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成24年10月1日～25年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：吉田誠（社会学類）、渡邊圭（社会学類）

P：首藤久人（生命環境系）

活動報告

活動成果

・実地した活動内容

- 9月～ 活動開始
- 10月～当日まで 先方との打ち合わせ、MTG（週1）、広報（FB、Blog、Twitter）
- 12月14日（金）18:00～20:45
商社体感セミナー第1弾 視野を広く！
「商社への第一歩～TAKE@WAY × 双日 商社ビジネス体感ゲーム～」
- 1月～ MTG、OBとの連絡、広報
- 1月26日（土）14:00～17:00
商社体感セミナー第2弾 違いを見い出せ！！
「商社業界をより深く～現役商社マンによるパネルディスカッション&座談会～」
- 2月～ MTG、先方とのやりとり、広報

3月1日（金）18:00～20:45

商社体感セミナー第3弾 内定に向けてラストスパート！
「必勝商社面接！」

・目標達成度
80/100

OBとのやりとりによって縦のつながりが確保でき、さらには企業様と行うことで、大学だけでは得られない知識も身につけることができたため。一方で学生にもう少しコミットメントしてもらいたかった（当日欠席等が多かった、そもそも参加表明の母数が少なかった）ため。

- ・得られた成果
- ・学生特に就職活動生に対して新たな選択を見つけてもらうことができた
- ・企業とコラボすることで大学生には緊張感の中、イベントの作り方を学べた
- ・OBとの縦の繋がりができた

今後の課題

現メンバーは卒業あるいは修了してしまったので、次なる一步を引き継げなかった。継続して行っていくためには、後輩の育成も必要である。

また、参加者をさらに増やすためにピラマキ等をして参加を促す。

経験者からのメッセージ

自分から取り組み、楽しむことが大事。今しかできないと思って全力で取り組んでみる。
自分から困難なことに挑戦してみる。なんとかなるから。それが成長の糧になる。

運営者側から見たパーティシパントの変化

何をしなければいいかが明確になり、次への自分のプランを立てるきっかけになったと思われる。

役割をしっかりと把握し、それぞれが役割を自覚しているため、自発的に行動し、チームとして効果的に円滑に運用できた。

T-ACT に関する感想

機材の貸し出しを T-ACT でできるといいです。



【第二弾】日本の難民問題の取り組みを通じた国際交流・国際協力(12042A)

T-ACT プランナー 富澤 麻琴 (社会・国際学群国際総合学類2年)

活動内容

「えっ!? 日本に難民いるの?」

日本に難民がやってくることをどのくらいの人知っているだろうか。

また、彼らつくば市の隣、牛久市にある施設に収容されていることを筑波大の学生は知っているのだろうか。あまり知られていない日本の難民問題を、少しでも多くの人に知ってもらいたい!

収容所にいる彼らの少しでも力になりたい!

そんな思いで活動していきます。

活動計画

10月学園祭 出店 (カフェを開き、活動報告・日本の難民に関する展示等)

12月8日 「難民交流会2012」開催予定

<日常的な活動>

・東日本入国管理センターへの面会訪問活動

⇒現在は週に1度、牛久市にある東日本入国管理センターを訪問し、そこに収容されている人々と面会しています。様々な国籍の方々と実際にお会いして、話をしていく中で、相手を元気づけたり逆にこちらが元気づけられたりと、交流を通じた支援をしながら様々な経験をしています。

・被収容者への日本語サポート活動

⇒主に収容所にいる人々に対して、日本語の練習教材を差し入れたり、オリジナルの日本についてのコラムを差し入れたりして、日本語の勉強のサポートを行っています。

・難民申請にかかる翻訳活動

⇒私たちが関わっているすべての人々が難民というわけではありませんが、難民の人々は日本で難民として認定してもらうためには、その証拠書類を提出しなければなりません。その書類が端的に言えば、日本語で提出されなければならないという決まりがあります。その書類の翻訳のお手伝いをしています。

・各種イベントの立案・実施

⇒これら様々な活動を通して学んだことを外部発信したりするイベントの企画をします。昨年、一昨年と「難民交流会」と題して一般の方と CLOVER がお世話になっている外国人の方々をお呼びして、交流したり難民問題について学ぶ場を設けたりしました。その他、他団体との共同開催などにも参加します。

・各種媒体を用いた情報の発信

⇒現在 CLOVER では、

ブログ (<http://cloveryouth.blog109.fc2.com/>)

Facebook (<http://www.facebook.com/CLOVERyouth>)

Twitter: @clover_youth

HP: 作成中 を用いて、活動報告や各種イベント情報を発信しています。

活動期間

平成24年10月1日～25年3月31日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 長谷川綾、関亜沙美、北山亜佳音、田中清鈴 (全て国際総合学類2年)、帖佐光江子 (国際総合学類1年)、藤井理美 (心理学類2年)、佐々木めぐみ (生物資源学類2年)

P: 明石純一 (人文社会系)

活動報告

活動成果

・活動内容

毎週水曜日: 東日本入国管理センターへの訪問・面会活動

翻訳活動→随時

日本語サポート→毎週、ニーズに合わせて教材準備・差し入れ

HP 作成・ブログ・フェイスブックにおける広報活動

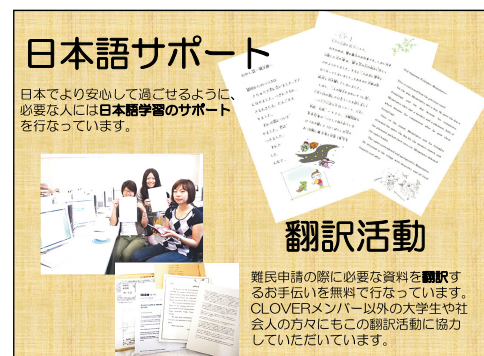
辞書等不要物品回収および差し入れ→ニーズに対応

10月2日 ミーティング

10月6日 学園祭出店「CLOVER CAFE」

10月10日 ミーティング

10月15日 幹部ミーティング



10月16日	ミーティング
10月24日	ミーティング
10月30日	ミーティング
11月1日	T-ACT 大久保さんと保険についての相談
11月7日	ミーティング
11月10・11日	テクノパーク桜祭りにおいて不要辞書等物品回収
11月12日	幹部ミーティング
11月30日	ノバホール会場打ち合わせ
12月6日	ミーティング兼交流会リハーサル
12月8日	「難民交流会2012」開催
12月29日	他の難民支援学生団体との広報動画 PJ 打ち合わせ
1月8日	幹部ミーティング
1月16日	ミーティング兼新年会（親睦会）
1月23日	ミーティング
1月26日	動画 PJ 第二回 MT
1月29日	幹部ミーティング
2月6日	ミーティング
2月12日	ミーティング
2月19日	幹部ミーティング
2月20日	ミーティング
2月25日	幹部ミーティング
3月12日	「外国人収容施設を考える～日本と英国に比較から～」 児玉弁護士をお呼びして、講演会を実施。
3月14日	並木中等教育学校において辞書回収および出張授業実施
3月26日	動画 PJ 第三回 MT

・目標達成度

活動計画通り、イベントの実施や認知度向上のための広報活動を行うことができた。また、中学生への出張授業など行うことができたのは、新しい取り組みであり、さくら祭りも含め地域の方との交流や協力において、社会貢献にも繋がったと考えられる。よって、目標達成度は高い。しかし、より一層質の高い活動や、より多くの人にこの問題を知ってもらうために、交流会の内容の充実や、ハードルを下げるための工夫も今後していきたい。

・得られた成果

東日本入国管理センターの被収容者の方から、多くのお礼の手紙を受け取ることができたり、直接「ありがとう」を伝えてくれる方々が多くいらっしゃったりした。

また、地域のお祭りや中学校での「不要辞書等回収」を通して、身近に難民の存在を感じてもらうことができた。

回収物品数も約100冊の辞書・小説・ノートなどを集めることができ、被収容者の方々に差し入れすることができた。

今後の課題

人によって、問題の知識にばらつきが出てしまった。

→統一できるよう勉強会の実施をする

情報共有が難しかった。

→基本的にミーティングでの伝達で、議事録をウェブに挙げるのとメールでお知らせを流すだけになっていた。

経験者からのメッセージ

仲間と協力して、企画をし、うまく仕事分担をして進めていくことが大切だと思います！

運営者側から見たパーティシパントの変化

まったく問題を知らなかったところから活動に参加することで少しずつ知識をつけることができていた。そして、それが自然と国際交流・協力につながっていた。

T-ACT に関する感想

相談にもものっていただけて、助かりました。



● 続・東日本大震災の被災地とともに歩むボランティア活動 ～今後につなげる被災地支援～(12043A)

T-ACT プランナー 宮本 匠 (人間総合科学研究科2年)

活動内容

昨年3月11日に発生した東日本大震災から約1年半以上が経過しました。茨城も被災し、大学内の建物も大きな被害を受けているが、大学での生活では、東日本大震災の事は過去のこととなりつつある現状がある。また、5月6日に発生した北条地区での竜巻災害では、同じ市内での災害にかかわらず、学内の反応は冷たく、支援活動をしていた多くのボランティアは県外から駆け付けた方たちであった。

現在の活動の中心とさせていたっている宮城県山元町では、震災直後から半年間、海岸線から約2km離れている常磐線線路より海側への立ち入り制限があり、一般のボランティアは活動できず、他地域に比べ復旧は半年分以上の遅れがあった。しかし、最近になり、家の片づけ・修理に向けての解体作業、畑のがれき撤去などのニーズも減りつつあり、“復旧”の段階から“復興”の段階へと移りつつある。また、“復興”の段階では長期的な関わりがとても重要で、外部のボランティアだけでは限界があるため、その地域に住んでいる住民と協力して、ゆくゆくは住民が主体となり活動していくことが、本来の機能であり、ボランティアはそれを促しサポートするに過ぎない。

本企画では学生として時間を最大限有効活用して、無理のない範囲で現地に通い詰め、現地の方(住民やボランティア)とコミュニケーションをとり、ネットワークを広めながら、地元密着でお互いが顔の見える関係でのボランティア活動を目指し、微力ながらも山元町の復興へ向けた動きを支えていきたい。

活動計画

本企画では、以上の観点から2つの活動の軸を念頭に置き、活動したいと思う。

①宮城県山元町での復興支援活動

連携団体である「山元町おてら災害ボランティアセンター」や、地元住民による町の復興を考え、地元コミュニティの再生活動を行っている「山元町震災復興土曜日の会」と協力し、山元町の復興へ向け、精力的に活動をする。また、地元の方ともコミュニケーションをとり、その時々求められる事を求められている時に対応できる柔軟性のある活動を行うこと。

《具体的な活動プロジェクト》

・山元いちご再生プロジェクト

山元町では農家の約9割がいちご農家をしていと言われており、震災前はたくさんのいちごのためのピニールハウスが並んでいたという。しかし、津波により多くのハウスが流されてしまい、土壌も塩分を多く含み、いちごを育てる環境は無くなってしまった。そのため今年こそはと思い、ハウスを建て山元いちご再生に向けて努力している方は多くいる。その方のお手伝い(ハウス組み立て、井戸掘り、瓦礫撤去、除草作業や苗の手入れ)を行い、山元町の名産物を復活させることにより、街に元気を取り戻すプロジェクト。

・お寺再生プロジェクト

山元町でのボランティア拠点とさせていたっている普門寺(海岸線から800mに位置する)は、複数の流木が本堂を突き刺し、墓石は倒れ、当初はお寺を閉鎖しようと考えていたほどだ。そのお寺も今では少しずつ再生は進み、境内には木々も増え、お寺らしくなってきた。しかし、まだ以前のような憩いの場としての機能は果たせていない。みんなが集まれるような庭を作ったり、ベンチを作ったり、木をたくさん植えたりして、少しでも多くの方の憩いの場となり、山元町の復興の為のシンボルとなるようにしていきたい。

またお寺では地域を盛り上げるために定期的にイベントを行っていく。そのサポートをボランティアが行い、街を元気にし、その様子を外に発信していく。

②他地域での災害救援活動

現在の活動を東北だけの活動に絞るのではなく、ここで学んだ知識や技術、ネットワークを活かし、近隣の地域で災害が起きてしまった場合には、救援活動を行う。

活動期間

平成24年10月1日～25年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：梶本杏子(生物資源学類)

P：奈良隆章(人間系)

活動報告

活動成果

・活動内容

〈10月から12月〉

- ・大みそかに行う法要に向けて、お寺の中の修繕活動。

・12月から始まるイチゴの収穫に向けたいちごハウスのお手伝い。

〈1月から3月〉

- ・3月11日の3回忌の法要に向けた、お寺の修繕活動。
- ・3月11日に地域の方と行う竹灯籠に向けた準備及び実施。
- ・いちごの収穫シーズンのため、いちごハウスのお手伝い。

・活動日程

〈10月〉

1日月曜
5日金曜から9日火曜
20日土曜から22日月曜
27日土曜から29日月曜 11日間

〈11月〉

3日土曜から5日月曜
17日土曜から18日日曜
23日金曜から27日火曜 10日間

〈12月〉

1日土曜から3日月曜
8日土曜から10日月曜
15日土曜
17日月曜から18日火曜
22日土曜から24日月曜
29日土曜から31日月曜 15日間

〈1月〉

1日火曜
19日土曜から20日日曜 3日間

〈2月〉

2日土曜から4日月曜
9日土曜から11日月曜
23日土曜から25日月曜 9日間

〈3月〉

9日土曜から12日火曜 4日間

・目標達成度

東日本大震災発生から1年半から2年が経とうとしていたこの期間でのボランティアは、それ以前の活動に比べ、ボランティアの数も減り、思うような活動ができない場面もあったが、そんなときにこそ継続的に活動を行うことができたことは、少なからず東北の力にはなれたのではないだろうかという実感はある。しかし、震災から2年が経った2013年3月11日に、今までの活動を振り返って考えたり、初めて見た時の景色と現在の景色を見比べたりしたとき、あまりの変化のなさ、復興が進んでいるように見えない景色には、果たして自分の活動は力になれたのだろうかと思ってしまった。T-ACTでの活動は終わってもこの活動は続けていかなければならない。そして住民の方が落ち着いて暮らしていける日がやってきたら、この活動は達成したといえるだろう。

今後の課題

来年度は大学から離れてしまい、今までのような活動を継続することができなくなってしまうが、東日本大震災の被災地では依然として支援を必要としている。継続的に現地に足を運ぶことはできなくても、遠距離からできる支援という立場にたって、「できることを、できるときに、できるだけ」の支援を継続していきたいと思う。

経験者からのメッセージ

特になし。

運営者側から見たパーティシパントの変化

特になし。

T-ACTに関する感想

とてもアットホームな雰囲気、相談しやすく、活動をサポートしてくださったのが、うれしかった。

3R+1EcoCycle12-13 (12046A)

T-ACT プランナー 前田 真依 (生命環境学群生物資源学類3年)

活動内容

毎年、卒業や転居のシーズンに、学生宿舎や大学の周辺で家具や家電が大量に廃棄されます。その中にはまだ使えるものも多く含まれています。それらの家具や家電を引き取り、清掃や点検などをしたうえで新入生に無償で提供することで、筑波大学周辺のゴミを減らし、廃棄や購入にかかる経済的負担を減らすことが、この活動の目的です。

活動計画

- 11月 ・メンバーを集め、活動開始
- 11月～1月 ・回収日の決定、回収方法の検討
 - ・取り扱う品目や個数の検討
 - ・ポスター、ピラ、学内広報紙、電光掲示板、twitter などを用い、学生や教職員の方々に不要になった家具や家電の提供を呼びかけ
 - ・品物の保管 / 清掃をするためのスペースの確保 (昨年度は追越宿舎16号棟1F モデルルームを使用させていただいた。今年度も十分なスペースを借りられるよう交渉する)
 - ・回収日やその他作業日のスケジュールの決定
 - ・Web システム (Web アプリケーション) の作成
- 2月～3月 ・品物の引き取り・品物の清掃・点検
 - ・Web 上での抽選
- 4月・宿舎入居日 ・品物の提供 (各宿舎に拠点を設置) ・後片付け

活動期間

平成24年10月15日～25年4月14日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O : 宮下晃 (応用理工学類)、中畑あずさ (生物学類)、松井隼人 (社会学類)
P : 土子昇 (学生生活課)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 4月5日 物品引渡し
- 4月6日 物品引渡し 倉庫片付け、借りていた物品の返却
- 4月8日 物品引渡し、片付け
- 4月9日 倉庫の撤収、復元作業

・目標達成度

80%

新規参加者を獲得できなかったため。

個人の負担が重くない形に移行したかったが、運営に関与する人材が乏しく、副代表一人に負担がかかってしまった。

・得られた成果

若干の体制の簡素化

今後の課題

いかにして人を集めるか。

組織の仕組み、運営方法を変える際の想定が甘かったこと。

回収した物品の管理の方法：ナンバリングでミスがあった。

広報に関して：受け取り側へ日時がきちんと伝わっていなかったこと

経験者からのメッセージ

終了までの見通しを立てて前倒しで動くことが必要だと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

経験者ばかりでしたので大きな変化はなかったと思います。

T-ACT に関する感想

印刷機、コピー機が使用できて便利でした。

KASASAGI ～東北と僕らの架け橋を～ 第2期 (12048A)

T-ACT プランナー 藤原 宣也 (生命環境科学研究科2年)

活動内容

2011年3月11日東日本大震災が起きた。

一般的なメディアの報道も薄れていく中でまだまだ現地復興の課題は多い。

現在大きな課題としてコミュニケーションスペースの不足、産業、雇用の不足が上げられる。高台移転で仮設住宅から復興住宅への移住が迫られる今、それでも街を守るには新しい産業が求められる。本活動では宮城県南三陸町を主な舞台に新たな産業創造、地域文化活性による地域コミュニケーションの機会創出を目指す。

活動計画

10月 活動開始

メンバーを集め、話し合いを進める。

南三陸町でのあらたな工房「クチバシカジカ工房」建設プロジェクトに関わる。

建設後自分たちで手を入れ、工房だけでなくコミュニケーションスペースとしての機能を持たせる予定。現在建築デザイナーにプロジェクト紹介中である。その上でのアイデアや施工時に協力してくれそうな方を募集します。看板とか作りましょう！

11月17、18日 石巻雄勝町にて復興祭。

プランナーが去年製作した神輿が上がる仮設商店街一周年イベント。学内及び学外復興支援団体の派遣を要請。当日運営、参加スタッフの募集をします。当日パフォーマンスしたい！なんて人も募集します。

12月 クチバシカジカ工房施工開始を目指す。

基本的には建設業者に施工を依頼しますがその後手を加えられるように設計したいと考えます。設計のアイデア、施工の手伝い募集します。

クチバシカジカ工房が出来たら関係者を集めバーベキューしましょう。

1～3月 クチバシカジカ工房で生産される「経木」を加工しオシャレな製品を作ります。プロのデザイナーだけでなく多くのアイデアを求めます。現地でお母さん方とわいわい言いながら作れてしかもオシャレなものを一緒に考えましょう！

3月末 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。

活動期間

平成24年10月17日～25年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：濱村拓巳 (生物資源学類)、大竹英理耶 (芸術専門学群)、紅林駿介、多田紅子

P：矢澤真人 (人文社会系)

活動報告

活動成果

・活動内容

2012年11月

石巻市雄勝町復興商店街にて製作、寄付した神輿を渡御し、復興商店街一周年記念復興祭を実施しました。復興祭では雄勝町より感謝状をいただきました。継続して雄勝町に関わり神輿の渡御を合計三回続けたことが喜ばれました。今後もお祭りには継続して関わっていきます。

12月

プロジェクトのメンバー有志で現場視察へ行きました。初めて渡部さんに会い、また工房建設の予定地を見学することで今後関わっていけることをより実感しました。

現場へ行くことの重要性を強く共有しました。

2013年2月

南三陸より支援している渡部正行さんがいらっしゃいました。まず国会図書館へ行き経木について調べた後様々なお店を訪れました。古い素材を用いて現代のデザインを取り入れた例などを共に見学することで支援の形を研究しました。

3月

群馬の佐藤経木工場を見学に行きました。

実際に稼働している工場を見学し職人さんの話を聞くことで将来立つ工房の姿を想像することが出来ました。活動の拠点となる工房の改修を始めました。震災で居住用には利用できなくなったアパートを改修し様々な被災

地での素材を使った試作品が出来るように力を合わせ改修しています。

今後の課題

被災地は遠くなかなかそろっていくことが出来ないが現場を見ることは非常に重要である。少しの機会でも現地の人と触れ合い考えていくことで学生でも、現場に何度も行かなくてもできる支援の形を考えていかなければならない。また問題が非常に大きく難しいため結果を求めることなく少しずつ考えながら前進していくことが必要になってくる。

経験者からのメッセージ

常に今を感じ、自問自答しながら最善の手段を考慮していくと良いと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

被災地という特殊な場所で専門性の少ない学生が少しでも貢献できる手段を考えていくことで今後学生として学んでいく中での方向性も少し積極的に考えていけるようになった。また専門性の高いプロフェッショナルと触れ合うことで大きな刺激となっている。

T-ACT に関する感想

いつもありがとうございます。

Walk With … ～がんに対して大学生が出来ること～ (12050A)

T-ACT プランナー 福田 はるか (生命環境学群生物資源学類3年)

活動内容

今は2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなる時代と言われています。

大学生にとって実感のない話かもしれませんが、突然自分の大切な人たちが、そして自分自身ががんと闘わなければならない日が訪れるかもしれません。

この活動の目的は、がんについてより知識を深め広く知ってもらふことと、がんの患者さんとそれを支える人々を応援することです。そのためにリレー・フォー・ライフ・ジャパン2013茨城への参加を計画しています。

具体的な活動

- ・リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013茨城を大学の皆さんに知ってもらうための広報活動
- ・一緒にイベントを盛り上げてくれる団体へのオファー
- ・当日のイベントのお手伝い

活動計画

10～11月 企画立ち上げ、メンバー募集

学内への広報・説明会などを行う

12～1月 リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013茨城へ出演してくれるステージ団体への協力要請を行う

2～4月 リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013茨城の広報活動を続ける。

当日のみ参加してくれるスタッフを募集する

(リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013茨城の開催は2013年5月の予定のため企画を更新して活動を継続する)

活動期間

平成24年10月24日～25年4月24日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 村澤秀樹 (人間総合科学研究科)、加藤みゆき (比較文化学類)、宮本智志 (医学類)、高村豊人 (社会学類)、新井香裕 (工学システム学類)

P: 宮本雅彦 (数理物質系)

活動報告

活動成果

- 2012年10月 T-ACT 承認
メンバー5人で活動開始
- ・10/27、11/17 リレー・フォー・ライフ・ジャパン茨城実行委員会にて学生についての打ち合わせ
 - ・12/5 3名で今後の打ち合わせ
学内広報とメンバー募集の説明会の開催を決定
 - ・1/19 リレー・フォー・ライフ・ジャパン茨城実行委員会にて学生についての打ち合わせ
 - ・2/10 1名新規加入
全メンバーでミーティング
説明会用のパワーポイント赤入れ
ビラ・ポスター制作
 - ・2/12 昼休み ビラ配り
4A204にて第一回説明会 (参加者1名)
 - ・2/13 GoodJobさんとミーティング
合同説明会の開催決定
 - ・2/20 3D305にて 第二回説明会を開催 (参加者3名)
 - ・3/2 リレー・フォー・ライフ・ジャパン茨城実行委員会にて学生についての打ち合わせ
 - ・3/5 医学群学群長に挨拶に行く (リレー・フォー・ライフ・ジャパン実行委員として)
 - ・3/10 つくば国際大学の学生とミーティング
 - ・3/16 リレー・フォー・ライフ・ジャパン茨城実行委員会にて学生についての打ち合わせ
 - ・3/14 茨城県立医療大学訪問
 - ・3/26 リレー・フォー・ライフ・ジャパン茨城実行委員会にて学生についての打ち合わせ
 - ・3/30 メンバーミーティング
新歓について

- ・ 4/3 リコシェさんミーティング
 - ・ 4/6 メンバーミーティング
リレー・フォー・ライフ・ジャパン茨城実行委員会にて学生についての打ち合わせ
 - ・ 4/9 GoodJobさんとミーティング
 - ・ 4/17 メンバーミーティング
 - ・ 4/18 単独新歓説明会（参加者1名）
 - ・ 4/20 リレー・フォー・ライフ・ジャパン茨城実行委員会にて学生についての打ち合わせ
 - ・ 4/24 合同説明会（参加者2名）
 - ・ 4/26 合同説明会（参加者2名）
- ・ 活動内容
- 主にメンバーを集めるために、学内でメンバー募集の説明会を開催した。あまり参加者はいなかった。
協力してくれるサークル団体に依頼メールを送信
Twitter・ブログなどを更新
途中で活動期限が切れたため、新規で申請

今後の課題

- 説明会の参加者が少なかった。
ビラ配りやポスター、Twitterでの広報を活発化したが、認知度が低くあまり成果が上がらなかった。
合同説明会はいい案だと思う。
私がリレー・フォー・ライフ・ジャパンの実行委員だったため、自分の仕事に忙しく、メンバーに全貌が伝わってなかった。

経験者からのメッセージ

友人の知り合いに広めてもらうとより知ってもらえる。知り合いの知り合いは他人だけど、かなり広がる。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントという形でメンバーは加入しませんでした。

T-ACTに関する感想

4月に新企画申請は、広報しづらかったので半年以上申請したら活動できるようにしてほしい

学類生のための研究交流Ⅱ (12051A)

T-ACT プランナー 小長谷 達郎 (生命環境学群生物学類4年)

活動内容

学類生と研究の関わりは多様である。各種のプログラムを利用して早くから研究活動を行う学類生も存在する一方で、3年生以下の学類生の多くは、研究活動になじみがないと思われる。ところが、どのような学類生であっても、多くの場合は卒業研究を行わなければならない。したがって、実際に自分で研究活動を行わないまでも、学類生の早い時期から研究に慣れ親しむことは有益であると考えられよう。

最近では、各種のサイエンスカフェやセミナーなどによって、学類生が研究内容を知る機会が増えてきたが、その多くは最新の研究内容を紹介するものである。最新の研究内容を知ることもちろん有益であるが、進路を悩む学類生がもっとも参考にできるのは、現在研究を行っている卒研究生・院生・教員がどのようにしてその研究にたどりついたのかということであると思う。そこで、この企画では、すでに研究を行っている学類生、院生、または教員を演者として招き、現在の研究にたどりついた道筋の紹介に重点をおきながら、研究分野そのものや現在の研究の紹介を行ってもらう場を用意したいと考えている。対象は主として学類生を想定し、参加者同士の交流も促進したい。

活動計画

参加者の募集 通年

研究交流会 毎週木曜日18:00~20:00 (途中入退場自由)、2D307教室 (予定)
(ただし、試験期間・休日を除く)

研究交流の主な内容は演者による話題提供と交流とする。

話題提供では、その週の担当者が5~15分程度で①自身が現在の研究に至った経緯、②研究分野紹介、③現在の研究紹介を行う。特に①を重視した発表を予定している。

活動期間

平成24年10月27日~25年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O : 川口美咲 (生物学類)、梶野瑞貴 (生物学類)、竹内優奈 (生物学類)、納谷典明 (生物学類)、仁戸部真生 (生物学類)、丹野昌博 (生物学類)、伊藤史紘 (生命環境科学研究科)、藏満司夢 (生命環境科学研究科)

P : 川勝望 (数理物質系)

活動報告

活動成果

・活動内容

本企画では、「知識のすそのを広げよう」をテーマに、学類生対象の研究交流会を週1回開催することを試みた。発表の演者には、学内の院生のほか教員を招いた。活動実績は以下の通りである。

第12回研究交流会 12月6日

第13回研究交流会 12月19日

第14回研究交流会 1月24日

第15回研究交流会 2月8日

第16回研究交流会 2月14日

第17回研究交流会 2月21日

また、週1回程度の間隔で適宜ミーティングを行なった。

・活動の詳細と成果

(1) 研究交流会の流れ

研究交流会は15分程度の発表会と75分程度の交流会によって構成した。発表会では、既に研究を始めている学類生や院生、教員を演者として招いた。この時の話題の中心は、研究分野の紹介や演者が現在の研究に辿り着いた経緯の紹介とし、学類生が自身の進路の参考にできるようにした。交流会は、直前の発表への質問から始まり、参加者が自由に話し合える場を想定した。お菓子や飲み物を用意し、堅苦しくない雰囲気を目指した。なお、研究交流会は通常18:30から開始した。

(2) スタッフの活動

オーガナイザーの主な活動は、週1回のミーティングと演者との連絡、研究交流会の準備と司会だった。ただし、できるだけ各個人の負担を小さくするように努めた。例えば、運営者マニュアルを作成し、演者との連絡や発表方法の指定、当日の運営などを規格化して、迷わずに行動できるようにした。

演者は、知人への依頼やAC入学者やARE(先導的研究者体験プログラム)参加学生への広報によって獲得した。

(3) 研究交流会の内容

今回は、全6回の研究交流会を実施した。1回の参加人数は、スタッフと演者を含めると最大15人だった。パーティシパントの数は25人だった。

・目標達成度

演者の所属は、生物、応理、工シス、知識であった。演者の所属は前期と同じ4学類であるが、開催数が少ないため、分野の生物学への偏りを若干改善することができた。

個々の研究交流会自体は前期と同様に好評であり、参加者からも「(発表が) ためになった、大変興味深かった」という評価が多数を占めた。一方で、参加者が少なく、ほとんどスタッフと演者だけになった回もあり、広報に課題が残ったといえる。

前期と異なり、毎回の研究交流会に参加するパーティシパントがみられた。しかしながら、ほとんどの参加者は自分の興味のある分野の発表だけに参加していた。異分野の参加者を取りこむためには、興味を誘う宣伝が必要であろう。

今回は教員による発表も行なった。教員は研究者として一定の成功をおさめていると考えられるので、その学生時代の過ごし方は参加者の参考になったと思われる。

今後の課題

既に述べたように、1回の研究交流会に参加者数はばらついており、参加者の著しく少ない回もあった。参加者数は天候や曜日によっても変わるが、より魅力的な宣伝と広報力の強化によってある程度増やすことができると思う。今回は、宣伝開始が前日になってしまったこともあり、改善すべき問題であるといえる。とくに異分野の参加者を取り込むためには、魅力的な宣伝とは何かを考えていく必要がある。

経験者からのメッセージ

意外と色々できてしまいます。何か秘めた計画があるのなら、一步踏み出してやってみるのもよいものです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

連続して参加したパーティシパントは少ないため、研究交流会がパーティシパントに与えた影響を評価するのは難しい。しかし、参加者は常に真剣に発表を聞いており、通常授業における講義よりも積極的な姿勢をみせていた。アンケートでも、ためになったという回答が多いので、参加者は何かしらの情報を得ていたようである。

T-ACT に関する感想

いつもお世話になっております。T-ACT からの支援に関してはほぼ満足しております。我々も掲示物を残してしまっているかもしれませんが、掲示板がよりきれいになったらと思います。

EXCHANGE ～海外体験～第3弾 (12056A)

T-ACT プランナー 加藤 遥平 (社会・国際学群国際総合学類4年)

活動内容

2011年度に、筑波大学では54カ国・地域の大学・機関と229協定が締結されており、研究者、学生交流を行っています。特に学生交流を含む協定は203協定あり、全部で629人分あります。しかし、その多くの協定枠が使われていない、その存在自体知られていないという状況にあります。大きな原因の一つは情報が公開されていないことにあります。

「知っていたら留学していたかも」「気付いたら、遅かった」

という学生達の声に代表されるように交換留学に関する情報は、一般の学生からはアクセスしづらい状況にあります。また交換留学に限らず、学生が海外でチャレンジする方法(私費留学、ワーキングホリデー、インターンシップ、世界一周など)はいくらでもありますが、大学を介していないため、まとまった情報は多くありません。つまり、海外に行くことを志した所から、さらに一歩二歩積極的に動かなければ、情報を入手できない状況にあります(入手出来たとしても、それが適切ではないために問題が生じる場合もあります)。

また海外でチャレンジする手段を決め、準備を進めていく上でも様々な障壁があります。特に交換留学は手続きが複雑で時間がかかる反面、全てのプロセスを理解している人が少なく、情報も公開されていないため、多くの人が何らかの形で必要以上に苦労しています。

チャレンジを終えた後も、海外生活経験者には多くの困難が待っています。交換留学なら互換手続き、休学をした学生は復学手続きが必要となります。就活や進学準備も周りの学生と比べ、遅く始めたり短い時間で取り組んだりする必要が出てきます。

こういった問題に対処するには、情報のストックと共有が必要だと思います。

そこで、浮かんだアイデアが、University of Tsukuba International Community (UTIC) というネットワークを作ることです。このネットワークを通じて経験者の知識・情報をストックし、海外でチャレンジする学生を応援します。また経験の共有を通じ、互いに学び刺激し合えるような、そんな環境を提供するのもUTICの目的の一つです。

2012年度上半期の活動を引き継ぎ、以下の活動を実施していきたいと思います。

- Facebook 上での情報の共有、交流イベントの開催
- 学期に1～2回の海外生活経験者報告会(海外生活体験フェア)
- OB・OGを招いて、海外渡航経験者のその後を話してもらう。
- 毎週1回のランチ会
- HP、ブログ、SNSを通じて上記の活動の広報

以上の活動を通じて、経験者と海外に行きたい学生の結びつきを強めていきたいと思います。また、今回はOB・OGを招いたイベントを企画したり、留学生と協力したりすることで、卒業生、留学生との結びつきを強めていきたいです。

具体的な目標は、2012年度の終わりまでにFacebook上の参加メンバーを現在の420人から、600人に増やしていくことです。

活動計画

・ミーティング

週1回(月曜日か木曜日)

・企画

11月8日 How To 海外チャレンジ

「交換留学」「私費留学」「海外インターン」「ワーキングホリデー」「旅」に焦点を当てて気になる渡航までの準備やお金など、海外生活を行うための“How to”をお教えします。

12月15日 卒業生を招き、海外チャレンジ経験者のその後のお話を共有。

12月中 ランチ会を1～2回実施。

1月～2月 海外生活体験フェアを一度、ランチ会を3回実施。

3月 年度末の締めくくりとして、交流会と活動報告会を実施。

活動期間

平成24年10月27日～25年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 荒川優(卒業生)、中本佳宏(生命環境科学研究科)、沖田翔吾(国際総合学類)、鎌田豪(比較文化学類)
建部祥世(日本語・日本文化学類) 藤田綾(国際総合学類)

P: 吉武博通(ビジネスサイエンス系)

活動報告

活動成果

- ・活動内容
 - 【ミーティング】
 - 週1回：月曜日か木曜日
 - 常時 Facebook のグループ上で情報交換。
 - 【開催イベント・企画】
 - ・10月21日～11月2日 カウンセリングウィークの実施
海外渡航に行きたい学生と経験者を UTIC が引き合わせて、個別相談を行った。
15名をカウンセリング
 - ・11月8日 How To 海外チャレンジ開催
これから海外に行きたい学生を対象に、経験者が渡航準備についてプレゼンテーション。40人参加。
 - ・12月15日 UTICx ぶりフォカフェ
在学中に海外経験を積んで、卒業したOBOGに海外経験がどう、今の仕事につながったのかプレゼンテーションをし、学生の疑問に答える。30人参加。
 - ・1月15日 グローバルつくばモデルミーティング
筑波大学の新しい取り組み、グローバルコモンズの内容と政策を提言するために、海外経験が豊富でチューター経験もある学生を集めて、ミーティングを実施。25人参加。
 - ・目標達成度
上半期やこれまでと比べて、より多様なイベントに取り組むことができた。
特にグローバルコモンズミーティングなど、大学と連携した取り組みも増えた。
 - ・得られた成果
 - ・Facebook グループのメンバー数が420人
(1年前から370人、今年4月から170人増加)。
 - ・4月から UTIC Website の運営開始。ブログ開始。
(ブログ更新時のアクセスは約100)

今後の課題

T-ACT の期限が切れるタイミングを忘れて、イベントの運営に支障が出てしまったので、次回からは切れ目無く運営できるように申請したいです。

経験者からのメッセージ

どの団体も年度内に一度は引き継ぎを迎えると思います。その前後の時期も活動が滞らないために、事前に計画をたてて準備をしておく事が大切です。

運営者側から見たパーティシパントの変化

「海外チャレンジ」に向けた具体的な準備のステップを参加者との対話を通じて、共有する事が出来たと思います。今後もこのような形で多くの学生に対する情報発信と、数をしばった学生に対する個別の対応の双方を組み合わせて、より手厚いサポートを実施していきたいと思っています。

T-ACT に関する感想

すでに企画されているかもしれませんが、4月に新入生や T-ACT を利用した事の無い2、3年生を対象に、説明会イベントを開くと良いと思います。

「エコステーション」活動に参加してみようⅢ～5秒でエコをはじめよう～(12058A)

T-ACT プランナー 本多 広樹 (生命環境学群地球学類4年)

活動内容

筑波大学を「エコキャンパス」に、つくばを「エコシティ」にしていくためには、学生・教職員問わず、学内構成員1人1人の心がけと活動の積み重ねと継続が必要です。1人でも多くの方に、「エコステーション」の存在に気づき、また活動に携わることで、自分たちの手で大学や地域を良くできることを実感してもらいたいと考えています。

今回の活動では、学内各所のごみ集積場にて集められているペットボトルのキャップとラベルを外す活動を行います。この活動を通し、リサイクルの質を向上させるとともに、分別の意識を普段の生活の中で持てるようになってもらいたいと考えています。

また、前回の「Ⅱ」では、第1エリア学群棟にキャップ回収箱を設置し、ポスターも掲示しました。今回の「Ⅲ」では、この活動を他のエリアにも広めていきたいと思えます。

活動計画

現在ペットボトルの回収を行っているリサイクル業者の回収に合わせ、毎週一回、学内各所の集積場にてペットボトルのキャップ・ラベル外しを行う。

活動場所は、2A棟裏エコステーションを予定するが、人数や分別状況により、変更もあり得る。

水曜日の放課後に作業→木曜日に業者が回収、を基本の流れとし、状況に応じて調整していく。

・活動時間は毎週水曜日18:15～19:15を予定。参加者の都合や業者側の事情に合わせ変更もあり得る。

・雨天の場合は活動を中止とする。

また、キャップ回収箱の設置・ポスターの掲示も行い、学生の意識向上を狙う。

活動期間

平成24年12月1日～25年5月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：今井優真（地球学類）、武田志帆（体育専門学群）

P：岩本浩二（企画室）、森澤壽幸（企画室）、草間久美子（企画室）、青木直美（企画室）

活動報告

活動成果

・活動内容

分別作業（全18回）

分別啓発ポスター・キャップ回収箱の設置

・目標達成度

目標達成にはほど遠いと言える。更なる活動が必要である。

・得られた成果

「Ⅱ」と比較すると、分別作業がよりスムーズに行えるようになった。

この要因としては、上述のポスター・キャップ回収箱の設置が考えられる。

今後の課題

更なる分別意識向上を図る。

経験者からのメッセージ

活動準備は早めに行う方が良いと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

本活動は、キャンパス利用者全員を対象にしていると言える。

この観点で本活動における「パーティシパント」の定義を考えると、活動（分別作業）に携わった者ではなく、キャンパス利用者全員が「パーティシパント」と思われる。

ポスター・キャップ回収箱の設置から日が浅いために、現時点で「変化」を考えるのは困難であるが、上述したように作業をスムーズに行うことができるようになった、つまり分別済みのペットボトルが以前より増えたことを踏まえれば、変化は徐々に表れてきていると言える。

T-ACT に関する感想

メールの配信システムがわかりづらい（どのメールが誰に届くか）ので、システム改善または説明（この連絡はこの人たちに届くようになっている、等）が欲しい。

「2012年度版課外活動白書」を作ろう！（12059A）

T-ACT プランナー 村松 遼太（人間総合科学研究科 M2）

活動内容

【1】「白書」とは？

「筑波大学課外活動白書」という冊子が毎年作られ、図書館に寄贈されているのをご存知でしょうか。

「筑波大学課外活動白書」は、文サ連・体育会・芸サ連・全代会などの役員経験者が、顔なじみだった縁で紫峰会に押しかけ、無理やり場所を提供していただいて作っていた、サークル活動に関する一年間のまとめ冊子です。

【2】「白書」の趣旨

大学入学時に配られる『課外活動紹介誌』の、サークル引退記念版を作ろう！という趣旨だと思ってください。

一年間、サークルの代表として取り組んできた思い出を書き残したり、集合写真の一枚を残したり、個人的な思い出話を寄稿したりする「タイムカプセル」のようになればいいと思っています。

今の学生生活を記録したり、各サークルの「〇〇年記念誌」の発行に役立ったり、大学への要望意見の収集や学生組織を通したサークル自助のための問題点収集になったりすることを目標としています。

【3】「白書」の範疇

図書館に寄贈されている2008年の白書を見る限り「白書」に記録されているサークルは、文サ連・体育会・芸サ連の加盟サークルだけです。しかし、「課外活動」とは正課（≒大学の授業）以外の活動のことです。文体芸に加盟していない学生サークルや草サークル、全代会や各学類誌編集部、文サ連などの執行部、各種 SNS で知り合った人同士で始まるイベント企画サークルなども含め、いわゆる「サークル活動」として幅広く記録したいと思っています。

【4】記録収集の方法

今までの「白書」の編集にあたって、文サ連などの学生組織を通じてサークルに寄稿依頼文を送っています。課外活動団体に対しては従来通り、文サ連・体育会・芸サ連を通して原稿依頼文を送りたいと思います。

学生団体や草サークルへ原稿依頼文を送り届けることは難しいので、原稿提出を受け付ける Web フォームを作り、各種 SNS を通じて呼びかけることで原稿依頼をしたいと思います。

【5】記録物の作成

冊子と DVD-R 等のメディアを作りたいと思います。これまでの白書は、紫峰会のお言葉に甘えてプリンターと製本機を利用させていただいてきました。今後の発行方法は、今はまだ検討中です。大学が、今後とも紫峰会の協力が得られれば幸いです。

【6】「白書」の最終目標

図書館に寄贈されていない、2004年、2010年、2012年の「白書」は今も OB 数名が発行に向けて作業中です。2012年の「白書」は発行に向けて動き出したばかりですが、今後毎年現役の学生で「白書」を作れるようになることが1つの目標です。

筑波大学の歴史を学生が記録した冊子『とりあえず十年史』というものがあります。当時の学生生活の赤裸々な記録から、大学の風刺コラムまで、筑波大学への愛が感じられる冊子です。将来作られるであろう『〇〇年史』の参考資料となることが目標です。

【7】T-ACT 申請経緯

現在、「白書」は存続の危機に瀕しています。東日本大震災で発刊が遅滞している内に、次年度からの新入編集メンバーを欠くことになり、今いる編集メンバーもほぼ全員が今年度で卒業してしまいます。そこで、敢えて従来以上の「白書」へと企画をボリュームアップし、T-ACT で編集メンバーを募集したいと思いました。

筑波大学の歴史の一端を自分たちで記録する——そんな趣旨に賛同してもらえる方の参加を期待しています。

活動計画

- 12月 編集方針「課外活動白書のあり方について」を検討・確認
課外活動団体へ原稿依頼文（ほぼ作成済み）を配布
学生団体等に向けた原稿受付フォーム（作成済み）をアップロード
- 1月～6月 原稿を受付け、暫時組版。
- 7月～8月 目次、表紙を作成し、製本。
附属図書館へ寄贈。

活動期間

平成24年12月1日～25年5月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：宮木祐任（システム情報工学研究科）、伊藤紘治（システム情報工学研究科）

P：矢澤真人（人文社会系）

活動報告

活動成果

- ・活動内容
- ・新入生歓迎祭推進委員会の Web ページには、若干の改良を加えていただき、一年間を振り返った感想文を、Web ページ管理者に宛てて書いていただけたようになった。

・活動期間

2011年12月	ミーティング。
2013年1月24日	ミーティング、新入生歓迎祭推進委員会と交渉。
2013年2月～	原稿回収のためのシステムをコーディング開始
2013年2月末	新入生歓迎祭推進委員会の Web システムに白書の原稿依頼回収機能を追加
2013年3月	ミーティング。システム上の不具合を修正。
2013年4月～5月	課外活動白書の「原稿」を受付。
2013年5月末	組版完了

・目標達成度

- ・新入生歓迎祭参加団体（210団体）からの活動情報の収集からは程遠い、150団体から情報を得た。
- ・特に回答を募りたかった「2012年度を振り返って」の感想は、210団体中4団体からしか得られなかった。
- ・得られた成果

『2012年度課外活動白書』として小冊子を作るだけの情報は得られた。組版が終わり、印刷・製本作業を残すのみとなっている（2013年6月8日現在）

今後の課題

事実上 T-ACT に登録しただけで、T-ACT のメリットを活用しないままに活動が終了してしまった。どのようなサポートが得られるのか事前によく確認していなかった。

経験者からのメッセージ

「今ある活動を T-ACT してみたい」そう思ったときには、よくよく T-ACT のスタッフの方と相談しましょう。自分たちだけで出来ること、自分たちだけではできないことの間を見極めることは大切です。

運営者側から見たパーティシパントの変化

T-ACT 化する前と変りなく、和気あいあいとミーティングをし、淡々と作業をしていました。2013年3月で以て2名を除き全員大学院を修了してしまいましたが、それ以外に特に変化は起こりませんでした。

T-ACT に関する感想

特にありません。

国を超えた語り場 Delta 第3弾 (12062A)

T-ACT プランナー 小川 玲 (社会・国際学群社会学類2年)

活動内容

価値観・言語・国境を越えて、語り合いたい。そんな風に思うことはありませんか？

大学内の国際交流団体は増えてきていますし、多様な人々と触れ合うチャンスは確かに多くなっています。しかし、挨拶程度の会話では、お互いの価値観を共有できませんし、毎回振り出しに戻ってしまいます。

そこで、Delta では、深く話し合いができるようなトピックを設け、日本語と英語両方でディスカッションする場を提供することにしました。留学生と日本人学生がお互いの言語をサポートするので、恥ずかしがらずに意見を言えます。

授業と違って言語能力や意見内容に評価はつきませんし、発言しなくては座って聞いているだけで充分ためになります。そんな魅力的な場を共有したいと思う方、コミットしてきてください！

【Our Vision】

①留学生と日本人学生に深い交流の場を提供する

→ジェンダー・国籍・文化的背景等の異なる、多様な人との出会いを通して、参加する人の視野や知見を広げる機会を提供します。

②留学生と日本人学生に、日本語と英語を使う機会を提供する。

→言語習得のトレーニングをする場、語学学習のモチベーションを高める場を提供します。

【コミットすることで得られるもの】

- ・コミュニケーション/ディスカッションスキル
- ・新しい視野、知見
- ・言語運用の機会
- ・人脈、人情 etc

【活動内容】

・毎週1回のセッション (木曜日18時30分~@中央図書館セミナールーム※時間・場所は変更の可能性有)

→日本語、英語それぞれの特定のトピックに関して、担当者が用意した新聞、web 記事や動画 (主に TED)、ディスカッションポイントを参考に意見交換をする

Usually when you go to international exchange parties and events, don't you feel like you haven't fully exchanged your deeper perspectives and cultural backgrounds?

At Delta, we offer an environment where people from different backgrounds get to know each other as individuals in depth through academic discussions - instead of just the usual 'hi, where are you from?' or 'oh, what are you studying?'

Discussions are done in English and Japanese respectively, so international and Japanese students have chances to both support and be supported on each other's language skills.

If you don't like speaking up, you are free to just listen and nod, because sometimes that is enough to widen your perspectives, language abilities and discussion skills. It is totally up to you how you want to participate. If you are even slightly intrigued by our activity, feel free to join us!

We offer you

-chances to get to know new people and broaden your perspectives

-chances to improve your speaking ability and communication skills for both languages

We have one session a week and discuss two topics previously selected from various materials (TED videos, articles from websites, newspapers etc).

After the session, we usually go for dinner! (sometimes for a drink!)

If you are interested, join our facebook group or send an e-mail to s1010277@u.tsukuba.ac.jp (Rei)

活動計画

11月~4月 従来通りの活動を継続

活動期間

平成24年11月11日~25年4月11日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 長谷川和臣 (システム情報工学研究科)、大久保晋之介 (知識情報・図書館学類)、北原佐保 (芸術専門学群)、内田りお (比較文化学類)

P: 生稲史彦 (システム情報系)

活動報告

活動成果

- ・活動内容
期間中毎週木曜日 18:30～20:00
毎回の参加者数10人～15人を達成することが出来た。

今後の課題

- ・困難
運営メンバー間の考え方の違いが原因で、上手く連携が取れていなかった。そのため、活動内容に工夫しきれず、活動内容が代わり映えせず新規参加者も少なくなっていた。そこで、運営メンバーで活動の目的や方向性を再度確認し、チームとしての一体感を醸成。活動の最初に、アイスブレイキングの時間を作る、参加者に参加意識を持ってもらうために、プレゼンテーションの担当を任せるなど、活動内容に工夫出来た。結果として、参加者数も安定し、新規に参加してくれる人も増えた。
- ・課題
認知度の向上→参加者数の増加

経験者からのメッセージ

自分の持っている問題意識をもとに、誰のためにどんな事をやりたいのか考えながら、是非行動に移してみてください！

運営者側から見たパーティシパントの変化

運営側で役割を分担したことにより、活動内容に工夫が生まれた。具体的には、活動の中でアイスブレイキングの時間を作ったり、イベント等を開催したりして参加者により楽しんでもらう工夫が出来た。また、参加者にもトピックの選定やプレゼンテーションの担当などを任せた事により、積極的にプレゼンテーションやディスカッションに参加してもらえるようになり、運営側に加わるメンバーも出てきた。

T-ACT に関する感想

特になし。

『コーチング講座』～プロコーチ岸英光が伝える、コミュニケーションの本質～(12069A)

T-ACT プランナー 矢田 晃一 (システム情報工学研究科1年)

活動内容

【活動目的】

私は、大学3年生の時に岸英光氏に会い、コーチングを学び始めました。私の解釈では、「コーチング」は人の能力、行動を引き出すセンスです。私は将来、教師になろうとしていますが、コーチングのセンスは、教育・スポーツ・ビジネス・その他あらゆる分野で活用することができると考えています。私は、コーチングを学んでみて良いことがたくさんあったので、自分の周りの友達や後輩たちにもコーチングに触れてみてほしいと考えています。こういった経緯で、今回の企画立案に至りました。

3年前から毎年冬に、プランナーが代わりながら岸英光氏の講座が筑波大学にて開かれて来ました。

今回は、初めて私がプランナー（主催者）として開催しようと思います。

【活動の概要】

プロコーチとして社会で活躍されている岸英光氏を講師として大学におよびして、コーチング講座を開催する。

【最終的な目標】

講座に関して

- ・ 講座参加者150名
- ・ 懇親会への参加70名

講座後に関して

- ・ 講座参加者が、なんでもいので具体的な挑戦、行動を起こす。
- ・ コーチングのセンスが学生の間に広まり、筑波大学が今以上にチャレンジングで面白い大学になる。

活動計画

11月 活動開始。

運営メンバー募集（12/12/20現在で運営メンバー10名）

11月～2月 週1回のミーティング、講座の具体的準備、講座の告知

2月6日(水) コーチング講座開催。懇親会開催。

2月上旬 メンバー全員で活動全体の振り返りを行い、報告書をまとめる。

2月下旬 活動完了。

活動期間

平成24年11月1日～25年2月28日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：下村理愛（教育研究科）、稲垣謙治郎（人間総合科学研究科）、宮坂造尚（国際総合学類）、木下由于（国際総合学類）、佐々木のののか（国際総合学類）、鮎川亮太（社会学類）、末永加奈（社会学類）、細矢智寛（教育研究科）、社会人メンバー：長田瞳

P：甲斐田直子（システム情報系）

活動報告

活動成果

- ・ 活動内容
- ・ ミーティング：12月から講座当日（2/6）まで週に1回程度
- ・ ポスター作成
- ・ 告知活動
- ・ 講師との打ち合わせ（メールベースで）
- ・ その他、ミーティング資料作り、教室を押さえるなどの事務作業
- 2/6 筑波大学3A301教室にて講座を開催
- 2/24 大学近くの喫茶店ランプにて、少人数でのお茶会（シェア会）を開催
- ・ 目標達成度

■講座に関する目標

参加者数の目標 120名

実際の参加者 75名

(内訳)

大学生 61名

社会人 11名

高校生 3名

(例年と比較して、大学生以外の割合が高かった。)

目標達成度 62.5%

■運営面に関しての目標

「チームメンバーが、講座づくりの過程で、

- ・得たいこと（結果）を得たり
- ・出来なかったことができるようになったり（成長）
- ・新しいことにチャレンジしたり

そんなチームにする。」

目標達成度を定量的に示すことはできませんが、新しいチャレンジをするメンバーが実際に現れたり、メンバーで集まった際に、自分の素を持ち出せる場が作れたりしたのは、今回の結果だと思っています。もちろん、もっとやれた、もっといいチームにできたという気持ちは、大いにあります。

- ・得られた成果
- ・参加者75名、講師料216,000円のイベントを開催できた。
- ・講座参加者のほとんど（9割程度）の人が、岸英光氏のコーチングの話をお聴くのが初めてだった。今まで岸氏のコーチングに触れたことのない人たちが、それに触れる機会を作れた。
- ・例年に比べ、大学生以外の参加者が多かった。地域の高校生も参加した。運営メンバーでは「筑波大学がもっと地域に開かれた大学になればいいよね」という話をしていたので、少し実現できた。
- ・コーチング的なコミュニケーションのあるチームを作れた。
- ・メンバーで集まる場が、自分の素を持ち出せる場にできた。
- ・自分も含め運営メンバーが、この講座運営を通して、自分の課題やパラダイムに向き合う機会になった。
- ・新しいことにチャレンジするメンバーが現れた。

今後の課題

今回の活動を通して、自分の課題がよく分かりました。

私は、人や自分を「信頼する」ということができません。これからそれを扱っていきたいと思います。

経験者からのメッセージ

実際にやってみて、わかること、感じることはたくさんありました。

今回も、この活動を終えてみて、それを思いました。

運営者側から見たパーティシパントの変化

これは、まだ分かりません。

T-ACT に関する感想

活動をサポートして下さいまして、ありがとうございました。

要望などは、特にないです。



● 楽演祭 music festival FOR players (12071A)

T-ACT プランナー 金井 伸也 (数理物質科学研究科 M2)

活動内容

音楽イベントは数多く存在するが、当然ながらその対象は音楽を聴く人に向いている。

私たちは音楽を演奏する人たちにに向けたイベントがあるべきだと思い、この「楽演祭」を企画する事に決めました。

詳細：

3月9日、筑波大第1エリア付近にて開催

・メインコンテンツ「大合奏」

参加者、スタッフ全員で1つの曲を演奏する

「パレード」

ペDESTリアンデッキ上をパレード

「演奏パズル」

簡単な曲をリズム、メロディー、ベースなどのセクションに分けて思い思いに演奏する

「音楽スキル運動会」

音楽に必要なスキル（スピード、音の高さ、音感など）を競う

※※※コンテンツ実行メンバー募集※※※

楽演祭では、コンテンツと一緒に実行してくれるメンバーを募集しています！

上に挙げたものの他にも続々とコンテンツを増やす予定ですので、あなたの力を貸してください！！

活動計画

12月 コンテンツ実行のための協力メンバー募集、コンテンツ案作成

1月 引き続きメンバー募集、コンテンツの具体化と決定、広報戦略の具体化

2月 広報本格始動、コンテンツの細部調整

事前イベントの実施

3月9日 本番

活動期間

平成24年12月28日～25年3月16日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：田中みさよ（人間総合科学研究科）、柳澤健太（比較文化学類）、川島夏海（知識情報図書館学類）、矢田晃一（システム情報工学研究科）、福田萌乃（教育学類）、新村麻実（生物資源学類）、田中健也（体育専門学群）、大脇聡史（芸術専門学群）、田原敬（人間総合科学研究科）

P：足立和隆（体育系）

活動報告

活動成果

・活動内容

11月13日 ミーティング

11月26日 ミーティング

12月6日 ミーティング

12月13日 ミーティング

1月7日 ミーティング

1月17日 ミーティング

1月23日 ラヂオつくば出演

1月24日 学生生活課と交渉、ミーティング

2月3日 ミーティング

2月12日 足立先生に企画説明

2月14日 会場予約

2月15日 ミーティング

2月21日 ミーティング

2月27日 ラヂオつくば出演

3月2日 ミーティング

3月3日 リハーサル

3月9日 設営

3月10日 イベント本番

3月17日 反省会

・目標達成度

50%

イベントの目標として、実施できるかどうか、人数が何人参加したか、を掲げた。

来場者数は目標に達する事はできなかった。しかし、実施した内容は滞りが無く、十分な出来だった。

・得られた成果

「演奏者のためのイベント」という、前例のない企画を実施し、来場者に満足を与えられた。今後もこのようなイベントが増えるきっかけを与えられた。

今後の課題

団体から借用した機材が入れ違いになったり紛失したりしたものもあった。全ての返却や弁償などは済んだが、今後続けるにはこういった管理をしっかりとしなければいけない。

また、来場者の人数が伸びなかった。企画の特異性から、参加に躊躇してしまいがちだったのが原因だと思われる。今後は実際に実施した様子を公開することで、来場者へイメージを与えることができる。

経験者からのメッセージ

今回、初めてプランナーとして企画を運営しました。

T-ACTとして企画を実行することは、新たな出会いや発見につながります。

途中で挫折しそうなきもありますが、仲間を信じて最後までやり遂げましょう。

熱意さえあれば、どんな企画も満足いく結果となるでしょう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

企画全体にわたって、人の入れ替わりが多かった。

一度参加した人を引き止めるように、企画自体の魅力伝えていければよかった。

T-ACT に関する感想

大久保先生と古谷さんには、親身になって相談に乗っていただき、とても感謝しています。何より、僕たちと同じ目線に立って企画を見てもらえたことが嬉しいです。



● 希死回生～自殺予防のための啓発活動～ No.4 (12073A)

T-ACT プランナー 高橋 あすみ (人間学群心理学類3年)

活動内容

プロジェクトの最終目標は、筑波大学の学生、教職員に、自殺に対する問題意識を持つ機会を提供し、自殺に対する誤解や偏見を減らすこと。そして、自殺志願者、自殺者を生まない大学環境づくりに貢献することである。

今まで1年間の活動を通して、組織としての課題（ミーティングの仕方の問題、自殺予防に関する知識不足など）や、個人としての活動への参加意義（活動を通して何がしたいか）などが明確になった。No.4では、それらを克服・実現していくために、「啓発活動」を軸にしながら、自殺予防や自殺問題について私たち希死回生自身も、深く学び考えられる活動を行いたい。

以下には、No.1申請時に掲載した企画立案の経緯を載せる。

日本は自殺大国である。自殺の問題は「年間自殺者数が3万人を超える」ということだけではない。自殺志願者への自殺対策は、自殺対策基本法が定められてから徐々に進められているが、自殺に関する誤解や偏見は社会に根付いたままである印象を受ける。

「死にたいなら死ねばいいんじゃないの？」と考える人は多いと思う。私も以前は「自殺はひとつの生き方なのでは？」「生きるのが辛い人に生きろというのは酷じゃないの？」と考えていた。しかし、『自殺未遂～「生きたい」と「死にたい」の心理学（高橋祥友、2004）』という本で、自殺は「さまざまな問題に圧倒され、『自殺』しか問題を解決する手段がないといった、いわば心理的視野狭窄の状態に追いやられた末に起こされた行動」という文面に衝撃を受けた。自殺はつまり、「死にたくて」死ぬのではないのだ。

実際、「死にたい」という思いを、「勝手に死ねばいい」「死にたいと言う人は自殺しない」などと言って見捨てたり突き放したりすることで、本当に失われる命が存在する。裏を返せば、専門的知識がなく何の術を持たない人でも、自殺志願者を理解し手を差し伸べるだけで、ひとつの命を救うことができるかもしれない。自殺対策は自殺の危険をはらんだ人や、それをサポートする専門家だけのものではない。自殺に関心のない人、自殺に嫌悪感のある人などが、自殺について正しい理解を持つことで、自殺志願者を排除する社会ではなく、支えられる社会にベクトルが向くのではないだろうか。

活動計画

[活動形式]

- ・活動内容は限定せずに、大きな目標を見据えながら小さな目標を立て、それに向かうように様々な活動を行いたい
- ・プランナーとオーガナイザーがサークル的に組織を動かし、パーティシパントが外から活動に参加できる形をとる予定

[現時点で実施を考えている活動内容]

- ・ワークショップ（勉強会、映画上映、ロールプレイング、カフェ etc...）
- ・外部の講演会・シンポジウムなどへの参加
- ・学生向け自殺予防のリーフレット作成
- ・大学教職員へのインタビュー企画
- ・HP や Twitter を用いた情報提供

活動期間

平成25年1月7日～25年6月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：金井雅仁（心理学類）、佐々木夕莉（心理学類）、岩岡寛海（障害科学類）、岡本雄太（医学類）
P：杉江征（人間系）、太刀川弘和（医学医療系）

活動報告

活動成果

- ・活動内容
- ・大きな活動実績

◎学生支援緊急ワークショップ（2013年2月16日）

「留年・休学生とのつながり」を考える医学系のワークショップに、パネラーとして参加した。1月中旬から週1回のミーティングで、プレゼンテーションの内容を決め、当日までにパワーポイント、配布資料の作成と発表練習を行った。

当日は、都合の合う3人のメンバーが参加し、提案したアイデアは大好評だったというフィードバックを受けた。今回はプランナー以外のメンバーが主導したこともあり、オーガナイザー・パーティシパントの貢献が非常に大きく、今まで以上にメンバーに達成感があったように思う。

◎七転び八起き～心と体のセルフケア～（2013年7月5日）

最近疲れ気味、とかやる気が出ない、という人へ向けて初めてイベントを企画した。3月から準備を始め、週1度のミーティングで、テーマから対象者、内容、広報のやり方まで、今までの活動の経験を生かして計画ができた。パートナーの先生のつながりから、体育の先生に講師をお願いし、無事にイベントを開催することができた。参加人数は目標には届かなかったが、会自体は来場者の満足度も非常に高かったことがアンケートよりわかった。また、時間が足りないくらい盛り上がり、来場者の方に新たなつながりを作ることができたので、イベントは大成功だったといえる。

◎そのほか

3月までに、外部の自殺予防講演会への参加も2回行った。T-ACT イベント（新歓・活動報告会）で、外へ向けて活動内容を発信する機会も得た。また、そのようなイベント時など公へ出るときは、必ず自殺予防啓発用の資料を配布したり、設置したりして啓発活動も行った。

・目標達成度

今回は、啓発活動を柱に、私たち自身も学びとなる活動を…という目標だったが、実際に一からイベントを企画、実施したのは初めてだったので、実務的な面で非常に勉強になった。啓発活動自体は、今回はイベントに付随する形でしかできず、今回自主的・積極的には実施できなかった（電子掲示板のスライドを作成途中ではあったが）、誤解と偏見の解消という目標にはあまり近づけなかった。しかし、今までと異なり外部に開けた活動ができたので、目標達成度は85点としたい。

・得られた成果

イベント開催までの段取りを一通り終えたこと。今後のイベント開催が前よりスムーズにできるようになるだろう。また、外部のイベントに多く参加したことで、いろんな人とつながりを作ることができ、自殺予防について取り組んでいる学生団体があるのを知ってもらうことができた。

今後の課題

今回ミーティングを週1で行っていたが、少ないときは参加者が2人になるなど、出席率があまりよくなかった。所属が様々なメンバーの予定が合う日がなかなかなく、オンライン上でファイル共有、意見交換をできるよう努力をしたが、なかなか実らなかった。したがって、実働は3人ほどで回す形となっていた。人手不足とは感じないが、どうしたら所属メンバーを動機付けられるかが課題と感じている。

経験者からのメッセージ

イベントを開くには、やはり広報に1か月ほどの時間を割くべき。活動を始めるためにメンバーを集めるときも、同じくらいの時間が必要だと思う。今回私たちは初めてだったこともあって、教室の借り方などがいまいちわからず、結果的に開催日時と場所が決められずに広報も後ろへのびてしまった。何事も必要だと思う時間の倍の時間をとって、入念に進めるとうまくいく！

運営者側から見たパーティシパントの変化

関わるときに関わってください、と受け身では、なかなか参加してもらえなかったという印象だった。仕事を思い切って振ってしまったときは、やる気を持って取り組んでくれたが、個々の忙しさなどもあったのか、今回は全体としては活動にあまり参加してもらえなかったと感じる。

T-ACT に関する感想

T-ACT システムでシステムに登録している人にイベント参加者募集のメールを300件ほど送ったが、50件ほど送れずに返ってきた。送れないメールアドレスはシステムから削除するなどしてほしい。

七転び八起き ここからだのセルフケア～

7/5 (金)
18:30~20:30
3A301

“最近疲れて元気が出ない”
“なんだか落ち込みやすい”
こんなことで困ってる人はいませんか？
心理学の先生に教わるリラクゼーションで
ココロとカラダをすっきりさせましょう！
リラクゼーション実践のあとは
交流会（自由参加）も行います〇
お茶菓子をご用意していますので
お気軽にご参加ください♪



元気あげる！

講師：坂入洋右教授
(体育系・臨床心理士)

学群学類生、院生、研究生問いません！30人先着順、参加は無料です！
人数把握のため申込制となっていますので、少しでも興味をお持ちの方は、
下記の連絡先までお気軽にご連絡ください〇

承認番号：12073A

T-ACT
つくばアクションプロジェクト

希死回生～自殺予防のための啓発活動～

プランナー：高橋あすみ（心理3年）




【連絡先】 kishikaisei3h@gmail.com
【HP】 <http://kishikaiseiaction.web.fc2.com/>
【T-ACT】 <https://www.t-act.tsukuba.ac.jp/tact/project/show/397>

活動内容

筆者は今年の春から教員になる。大学3年のころから教員に向けた学習をしてきたが、振り返って明らかに言えることは1人では絶対に合格することはなかったということである。しかし、筑波大学では教員志望の人のつながりが少ない。そこで教員志望の人同士をつなげられる仕組み・場所が必要だと常々感じていた。

その場として授業研究を行う会を企画したい。「教材研究」や「授業研究 (Lesson Study)」は日本の教師の修練の方法のひとつといえる。その成果は国際的にも認められ、授業研究をすることで教員としての資質を高めることができるといえよう。よりよい教員を目指すことにより、教員採用という目標を達成すべきと考えている。

学生主体で勉強会を行うものや、T-ACTでも教育系の活動は散見される。それでも本企画を行いたいと考えるのは、これは自らの反省でもあるが、それらは教員になるための勉強会が多く、教員になることがゴールになっているからである。また個人的に授業研究をやってみても、友人同士ということも作用し、どうしてもマンネリ化や批判を受け入れる体制がなくなってしまうことがある。T-ACTで行うことにより異なる教科・学類からも意見がもらえ、T-ACTという名前を持って行えば外部の講師を呼ぶことにもつながるのではないかと期待している。

最終的な目標は、本企画が大学にも認められ支援していただくと共に、教員志望の後輩たちが本企画を活用し続けていくことである。授業研究という活動が、教員養成の一つの在り方を示すことを期待する。最終的な目標は、本企画が大学にも認められ支援していただくと共に、教員志望の後輩たちが本企画を活用し続けていくことである。

活動計画

2月～3月 活動開始

メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る

授業研究のオリエンテーションを行う。

模擬授業研究会を始める。

茗溪会や教員免許状更新講習推進室と打ち合わせ。

担当していない学生は教材研究を進める。

人数が増え次第、各教科でのユニットを作成。

メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。

プランナー卒業の為、引き継ぎ事項を作成。メンバーである遠藤氏に代表を引き継ぎ予定。

活動期間

平成25年2月6日～25年3月25日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：成井暢宏 (比較・文化学類)、三浦耕平 (図書館情報学類)、樋口雄一 (社会工学類)、遠藤勇樹 (物理学類)

P：市毛栄 (教員免許状更新講習推進室)

活動報告

活動成果

・活動内容

2月6日 キックオフミーティング

2月16日 高校国語科授業研究 (授業者：成井)

2月24日 中学校数学科授業研究 (授業者：松本) →私用により中止

3月2日 高校数学科授業研究 (授業者：樋口)

3月10日 中学校数学科授業研究 (授業者：松本)

3月18日 高校数学科授業研究 (授業者：三浦) →参加者が少なかつたためゼミ形式の発表

・目標達成度

本活動は「継続」を念頭に置いている。それについては十分に成果を残せたと言える。本活動は主に実際にメンバーと顔を合わせて開催する授業研究会を開催することと、インターネット (Google アカウント及び Dropbox) でのオンラインストレージを活用) によって授業案の保存や顧問による添削、そして広報活動が主な活動内容であった。春から運営しやすく、また授業をしやすいように、たたき台を作った2ヶ月間だった。

授業研究会の質、授業案の保存、会場の確保、広報活動 (人数) が「継続」にあたり大きな課題であるといえる。質については、筆者が今までに参加した様々な小・中・高校の授業研究会の形式を踏襲したり、4回の研究会の中で授業者に活動改善のためにどうすべきかなどを文章にでもったりするなどの活動を行った。授業案の保存についてはオンラインストレージを活用した。会場の確保については第2学群にある教室部屋をT-ACTの

名前で借りさせて頂いている。人数についても現段階では10名程度のメンバーがおり、教科に応じて人が来るようになっている。運営のハウツーも引き継ぎ済みであり、エネルギーのある新3年生を代表に据え、大学院に進むメンバーをお目付け役として置いた。以上から「継続」という点で、本活動は十分に目的を達成したといえよう。

しかし、まだまだ改善の余地はある。質はもっと改善せねばならない上、人数ももっともっと確保したいところである。人数が増えれば、回数も増え、本活動が教員養成という観点で価値あるものになることを期待している。期待を込めて活動達成度を80%としておく。

・得られた成果

この2ヶ月では、授業は来年から教師になる3人、進学する1人が行った。来年から授業をするという不安を払拭することが少なくともでき、また新しく教採を受けるメンバーが先輩から教採についてざっくばらんに話せていたことも良い副産物であった。このことからわかるとおり、同じ志を持つものが顔を合わせるだけで良い化学反応が起きるものであり、言及できない範囲で良い成果があったといえよう。

今後の課題

人数の確保が喫緊の課題である。既に開催には十分な人数が揃っているが、問題意識である「教員志望同士が集まる場がない」ということを解決するためにも、より人数を集め、広報活動に努めて行かねばならないと感じている。たたき台であったとはいえ広報を十分にできなかったことが反省といえよう。

経験者からのメッセージ

- ・プランナーの努力だけでどうにかするのはなく、責任の分担を！
- ・自分にも、メンバーにも、メ切で拘束力を！
- ・この活動に何の価値があるかをメンバーにもしっかり知ってもらうこと！

運営者側から見たパーティシパントの変化

変化した。具体的には「自分だったらどうするか」という意見が討議中に増えたような気がしている。

T-ACT に関する感想

特にありません。いつもありがとうございます。紙を多く使う本活動には最適の支援です。本当に大満足です。

つくバグ 2013 ～子どもたちと生き物をつなぐ自然体験教室～ (12082A)

T-ACT プランナー 藏満 司夢 (生命環境学群生物学類4年)

活動内容

子どもたちにとって身近な地域に棲む生き物と触れ合う機会というのは、環境への意識を高めるために必要な経験であるといえる。「昆虫採集」は古くから少年少女の多くが経験する遊びであり、自然との貴重な触れ合いの場であった。しかし最近の子どもたちにとって昆虫採集は以前ほど身近なものではなくなりつつある。その原因として、人間活動によって自然そのものが少なくなっていることが指摘されているが、昆虫採集を経験した大人が少ないために子ども達にその機会やきっかけが与えられていないことも原因のひとつである。

子どもたちにとって「自然を体感する」ことは、彼らが環境問題や生物多様性問題を考えるために必要不可欠な経験である。自然を直接体感できる活動として昆虫採集が挙げられる。そこで私たちは2010年につくバグという団体を組織し、昆虫採集を通じた体験型の環境教育活動を行ってきた。この活動を継続することで、私たちは地域の子どもたちに自然との触れ合いの場を提供したい。この活動の最終目標は、子どもたちが昆虫採集を通して自然に対する興味や知識を獲得することと、将来の日本の環境問題を考えていくことのできる人材を育成することにある。

これらを踏まえ、2013年度にはこれまでに行ってきたことを柱としながら、これまでに行っていない新たな視点からの観察教室を行うことでリピーターにも新鮮な体験を提供する予定である。

活動計画

- 4月1日 活動開始
- 4月1-20日 メンバーを集め、春の観察教室に向けた準備を始める
- 4月21日 春の昆虫観察教室
- 4月22日 春の昆虫観察教室の反省を行う
- 4月22日-7月 夏の観察教室に向けた準備を始める
- 8月(仮) 夏の昆虫観察教室
- 8-9月 反省会を行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成25年4月1日～25年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：小嶋佑果 (生物学類)、高原朗 (生物学類)、戸祭森彦 (生物学類)、長澤亮 (生物学類)、井戸川直人 (生物学類)、矢野更紗 (生物学類)、佐藤深怜 (生物資源学類)、小長谷達郎 (生命環境科学研究科)、徳嶋賀彰 (生命環境科学研究科)、太田あずさ (生命環境科学研究科)、中村篤史 (生命環境科学研究科)、上原拓也 (生命環境科学研究科) 山口芽衣 (生命環境科学研究科)

P：本田洋

活動報告

活動成果

・活動内容

実施した活動内容

春の自然観察会：5月、悪天候中止

夜の自然観察会：8月

秋の昆虫展：11月

日本生物教育学会での活動報告：1月

今年度は新しい取り組みとして初めて夜の昆虫観察会を行った。発電機と蛍光灯、ブラックライトを用いて昆虫を集めて観察したほか、夜の樹液に集まる昆虫を観察した。昼間には見られない種類の昆虫や、夜間特有の行動を子どもたちに見てもらえたことは、昆虫をよく知る我々学生だからこそ提供できた機会であるといえよう。

秋には学園祭において昆虫展を開催し、子どもたちに限らず一般の方や学生にも地域の自然の多様性を体感してもらおうべく、昆虫の生体や標本、生体写真等の展示を行ったほか、つくバグの活動についても報告を行った。結果的に2,000名を超



える参加者にご来場いただきました。学園祭の来場者投票によって学術研究企画の最高賞に選出されたことは、我々の企画が来場者に多少の印象を残したことを示している。

また、1月に筑波大学で行われた日本生物教育学会 第96回全国大会研究発表会では、『大学生による昆虫を題材とした体験型の環境教育』というタイトルで活動報告を行った。我々は自身の活動を、学生による環境教育活動のモデルケースに成り得るものだと考えている。そのため我々の活動を外部に広く発信することを心がけているが、今回の報告はその一環として大きな役割を果たしたといえる。

さらに、今年度は従来のメンバーに加えて3名の新規学生スタッフが増えた。このことは我々の活動の持続性を担保すると同時に、つくバグに新たなアイデアと活力をもたらした。今後新規メンバーのさらなる活躍が期待される。

今後の課題

順風満帆。細かなトラブルや失敗は枚挙に暇がないが、それらに冷静に対処し、最善の方向に事を運べた事実が大いに評価できる。その原因はひとえにスタッフ間の意思疎通の充実と信頼関係の構築に成功したことにあるだろう。

経験者からのメッセージ

とりあえずやってみよう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

最低限のルールの中で最大限に個性を発揮してみんなキラキラしていた。

T-ACT に関する感想

物品置き場が欲しい！

つくバグ春の昆虫観察
はるバグ

探そうよ! 春のむし

対象: 小学4年生~中学3年生
内容: 自然観察・昆虫採集・スケッチ
日時: 4月21日(日) 10時~16時 場所: 筑波大学
定員: 30名 参加費: 500円 申込〆切: 4月12日
応募方法: 公式サイト専用フォームからの登録, または
下記アドレスへ名前・学年・住所・電話番号をお送りください。
問い合わせ: tsukubug@agbi.tsukuba.ac.jp
公式サイト: <http://www.agbi.tsukuba.ac.jp/~tsukubug/>
(専用フォームへはこちらのページから)

つくバグ公式サイト

※つくバグは筑波大学社会貢献プロジェクトの支援を受け運営しております。

教育実習事前シェア会 (12084A)

T-ACT プランナー 谷地 繭 (生命環境学群地球学類4年)

活動内容

シェア会の目的は、これから教育実習に行く学生が、すでに教育実習に行った人や同じように教育実習に行く人と交流する場を作ることです。このイベントに参加することで、これから実習に行く人が、実習までにどんな準備が必要か、実習をどんな3週間にしたいのかを考えたり、不安を少しでも軽くしたりするきっかけになればよいと考えます。

私は昨年、教育実習事前シェア会にパーティシパントとして参加しました。実習経験者の実習中の1日の流れ、力を入れたこと、悩み、指導教官や他の実習生に指摘されたことなどを聞きました。直接、経験者とお話をしながら実際の経験談を伺って、それまで漠然といていた教育実習中の自分の姿をそれまでより具体的に想像できるようになりました。

また、実習を控えた他の学生も自分と同じような不安を感じていることや、すでに実習した先輩方も、同じような気持ちだったと知りました。失敗してもいいんだと思うと、励まされた気もしました。

私は去年、教育実習前にシェア会に参加して本当によかったと思っています。今年教育実習に行く人たちにも、事前に経験者から教育実習の様子を聞く機会を作りたいと思い企画することにしました。シェア会に参加して、自分と同じように教師を目指すたくさんの筑波大生と知り合えました。その人たちとは、今も交流が続いています。このように、このイベントに参加することで、筑波大生の教職のつながりが広がればよいとも考えています。

活動計画

- 3月中旬 活動開始
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 3月22日 ビラを完成させる
- 3月27日 教育実習事前指導で宣伝、ビラ配布
- 4月～ 当日のイベント内容をつめる
イベントに参加してくれる教育実習経験者を募集
- 4月19日 教育実習事前シェア会 当日
- 4月下旬 活動終了、活動報告書をまとめる

活動期間

平成25年3月13日～25年4月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：酒井一樹（物理学類）、三浦耕平（知識情報・図書館学類）、平田実（教育研究科）、狩野悠也（教育研究科）、大澤明梨（教育研究科）、久保園梓（教育研究科）
P：八反地剛（生命環境系）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 3月2日 活動開始。何から決めなければならないか、1人のオーガナイザーと話し合い。その後、メンバーを集めた。
- 3月7日 ミーティング（主にシェア会の目的意識の共有。去年のシェア会の振り返り。）
- 3月12日 ミーティング
- 3月18日 ミーティング（イベント当日のタイムテーブル決定）
- 3月20日 ミーティング
- 3月22日 宣伝用のビラ完成。
- 3月26日 ビラの印刷
- 3月27日 教育実習事前指導で宣伝、ビラ配布
- 4月～ 当日のイベント内容をつめる
イベントに参加してくれる教育実習経験者を募集
- 4月7日～ 教育実習経験者の募集、実習経験者に「これから実習に行く人に最も伝えたいこと」の原稿依頼。
- 4月11日 ミーティング（今後の予定確認「資料印刷、リハーサルについて」、オーガナイザーで当日の流れを最終決定）
- 4月18日 リハーサル（教育実習経験者として参加してくれる人も交えて、当日の流れの確認）
- 4月19日 配布資料印刷、物品準備、教育実習事前シェア会本番

アンケートの集計
4月25日 振り返りミーティング

・目標達成度

大成功だったと思う。振り返りミーティングの際に、プランナーとオーガナイザーみんながそう認識していることが分かった。参加者が、教育実習に関する話題ですごく盛り上がっていた。参加者から「参加してよかった」という感想をもらった。

・得られた成果

参加者から「参加してよかった」という感想を聞いたこと。

筑波大学の教職をとっている人のつながりを作れたこと。

今後の課題

仕事を、オーガナイザー全員に割り振ること。

オーガナイザーに比べて、プランナーが仕事を抱え込みすぎた。

プランナーがもっと意識的に、他のメンバーに仕事を振るべきだった。

準備期間が短く、全体的にバタバタしていたこと。

例えば、イベントのポスターを掲示したのが、イベントの直前だった。

経験者からのメッセージ

このイベントを企画すると決めたときに、去年のシェア会のプランナーに「失敗してもいいんだよ」という言葉をかけてもらった。これからプランナーになる方々にも同じ言葉をおくりたい。一緒に企画してくれるオーガナイザーの存在が、とても心強い。

運営者側から見たパーティシパントの変化

「先輩方のように、いい実習をしてきます！」という感想を残してくれた参加者がいた。

「私も実習頑張ろう」と多くのパーティシパントが思ってくれたのではないかと思う。

また、実習経験者の参加者からも、「自分の実習の経験を活かしてよかった」という感想をもらった。実習経験者にも、自分の実習を振り返る良い機会になったのではないかと思う。

T-ACT に関する感想

T-ACT フォーラムに何度も行って、相談にのってもらいました。

ありがとうございました。

よりよい失敗をするために...

教育実習 シェア会

2012年4月20日(金)

開場 18:15 (18:30 - 20:00)

@ 5C301

「もうすぐ教育実習だけど、まだ全然イメージ湧いてない。」

「実際に準備すればいいの?」

そんな事を考えている人もいると思います。

一方で、教育実習に行って、進路が変わった人がいる。

コテンパンにされた人がいる。楽しかったという人がいる。

そんな自分の経験をみんなと話したいという人がいる。

これから教育実習に行く人と、実際に体験した人を繋ぐ場を作ることになりました。
実習に行く前の準備として、このイベントを使ってください。

【教育実習シェア会の内容】

第一部：全体シェア会

計3名の体験者が、事前準備、書類関係などの基本的なものをはじめ、実習中の心構えや失敗談をお話します。

第二部：少人数シェア会

実習経験者と参加者の皆さんでグループを作り、不安に思っていることを質問したり、実習を控える仲間との意見交換をしたりしましょう。

(第三部)：百香亭での懇親会を予定しています(参加費1000円程度)。

【お問い合わせ】教育実習シェア会運営メンバー代表 下村理愛(教育研究科1年) rinas0915@gmail.com

T-ACT

つくばアクションプロジェクト

※T-act 承認

No.11083A

「結」応援プロジェクト ―筑波大学から宇宙へ― Vol.1 (12087A)

T-ACT プランナー 鈴木 裕行 (数理物質科学研究科 M1)

活動内容

昨年は金環日食や漫画「宇宙兄弟」の映画化など、「宇宙」がよりたくさんの人々に広まった一年であり、今や「宇宙ブーム」になりつつある。その中、現在筑波大学では「結」プロジェクトという小型人工衛星の開発を行っているプロジェクトがある。彼らが開発している人工衛星「結」は2013年度の打ち上げが決定していて、打上までもう1年をきっている状態である。しかし、筑波大学で開発されたものがロケットに乗って宇宙へいくというのに筑波大生でそのことを知る人はあまりいないようで、周知度がとても低い状態である。

そこで本アクションでは筑波大学から初めて宇宙へ旅立つ小型人工衛星「結」をたくさんの人に知ってもらうことを目標に置く。様々な方法で学生間での「結」の周知度を上げていき、打ち上げ当日には大学会館にたくさんの人を集め、種子島と中継をつないで打ち上げのパブリックビューイングを行う事を目指す。また、この盛り上がりや機会に学生の多くが宇宙に興味を持ってもらったり、筑波大学の名を背負って活躍したいと思うきっかけになってくれたりすればと願っている。

また、大学の広報やつくば市とも連携をとっていき、地域に何かしら貢献、還元できるような事を考えていきたい。

活動計画

＜恒常的な広報活動＞

電子掲示板、ポスター掲示による広報で継続的に結プロジェクトの広報を行う。

＜単発的な広報活動＞

- ・ 結の情報をピラに載せて配る。
- ・ 現在公募中の結キャラやアプリの選定披露イベントの情報配信
- ・ 結や宇宙に関する周知度のアンケート調査

＜最終イベント＞

大学会館にて人工衛星の打ち上げのパブリックビューイングを行い、我々の大学の名を背負った人工衛星が宇宙へ打ち上がる瞬間をたくさんの方の学生と共有し2013年度一番の盛り上がり促す。

その他、結の普及に関するアイデアを模索し、次々に実行に移していく。

※1年間のプロジェクトになると思われるので Vol.1 と称した。

活動期間

平成25年3月26日～25年9月26日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：藤原広太（工学システム学類）、河崎優香（芸術専門学群）、五十嵐恭平（社会工学類）、千葉希望（地球学類）、
保田敦司（物理学類）、齋藤陽介（工学システム学類）

P：亀田敏弘（システム情報系）、逢坂卓郎（芸術系特命教授）

活動報告

活動成果

・ 活動内容

筑波大衛星プロジェクトである「結」プロジェクトの広報の支援を行った。

・ 「結」応援キャラクターとコミュニケーションアプリのアイデア公募の発案

→ 多くの人に「結」を知ってもらうこととたくさんの方からアイデアを頂く。(最終的には大学の広報室が動いて下さった)

・ 学内に横断幕設置。

→ 学内周知度はこれによって格段に上がった。

・ 4月21日科学技術週間にて「結」関連の展示。

・ サイエンスカフェの実施。参加者とコミュニケーションアプリのアイデアを考える。

・ 宇宙芸術コミュニティ beyond とのコラボでワークショップを開催

・ つくばサイエンスインフォメーションセンターに「結」コーナーの設置。

・ ポスターを作成し、ハムフェア・祭りつくばにて広報。

・ Facebook ページの開設。

・ ラヂオつくばの番組に出演し、「結」のアピール。

・ メンバーの募集。

今後の課題

反省点

- ・メンバーがあまり集まらなかったこと
 - ・学外の周知度が挙げられなかったこと。
- これらの反省点を活かして今後の活動につなげていきたい。

経験者からのメッセージ

活動を Vol.2でまだ続けるつもりなので、ご協力を！

運営者側から見たパーティシパントの変化

今回は T-ACT のネットワークを用いて協力してくれる人を募った。意欲的に参加してくれて助かった。

T-ACT に関する感想

特に無し。



承認番号
12087A

「結」応援プロジェクト メンバー募集！！

★「結」応援プロジェクトとは？

筑波大学では現在、人工衛星「結」の開発が進められています。「結」は2013年度末に筑波大学の名を背負って宇宙へ放立ちます。我々「結」応援プロジェクトは、筑波大学発の人工衛星が今年度末に打ち上げられるということを筑波大学在学やつくば市民を初め、より多くの人々に伝え、「結」プロジェクトを外からたくさんの人で応援するプロジェクトです。

大学の名前を背負って活躍するスポーツ選手を応援団が応援するように、宇宙へ放立つ「結」を皆さんで応援しませんか？



★プロジェクトメンバー募集！！

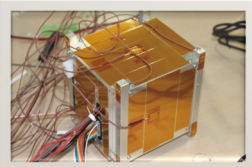
活動を共にしてくれるメンバー(オーガナイザー)を探しています！特に以下の人材を募集中です！

- ・ スマホなどの **アプリケーション** が作れる人
- ・ **webデザイン** が得意な人
- ・ **動画作成** が得意な人
- ・ **広報能力** に秀でている人
- ・ **ポスター作成** が得意な人
- ・ 筑波大学を誇りに思っている人
- ・ **宇宙** が好きな人
- ・ **教育活動** に興味がある人

※オーガナイザーとしては活動を共に出来ないけど、イベントに参加したりして応援したいという人は T-ACT のHPより「パーティシパント」の登録をお願いします。

★活動内容

- 恒常的な広報**
 - ・ 電子掲示板での宣伝
 - ・ ポスター掲示
 - ・ ビラ配り
 - ・ Twitter/Facebookでの広報
- 不定期な広報**
 - ・ つくば市/JAXAと連携した広報
 - ・ つくば市の広報誌への記事掲載
- イベント(予定)**
 - ・ キャラ/アプリケーションお披露目イベント
 - ・ 打ち上げパブリックビューイング@大学会館



連絡先(プランナー)

数理物質科学研究科M2 鈴木 裕行
E-mail : piroyuki.orz@gmail.com

筑波大学人工衛星「結」応援プロジェクト

筑波大学にて開発されているネットワーク衛星「結」の応援・広報活動を行うプロジェクトです。

人工衛星「結」(ゆい)とは？

筑波大学が開発を進めている小型人工衛星「ITF-1」の愛称です。「結」は、誰もが簡単に衛星信号を受信・報告でき、衛星と受信者だけではなく、世界中の受信者同士をつなぐネットワークをつくることを目指しています。

平成 25 年度末打ち上げ予定 !!

「結」応援プロジェクトについて
結ネットワーク構築を応援する有志の学生たちによるプロジェクトです。

※コアメンバー募集！！
…応援プロジェクトではコアメンバーを募集しています。結を世界中、日本中に広く広報するために協力して下さる方を募集しています！

Find us on Facebook
Facebook ページでは、「結」を中心に、宇宙に関するさまざまな記事を配信していきます。
ぜひいいね！やシェアをお願いします。
<https://www.facebook.com/yui-supporters.jp>

連絡先
筑波大学数理物質科学研究科 M2 鈴木裕行 E-mail : piroyuki.orz@gmail.com

一緒に人工衛星「結」を応援しませんか!?

● Young Americans Asian Tour 2013 in Tsukuba に参加しよう! (13001A)

T-ACT プランナー 篠原 華子 (人文社会科学研究科 D1)

活動内容

2013年6月28日～30日にかけて、世界22カ国以上で児童生徒及び大学生を対象にしたアウトリーチ活動(出張授業)を行っている「ヤングアメリカンズ」が筑波大学にきます。ヤングアメリカンズが行う音楽と英語を合わせた3日間のワークショップでは、近隣の小・中・高生と外国人キャストと触れ合う機会が設けられます。このワークショップは、自分の心を開いて表現することの喜びを体感するとともに、多様性、創造性を学びきっかけとなることを目的に開催されるものです。よって、このワークショップに参加することによって、外国語や外国の文化への理解を深めるとともに、文化や年齢が異なる人とも心を通い合わせることができるようなコミュニケーション能力を身につけ、社会に求められるグローバル人材に近づけるよう成長することを目標とします。

活動計画

- 3月～4月 参加者募集の方向性、活動内容を決定
筑波大学内で参加者を募る活動に協力してくれる人も参加者と同時に募集
- 4月～6月 ヤングアメリカンズのワークショップ参加者募集、広報活動
ポスターやチラシでのワークショップ告知
ワークショップ参加のための説明会開催
- 6月28日～30日 ワークショップに参加

活動期間

平成25年3月21日～25年6月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 塩澤彩香(心理学類)、山下裕之(心理学類)、矢田晃一(システム情報工学研究科)、三好さやか(教育研究科)
P: 新津勝二(附属学校教育局次長)

活動報告

活動成果

・活動内容

- ①ワークショップ参加学生40名の募集
- ②ヤングアメリカンズ交流会の企画
- ③ヤングアメリカンズ展示会の企画
- ④ヤングアメリカンズについての説明会の開催
- ⑤イベント広報

・目標達成度

- ①ワークショップ参加の40名は、応募日当日、しっかりと集められたので良かった。
- ②ヤングアメリカンズ交流会の企画

ワークショップが始まるまえに、大学生とヤングアメリカンズの交流会の企画を行なった。0からの企画で始まったが、職員さん、石隈先生、ベントン先生など、学生以外のかたも一緒に楽しめる企画を行なうことができた。

ヤングアメリカンズの人にも、とても楽しんでもらえたようで、ワークショップの最後には、交流会が楽しかったというコメントをもらった。

③ヤングアメリカンズのイベントは、地域の小中高生が約210名参加していることから、地域の方々が多く訪れるので、筑波大学の学生の活動を知ってもらい、もっと筑波大学のことを身近に感じてもらうと思い、企画をした。

企画から展示まで約1ヶ月しかなかったが、当日、思った以上に充実した展示をすることができてよかった。附属学校の工房わかぎりの製品も売れる等、附属学校も巻き込んだPRになったと思う。

④ヤングアメリカンズについては以下の日程で説明会を行なった。

- 5/9 (木) 18:30～ @ 体芸エリア 5C301
- 5/13 (月) 18:30～ @3学 3A213
- 5/16 (木) 18:30～ @2学 2D304
- 5/23 (木) 18:30～ @ 医専4A203
- 5/27 (月) 18:30～ @3学3A212
- 5/30 (木) 正午12:00～参加者応募開始

それぞれの説明会の参加者はあまり多くなかったが、来てくれた人はワークショップに申し込んでくれたり、ボランティアをしてくれたりしたので、充実した説明ができたのだと思う。

だが、事後アンケートで、説明会に出席できず、ヤングアメリカンズのことをよく知らないままワークショップに臨んだ人もいたので、もう少し回数を増やしたり、オンラインでの説明等ができたと思う。⑤ヤングアメリカンズの広報を学内で行ったが、スターバックスの掲示板にはしてもらったり、授業で宣伝したりして、第1～第3エリアの学群の人には、わりと認知度が上がったと思う。しかし、芸専、体専、医専などのほうには、つながりがある人も少なかったことから、なかなか情報が回らなかったかもしれない。FacebookやTwitterをつかっても情報を流してみたが、多くの人から、参加者募集の案内を知っていたら申込みたかったとの話をもらったので、来年はイベントの告知と合わせて、参加者募集の告知のしかたも考えて行きたい。

結果的に、ワークショップは大成功で、参加者の学生アンケートにも満足したという感想が多く寄せられていた。今年できたつながりを大事にして、今後の活動に生かして行きたい。

今後の課題

ヤングアメリカンズの企画には、実際にはNPO法人じぶん未来クラブが直接運営に関わっているが、じぶん未来クラブの名まえを出すことができなかったのも、いったいこのイベントがどのようなものなのかがわかりにくくなったと思う。そのうえ、申請時にはイベントに関わるボランティアの募集をすることは通らなかったにも関わらず、地域とのつながりからイベントを知り、ボランティアに参加する学生もいたので、混乱をまねいたと思う。結果的に、15名の当日ボランティアが集まったが、ボランティアをしたかったけど、どのように申し込んだらいいのかわからなかったという話も聞いたので、混乱を避けるためにも、ワークショップ参加者とボランティアの参加者の両方をT-ACTを通じて募集できればよかった。

また、じぶん未来クラブの名まえをポスター等から削除しなければならなかったが、その点は、じぶん未来クラブの職員さんともずいぶん話し合わなければならなかった。市民団体との共同企画をするというのは、学生にとって大切なことだが、協力してくれる団体名を明記できないとなると、共同作業がしにくくなり、悪くすると企画自体がなくなることもあると思うので、T-ACT側も必要に応じて一般企業やNPOとの関わり方を考慮してくれると嬉しいと思った。市民団体、T-ACTの間に挟まれて、とても活動しにくい時期もあった。特にポスターやチラシの作成時など。

経験者からのメッセージ

T-ACTでは、学生が活動するにあたって、いろいろなアドバイスをくれます。また、広報に使うコピー機なども貸し出してくれるのは、とてもありがたいことです。このような支援がある大学は少ないと思うので、積極的に活用して、他の学生といろいろなことを共有する機会を作っていくように頑張ってください。イベントを通して、大学を盛り上げていきましょう！

運営者側から見たパーティシパントの変化

応募時からワークショップ終了後まで、参加者の多くは明るく、積極的になったと思う。最初は、一人で活動に参加し始めた参加者も徐々に友達を増やすことができ、新たな関係も築けたと感じている。事後アンケートの結果や、私自身が聞いた感想によると、どの参加者も楽しんでいただけたのでとてもよかった。もし可能であれば、来年もぜひ開催したい。

T-ACTに関する感想

チラシ、ポスターの作成時に、外部の協力団体の名まえも記入できるようにしてほしい。ヤングアメリカンズの活動に関しては、NPO法人じぶん未来クラブなしには成り立たないものだし、地域や小中高学校でまわっている情報と異なってしまうため、混乱をきたす。

印刷をたくさんさせてもらったのは、すごくありがたかったです。

T-ACTをみて興味を持ってくれた学生もいるので、T-ACTの拠点教室をつくり、そこで説明会等もできるようにしてもらえたら、学生の中にもT-ACTの存在がもっと認知されるようになるかな、と思いました。

いろいろと、どうもありがとうございました。



T-ACT (承認番号 13001A) プランナー 藤原麻子

The Young Americans Tsukuba Special 2013

アメリカ合衆国カリフォルニア州を拠点に活動するヤングアメリカンズが日本にやってきました！ヤングアメリカンズは、3日間の音楽教育プログラムを通して、地域の小中高生（210名）と筑波大生（40名）に、音楽と踊りを教えます。そして、たったの3日間で参加者250名と、ヤングアメリカンズ約40名の総勢約300名が一致団結し、約1時間の音楽公演を一緒につくりあげます！音楽が好き、子どもが好き、演劇が好き、ミュージカルが好き、英語が好き、友達がワークショップに参加している、ちょっと知り合いに誘われてetc.どんな理由でもいいので、ぜひ公演を見に来てください！私たちと一緒に、音楽を楽しみましょう！

After three days of intensive instruction it's show time! The Young Americans perform the first act, the participating kids students perform the second act with The Young Americans. Let's share the amazing moment together!

Sunday, June 30, 2013
Place: 筑波大学学生会館講堂 University Hall
Time: 17:30 ~ 19:30
Ticket: 無料 Free

無料鑑賞対象者：大学関係者 (Free for Student, Staff, Faculty of Tsukuba University)

*ショーの無料鑑賞には事前の申し込みが必要です。【申し込み用QR】
Please apply your ticket from the QR code in advance.

【問い合わせ先】
ヤングアメリカンズ学生サポーターチーム
ya.tsukuba@gmail.com
*申し込みの詳細はQRコードからお調べします。



Walk With … ーがんに対して大学生が出来ることー 2013 (13002A)

T-ACT プランナー 福田 はるか (生命環境学群生物資源学類3年)

活動内容

今は2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなる時代と言われています。

大学生にとって実感のない話かもしれませんが、突然自分の大切な人たちが、そして自分自身ががんと闘わなければならない日が訪れるかもしれません。

この活動の目的は、がんについてより知識を深め広く知ってもらふことと、がんの患者さんとそれを支える人々を応援することです。そのためにリレー・フォー・ライフ・ジャパン2013茨城への参加を計画しています。

前回の「Walk With … ーがんに対して大学生が出来ることー (12050A)」に引き続き活動を継続します。

具体的な活動

- ・リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013茨城を大学の皆さんに知ってもらうための広報活動
- ・一緒にイベントを盛り上げてくれる団体参加への呼びかけ
- ・当日のイベントのお手伝い
- ・他大学(つくば国際大学・茨城県立医療大学等)との交流

活動計画

- | | |
|-----------|--|
| 4月 | 在学生及び新入生への呼びかけ
イベントの宣伝 |
| 5月上旬 | テントの整備のお手伝い |
| 5月18日・19日 | イベント当日
お手伝いスタッフ→テント設営、受付、フィールド運営、ステージ運営等のお手伝い・活動の記録 |
| 5月下旬 | 活動反省・今後の活動を検討する |

活動期間

平成25年4月15日～25年5月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 高林豊人(社会学類)、加藤みゆき(比較文化学類)、新井香裕(工学システム学類)

P: 宮本雅彦(数理物質系)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 4/18 新歓説明会 @3A405 (参加者1名)
- 4/20 RFLJ 実行委員会 参加者説明会参加@カピオ
- 4/21 RFLJ 実行委員会 参加者説明会参加@市民活動センター
- 4/24 Goodob 合同説明会 @2A212 (参加者3名)
- 4/26 Goodob 合同説明会 @5C301 (参加者2名)
- 5/1 ミーティング
- 5/3 ラヂオつくば出演(福田)
- 5/8 ミーティング
- 5/11 RFLJ 実行委員会参加
- 5/12 筑波大学テント40基チェック つくば国際大学と合同
- 5/13 学内立て看板の設置
- 5/15 ミーティング
- 5/17 テント運び出し 会場準備
- 5/18 6時半集合
イベント準備、運営手伝い
宿泊
- 5/19 イベント運営、会場撤収手伝い

今後の課題

- ・説明会はやはり周知が足りなかったのと、ほかのサークルの新歓にかぶってしまって参加者が少なかった。
- ・中心となった福田と加藤は当日、実行委員の仕事で全体を見ることができず、新井・高林の二人だけに任せってしまったが事前に参加者にやることを把握してもらふ機会を儲ければよかった。
- ・全体像を事前に参加者に伝えることができず、当日まで何をやるのかというところで混乱させてしまった。

経験者からのメッセージ

情報の共有はこまめにやったほうがいい。

中心人物はわかっているが、参加者は掴みきれないことが多いので、あえて仕事を分担してわからないことを洗い出してもらおうと、みんなの負担は大きいかもしれないが、分かり合えていいかもしれない。

運営者側から見たパーティシパントの変化

ボランティアで当日参加してくれた人は、最初あまりイベントの趣旨とかに関係なく動けばいいという認識だったが、がんのイベントということで、患者さんや家族の方のお話を聴いたりして色々刺激を受けることが多かったという声が聞けた。

T-ACT に関する感想

特になし



● 学生プロレスサークルの存続をめざして (13003A)

T-ACT プランナー 久保 希久男 (医学群医学類4年)

活動内容

これまで私たちが企画してきた学生プロレス興行は、構成メンバーの不足もあり他大学のOBに依存してきました。昨年は筑波大学のレスラーが4名いましたが、うち2名は筑波大学を卒業してしまい、現在現役レスラーは2名という状況です。

よって現在の問題意識として、学生プロレスサークルの存続を目指すうえで現役部員の獲得が急務であると考えています。昨年もT-ACTの力添えあってピラの配布やCM等の広報活動を行いました。本年度はその反省を踏まえてより徹底的に行っていきたいと考えています。

具体的には、医学群の新歓活動に積極的に参加します。新歓祭はT-ACT企画は参加できませんが、医学群で広報活動を行う分には制限がありません。医学の4月11日の新歓オリエンテーションと新歓合宿に参加することで、各新生に寄り添った広報活動を行っていきます。

全学類をターゲットにして散漫な広報活動を行うのではなく、より具体的かつ徹底的に新生の人格や歴史に即した新歓活動を目指していきます。

そして、最終的には例によって、10月の雙峰祭での学生プロレス興行を開催します。

活動計画

- 3月 活動開始
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 4月 医学の新歓オリエンテーションと新歓合宿に参加。これまでのCMやピラを用いた広報活動を行う。
- 6月 下北沢興行への手伝い
- 7-9月 練習開始
- 9月末 活動終了
メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。雙峰祭興行への準備。

活動期間

平成25年3月28日～25年9月28日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：小平義之 (情報メディア創成学類)、李雪州

P：入江賢児 (医学医療系)

活動報告

活動成果

・活動内容

4月 医学類の新歓シリーズに参加

9月 練習開始

・目標達成度

100%

計画通り、医学類の1年生を新人レスラー枠として獲得することができた。

・得られた成果

11月3日の学園祭当日が、一橋大学の学園祭と被ってしまったことで出場レスラー数は大幅に減少したが、一方でレスラー以外のリング外スタッフは筑波大生から大幅に参加することになりトータルのメンバーは変わらなかった。これからも学生プロレス興行が、学園祭を彩る定番のイベントになるかどうかは今年の5周年興行にかかっている。

今後の課題

11月3日の学園祭当日を怪我なく無事に終えること。

経験者からのメッセージ

続けることに意味があると思えました。徐々に人は集まってきます。迷った分だけ。

運営者側から見たパーティシパントの変化

昨年の映像作品制作に楽しさを感じてくれたため、今年はそれ以上のものをつくろうという意気込みで取り組んでくれていて、5年目で惰性になりつつある自分に対する良い刺激となりました。

T-ACT に関する感想

今のままで十分だと思います。



校友会 SNS 改善委員会！ (13004A)

T-ACT プランナー 市原 ひかり (理工学群社会学類2年)

活動内容

筑波大学公式 SNS である校友会 SNS を学生の手で盛り上げていく。

校友会 SNS の目標は、「筑波大学という絆のもとで交流する場を提供する」「筑波の今を発信する」こと。

きっかけは、「筑波大学の OB・OG とつながりたい」と思い校友会に登録してみたが、まだ交流の場が出来上がっていなかったこと。

魅力がたくさんあるサイトを利用しないのはもったいないと思い、活性化させたいと考えた。

内容は、主にサイト内コンテンツ・情報の充実。

まだできたてのサイトなのでまだまだ改善の余地はたくさんある。

SNS を活性化させるためにすることならなんでも可能だ。

大人が運営しているこのサイトに学生が入ることによって、学生も使いやすい SNS にする。

現在、在校生ユーザーを増やすため情報の充実を計画している。

個人的には授業情報を充実させたいと思っているが、どんなことでも発信可能。

ユーザーを増やし、自発的に情報が飛び交うようにするのが最終目標だ。

知的な企画からアホな企画まで、なんでも募集中！

興味ある人集まれ！

メッセージを送るとき、連絡先も教えてもらえるととても嬉しいです。

活動計画

4月 活動開始

メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る

5月 アンケート作成・実施、情報コンテンツ作成

6月～10月 アンケート結果の分析

コンテンツの充実

メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。

活動期間

平成25年4月8日～25年10月8日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：細田真萌 (体育専門学群)、本多健太郎 (人間総合科学研究科)、荒貴竜斗 (人文学類)

P：福井高志 (連携・渉外室)

活動報告

活動成果

・活動内容

4月11日 メンバー集め開始、オーガナイザー交渉

4月17日 連携・渉外室の方も含めてミーティング

4月20日～26日 メンバー希望の方とお話し

5月～10月 SNS で連絡を取りながら、1ヶ月1、2回程度のミーティング

・目標達成度

20%。理由は4点ある。

①効果的な企画が提案できなかった。

②メンバーが忙しく、あまり話し合いが進まなかった。特に夏休みは難しかった。

③長期的な視点で改善を行おうとしているため。

④利用者から見た改善点は、積極的に連携・渉外室に提案できた。

・得られた成果

T-ACT の利用者には校友会の存在を知ってもらうことができ、期間を通じて少したが登録者数は増加した。

今後の課題

・全員に連絡を取ること、そして集まることがとても難しかった。この企画に対する思いはあっても活動に参加する形や頻度は人それぞれで、その中でどのような役割を分けるかと考えるのはとても難しかった。

・また、大学公式のものなので「できることとできないこと」の確認が必要だったことが大変だった。一方で、相談しながら少しずつ進めていくことや、提案した案が通った時はとても嬉しかった。

・長期的に改善していけたらと思っているので、少しずつおもしろい企画を提案できたらと思う。

経験者からのメッセージ

企画をし、それを実際に運営するのはとても大変だと思った。今回の企画はイベント立案ではなく、既存のシステムを改善していくというものだったため、本当に苦労した。

しかし、自分たちが考えた提案が採用された時はとても嬉しい。そして自分たちの理想を描きそれに近づこうとすることはとてもわくわくする。

そのような経験ができたのは、T-ACTで企画したからだと思う。

とても良いシステムが筑波大にはあるのだと思った。

運営者側から見たパーティシパントの変化

私がやりたいと言ったことに対して、周りがアドバイスをし、深掘をしていく、という形が多かった。メンバーはこの経験を通して、教える、導く立場に対して色々考えながら活動できたようだった。

また、もともとは全く知らない者同士だったが、今ではとてもきらきらした目で夢を語ってくれるようになった。

T-ACTに関する感想

システムが使いづらかったです（笑）

メンバー募集メールを見て、企画に参加したい！という方、複数人がシステム上でメッセージをくださった時のことです。

その個々人に返信をすることができないため、自分の連絡先を掲載したメールをその都度「パーティシパント」「オーガナイザー」などと大きなくりで連絡を取らなければいけません。

そのため最初に連絡をくれた方には重複で連絡が行ってしまうことになり、それはとても不便だと思いました。



筑波大学公務員志望者の会 (13005A)

T-ACT プランナー 林 義燦 (人文・文化学群人文学類2年)

活動内容

〈問題意識〉

筑波大学は例年一定数の公務員を輩出しています。在学生の中にも公務員を志望する人がいるはずですが、私もその一人です。しかし公務員試験の出題範囲は膨大であり完全に独習するのは困難です。公務員サークルは十分に立ちうるものですが、残念ながら筑波大学にはありません。そこで、筑波大学においても一同に集まり勉強会を催す他、情報共有をしたいと考えます。そして何よりも、厳しい公務員試験に向けて一緒に頑張っていく仲間を得ることで最後までやり抜く力になるはずです。

〈活動目的〉

筑波大学生のうち公務員を目指す者同士が集まり、勉強会や試験情報共有をすることでより効果のある試験勉強を行う。また、志を同じくする者同士で切磋琢磨することを、最終採用に至るまでやり抜く一助とする。

〈対象者〉

日本国の公務員を志望する筑波大生。国家公務員総合職・一般職試験（大卒）、地方公務員上級試験、市役所などを主に想定しているが、その他各種試験志望者も対象とする。

活動計画

- 4月 メンバー集め、顔合わせ。話し合いを進めて具体的な計画を練る※メンバー集めは常時行う。
- 5～9月 活動拠点を定めて、月2～4回程度の勉強会開催。図書館や1D教室などを想定。就職課と提携しOB、OG懇談会などを開催することも考える。活動後期もしくはその次の期間前後に他大学の公務員サークルとの交流もできれば望ましい。

活動期間

平成25年4月1日～25年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：田沼里佳（人文学類）、菊地怜也（人文学類）、宇治田曜（人文学類）、山本泰弘（国際企画課）

P：菅野昭（就職課）

活動報告

活動成果

・活動内容

2013/5/15	昼休み：プランナーとオーガナイザーのミーティング
2013/06/07	20:30～22:00 第一回勉強会
2013/06/14	18:30～21:30 第二回勉強会
2013/06/21	18:30～21:30 第三回勉強会
2013/06/28	18:30～21:30 第四回勉強会
2013/07/05	18:30～21:30 第五回勉強会
2013/07/12	18:30～21:30 第六回勉強会
2013/07/19	18:30～21:30 第七回勉強会
2013/07/26	18:30～21:30 第八回勉強会
2013/08/02	18:30～21:30 第九回勉強会
2013/09/29	12:00～14:30 環境省技官・並木高等学校養護教諭・筑波大学職員を招いての親睦会開催

ミーティングでは、広報の方針、勉強会の内容などを話し合いました。

勉強会では、各種公務員試験に共通して存在する基礎能力試験の中でも、数的処理や判断推理を中心に問題を解いてきました。（一回だけ法学1次試験の問題を解きました）

ふだんメンバーはある程度速さを気にして問題を解いているようですが、勉強会では一問一問丁寧に見ていきました。解説と違う解き方をしている人もいて、考え方の参考になりました。自分の解き方を説明することもあり、理解が深まったと思います。なんとなく選んだ回答だと説明は難しいので、説明できるレベルまで持っていく意識ができたと思います。もちろん、各自個人でスピードを意識したトレーニングを行うことは前提にしています。

丁寧に見ていったとはいえ、一回で5～6問ほど解いていたので、累計で数十問は解いてきたかと思います。参加してくれているメンバーは、レポートや試験で忙しい時期も確実に試験問題に触れられたと思います。

オーガナイザーの一人が某予備校の面接マニュアルを持ってきてくれて、その読み合わせと、それを巡る談義をしました。こういうところに気をつける（ということや予備校勢は気にしているのか）ということや、これを頭の片隅に入れて大学生活を送っていこうと思いました。

・目標達成度

60パーセント。OB・OG懇談会も開催する予定でしたが、それはできませんでした。また、恒常的に来てくれるメンバーが増えず、できることも限られていました。メンバーがもっと多かったら、問題を分担して各々の解き方を説明したり、法学や経済学などの分会を設けたりすることもできたと思います。しかし、毎週きちんと行うことができ、基礎能力試験に慣れた、採用までの道筋が見えた点は大いに有意義だったと考えます。

今後の課題

メンバー人数の伸び悩み、確信を持てる有効な勉強会の形を必ずしも作れていない点。数回参加してくれたパーティシパントもいたものの、多くが1度の参加に終わってしまった点。第一回の勉強会で、彼らの想定と異なってしまったのかもしれない。しかし、安定した勉強会の運営ができつつあるため、今後は改善されていくと考える。

経験者からのメッセージ

T-ACT プランナーのみなさんこんにちは！運営にあたって、多少なりとも不安などがあるかと思います。しかしT-ACT を使おうと思って、使った時点で一歩踏み出しているわけで、大きな一歩だと思います。私もプランナーになってから一番多くしたことは、いろいろな人に聞くことでした。T-ACT 担当の先生はもちろん、過去に利用した先輩を知っていたので、彼に相談をしたり、あるいはオーガナイザーのみんなとしばしばお話をしたり・・・

自分でどのように進めていくかよく考えることも大事ですが、他人の考えを聞いてみるということも大きな助けになると思います。がんばっていきましょう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

恒常的な参加者はオーガナイザーばかりであったため、不明です。しかし、オーガナイザーのみんなは、当会への協力姿勢を変わらずみせてくれ、進路への熱意を増したように見えます。

あなたの小説が読みたい！—第六回筑波学生文芸賞の作品及び一般選考委員の募集— (13006A)

T-ACT プランナー 谷 翔 (人文・文化学群人文学類3年)

活動内容

総合大学という筑波大学の長所を生かし、小説を書くこと・読むことに興味を持つ学生の活動及び交流の活性化を手助けしたい。またつくばに関わる、筑波大学外の学生との交流のきっかけにしたい。最終的にはつくばに関わる学生全体の創作活動の活性化を目指す。

活動計画

- 4月初旬 作品及び一般選考委員を募集開始し、広報する。
- 5月 読書会：一般の方々との交流を図ると同時に、筑波学生文芸賞を広報する。
- 5月末～
- 6月上旬 一般選考委員説明会を開催。
- 6月末 作品及び一般選考委員募集を締め切る。
- 7月～8月 一次選考：集まった作品を筑波学生文芸賞運営委員（オーガナイザー）のみで選考する。
- 9月 最終選考：一次選考通過作品を一般選考委員（パーティシパント）と共に選考し、受賞作を決定する。一般選考委員参加者との交流及び改善点のアンケートを回収する。

活動期間

平成25年4月1日～25年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：伊藤美峰（人文学類）、神田夏海（比較文化学類）、塩田真史（工学システム学類）、森川貴斗（知識情報・図書館学類）、渡邊唯（人文学類）、高橋勇貴（社会学類）、山本郁（人文社会科学研究科）、野場隆汰（人文学類）、上野遼太郎（社会学類）
- P：五十嵐沙千子（人文社会系）

活動報告

活動成果

・活動内容

毎週月曜日	ミーティング
4月～6月	作品の募集
5月11日	読書会
6月～8月	一般選考委員の募集
7月20日	読書会
8月7日	一般選考委員を交えての勉強会
8月19日	一次選考会
8月26日	一般選考委員を交えての勉強会
9月3日	最終選考会
10月12日・13日・14日	冊子編集作業
11月3日・4日	学園祭にて冊子配布

・目標達成度

30%くらい。

今回は、今まで用いてきた選考基準をなくしたり、応募された全作品（例年は分担していました）を運営委員全員が読んだりするなど、いくつかの点を変更しました。その結果（かどうかを完全に確定することはできませんが）、選考会はかなり難航しました。また、応募作品、一般選考委員などが例年よりも集まりませんでしたし、冊子配布数も減りました。

・得られた成果

例年からのいくつかの変更、それに伴う結果の変化により、話し合うべき問題点がはっきりしたと思います。

今後の課題

- ・外部の人との交流を目的として読書会を開催したが、あまり人が集まらなかった。
- ・応募作品数が例年より少なかった（昨年56→今年37）。
- ・応募者に対するフィードバックの内容、書き方について要検討。
- ・一般選考委員がぎりぎりまで集まらなかった。そのため、事前の勉強会も不足していた。
- ・最終選考会で全体の意見がまとまり切らなかった。
- ・講評をしてくださる先生が一人だけになってしまった（例年は二人）。
- ・金銭面の不安。

- ・冊子・編集について
 - ・学園祭での実施場所の変更（例年1B2階→今年1B3階）の影響か、冊子配布数が減った。
 - ・冊子内の誤字が目立った。
 - ・解説やインタビューなどの原稿がぎりぎりまで集まらなかった。
 - ・編集作業に参加する人数が少なかった。
 - ・インタビューや最終選考の様子の書き方について要検討。

以上が反省点です。宣伝活動の強化、準備、予定合わせの早期化、選考基準の見直し、助成金団体へのコンタクトなどを通して改善していきます。

経験者からのメッセージ

やりたくてやってるんだから、頑張れば良いと思うよ。

運営者側から見たパーティシパントの変化

変化の仕方、方向性、度合はもちろん人それぞれですが、変化はしていたと思います。自分の意見を他人にも理解できるように表現すること、他人と意見を共有することの難しさを誰もが感じていたはずです。

T-ACT に関する感想

印刷や物品の貸し出しなど様々な協力をしていただきました。また、基本的に協力的、良心的な姿勢で対応していただいたので、こちらとしては非常にやりやすかったです。



田舎じまんプレゼン大会！ (13007A)

T-ACT プランナー 太田 祥平 (生命環境学群生物資源学類3年)

活動内容

日本には様々な魅力を持った“田舎”が全国各地にあります。
しかし、過疎化・高齢化が進行しているのが現状...
田舎はいずれ消滅してしまうおそれすらあります。
大学生である私たちだからこそできること、それは田舎の魅力を再発見し、発信していくことだと考えました。
日本全国から学生が集まる筑波大学。
とんでもない田舎からやってきた学生もいるのでは？
そこで...
「真の田舎者はだれだ!？」
田舎じまんプレゼン大会を行います！
参加者には、自分の田舎についてプレゼンしてもらい、優勝を決めます！
(出身地域でなくても大丈夫です。)
プレゼンの方法は自由です！
(優勝者には豪華商品!?)

活動計画

4月 ミーティング開始
ポスター、募集要項作成
5月7日(月)～
5月24日(金) 参加者エントリー
6月中旬 プレゼン大会開催

活動期間

平成25年4月10日～25年6月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：山岸彩夏 (生物資源学類)、大澤将樹 (生物資源学類)、篠田いぶき (生物資源学類)、神宮翔真 (生物資源学類)、田口新太郎 (生物資源学類)、小河澄香 (生物資源学類)、林田洋平 (生物資源学類)、花本沙希 (生物資源学類)、武田萌恵子 (芸術専門学群)、藤原さや (芸術専門学群)
P：湯澤規子 (生命環境系)

活動報告

活動成果

・活動内容

4月10日～ ミーティング開始
5月7日～ 広報・プレゼンター募集開始
5月27日 プレゼンター対象の説明会
6月10日 イベントの実施

・目標達成度

80%

イベント当日は約60名の学生・教員にお越しいただきました。各プレゼンターは工夫を凝らした発表を行い、観客の皆さんも含め全員で楽しむことができ、有意義な時間を過ごせたと思います。

反省点としては、運営メンバーの間で意思の疎通が十分に行われておらず、当日の会場準備がスムーズに行かず、参加してくださった皆さんを待たせてしまったことが挙げられます。

・得られた成果

「田舎じまんプレゼン大会」を通して、プレゼンターの皆さんは自分の地域を紹介する中で、その地域の良さを再認識することができたのではないかと思います。

観客の皆さんも、プレゼンの中で紹介された地域に関心を持つとともに、それぞれのふるさを見つめ直す良い機会になったのではないかと思います。

今後の課題

運営側の確認不足で、当日の会場準備に苦労した部分があった。

様々な事態を予測して、余裕を持った時間帯・場所の設定をするべきであったと感じた。

経験者からのメッセージ

学生が主体となって、一から活動を作っていくことは大変やりがいのあることだと思います。その過程で、メンバーの意見をまとめるなど苦労することもあるかもしれませんが、それも含めて授業では得られない様々な経験ができると思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

イベント後、参加者は自分の出身地や元々関心をもっていた地域についてさらに思いを深めていたのではないかと感じました。



“宇宙”と“未来”にメッセージを贈ろう！(13010A)

T-ACT プランナー 鈴木 裕行 (数理物質科学研究科 M2)

活動内容

2010年6月13日、小惑星探査機はやぶさが7年の時を経て宇宙から地球へ帰還したことは多くの人が知っている事実である。はやぶさの帰還は多くの国民の心を動かし、感動を与え、今の「宇宙ブーム」の火種になったイベントとなった。

そして、2014年、はやぶさの後継機であるはやぶさ2が6年間のミッションに挑戦する予定である。

JAXAではそれに伴い、はやぶさの頃に行った「星の王子さまに会いに行こうミليونキャンペーン2」というキャンペーンを行なっている。

参考 (<http://www.jspec.jaxa.jp/hottopics/20130329.html>)

キャンペーンの内容は2種類あり、

【1. あなたの名前を小惑星に届けます】

目標としている小惑星に落とすターゲットマーカーに我々の名前を刻み、小惑星に残してくる企画。

【2. はやぶさ2と一緒にタイムトラベル】

地球帰還の再突入カプセルに搭載するメモリチップに我々の名前、メッセージ、寄せ書き・イラストを記録し、2020年(予定)に再突入カプセルとともに地球に帰還する企画。

となっており、どなたでも応募できる企画になっている。

また、イプシロンロケットという今年の夏期に、鹿児島県の内之浦宇宙空間観測所から打ち上げられる、JAXAの新型ロケットでもキャンペーンが行われ、名前やメッセージが打ち上げられるロケットに描かれるマークの一部となる。

参考 (<http://www.jaxa.jp/countdown/epsilon/>)

本企画では筑波大学内で宇宙を広め、多くの人に宇宙に関わってもらうため、T-ACTを使って筑波大学のたくさんの人からメッセージを募集し宇宙へ送り届けるという企画である。

また、これによってT-ACTに多くの学生が訪れる様に促す。

活動計画

【企画の予定】

企画承認後、T-ACTに受付窓口を作る。

・イプシロンロケット

T-ACTのPCですぐに入力できるように用意しておく。

締切りは5月7日。

・はやぶさ2

メッセージの種類によるが、基本的に手で書いてもらう。(PCになる可能性もあり)

締切りが7月16日であるので、6月30日に締め切る。

はやぶさ2のほうは2020年にメッセージが帰還するので、できれば2020年の帰還の際に名前を書いてくれた人に連絡ができるようにしたい。(今後検討する。)

【広報に関して】

- ・ポスター
- ・電子掲示板
- ・web (Facebook、twitter など)

活動期間

平成25年4月23日～25年6月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：塩谷知弘 (物理学類)、木立佳里 (物理学類)

P：廣田春夫 (学生生活課)

活動報告

活動成果

・活動内容

はやぶさ2のキャンペーンを筑波大学生に周知し、主にT-ACTの授業を受けている生徒たちに参加してもらった。

全部で59名の参加者がはやぶさに各々の想いをのせた。

先日JAXAへ書類を提出し、企画をほぼ完了した。2020年にははやぶさ2が帰ってきたらメッセージを皆さんにおくることを忘れないようにする。

・反省点

ここまでの人数を予想していなく、集計がものすごく大変であった。

Google ドキュメントで入力フォームを作って、T-ACT にきた学生に PC 上でメッセージを書いてもらったほうが最後の集計が100倍楽になったと思う。一人で行った企画なので集計に関してはほんとうに大変だった。しかし、多くの学生がT-ACT フォーラムへ足を運び、T-ACT システムへ登録をしたので、収穫はありだと思われる。T-ACT システムに登録してれば数年後に戻ってくるパターンもあったりするので、とても大切な事に貢献できたのではないかと思っている。登録したが積極的に企画を作って実行して頂けたらと思う。

今後の課題

・集計の大変さを軽減させる工夫を考えなかった点

→ Google ドキュメントでの web フォーム方式にすれば効率化する

経験者からのメッセージ

企画は誰でも、簡単に出来ます。T-ACT でたくさんの学生と触れ合って、自らの経験値を上げていきましょう。私は常にたくさんの人から学ばせてもらっています。自分が変わるいい機会です！

運営者側から見たパーティシパントの変化

特に無し

T-ACT に関する感想

メールシステムの改変など。

T-ACT ジャンパーの乱 (13012A)

T-ACT プランナー 藏満 司夢 (生命環境科学研究科 M1)

活動内容

筑波大学のユニークな取り組みである T-ACT は、学生が自身の自由な発想を大学公認のもとで様々なサポートを受けながら実現させることができるシステムが魅力であり、例年様々な企画が立案、実行されている。この“サポート”の中には、専任教員と専任事務員の方からご助言をいただいたり相談に乗っていただいたりというソフト面のほか、プロジェクタや PC など各種機器、資材の貸し出しを受けられるというハード面が含まれ、いずれも T-ACT に参加している学生にとっては非常に重宝されているものである。

ところが、である。T-ACT フォーラムに準備されている数ある貸し出し資材の中には、実用性が高いにも関わらずこれまでに日の目を見る機会が少ない“物品”がある。それが T-ACT ジャンパーだ。ショッキングピンクとハイライトグリーンという奇抜なカラーデザインに、『T-ACT』の文字と校章が背中に入ったデザインのこのジャンパーはその数50余り。T-ACT の企画に多数みられる大人数での活動においては、この人目を引く斬新なデザインのジャンパーは、集団の中でメンバーを識別するために極めて実用的であろう。それにもかかわらず学生に利用される機会が少なすぎるのは、その存在の周知が十分でないことに一因があるのではないだろうか。

そこで今回、T-ACT 参加学生をサポートする立場である T-ACT サポーターズは、この T-ACT ジャンパーの活用を促進することを目的に、T-ACT ジャンパーの存在と T-ACT そのものの宣伝を兼ねて、T-ACT ジャンパーを着用する機会を設けることにした。T-ACT サポーターをはじめ学生・職員の有志50人を集め、T-ACT ジャンパーを着用して学内でお昼ご飯を食べる突発的イベントを行う。

時は2013年、季節は春、新緑の色が輝き新歓に活気づく赤レンガのキャンパスで、T-ACT の文字と筑波紫の五三の桐とがプリントされた蛍光ジャンパーが春の賑いに彩を添える。

活動計画

- 4月 参加者募集
- 5月某日 石の広場横の芝生にて T-ACT ジャンパーを着てお昼ご飯を食べる
- 5月某日 松美池横の芝生にて T-ACT ジャンパーを着てお昼ご飯を食べる

活動期間

平成25年4月15日～25年6月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：細田真萌（体育専門学群）、鈴木裕行（数理物質科学研究科）、田中宏明（心理学類）
P：廣田春夫（学生生活課）

活動報告

活動成果

・活動内容

石の広場横の芝生とその周辺にて、サポーター、オーガナイザー、パーティシパント及び有志の先生方、事務職員のみなさんと T-ACT ジャンパーを着てお昼ご飯を食べた。また、その周辺にいた一般の学生に対して① T-ACT ジャンパーに対する印象調査、②お昼ご飯の間 T-ACT ジャンパーを来てもらえないかというお願い、③ 6/3に行った T-ACT 懇親会の宣伝、の3つを行った。実施日・時間は次の通り。

- ・5月22日（水）11:30-12:15
- ・6月3日（月）11:30-12:15

・目標達成度

T-ACT ジャンパーに対する印象調査では、【T-ACT ジャンパーをどう思うか、①いいね！②いまいち！で教えてください】との問いに対して計128名（男性78名、女性50）から回答をいただいた。その結果、いいね！78名（男41女37）、いまいち！49名（男30女19）という結果となった。T-ACT ジャンパーに対していいね！と思っている人はいまいち！と思っている人に比べて有意に多いといえる（ $p < 0.05$, binomial test）。ただし自由回答の聞き取りによるジャンパーへの印象調査で『見る分には華やかでよいが自分で着るにはちょっと・・・』といった旨の回答が多数みられたことからわかるように、ジャンパーに好印象を持っているからと言って着用につながるとは限らないと推測される。また、前述の調査は2ないし3名のスタッフにより同時に行われたが、担当スタッフによって回答結果（いいね！といまいち！の比）が有意に異なることが示された（Chi-square test）。そのことも含め、“気が向いたときに”アンケート結果の詳細を別途まとめて T-ACT フォーラムに報告したい。

宣伝を兼ねたジャンパーの試着については、準備したジャンパーが一時的にすべて貸し出された状態になるなど、合計のべ100名以上が T-ACT ジャンパーを着た（強引に着せられた）計算となる。果たしてその100名の中に何名2度目の着用に至る者がいるのか甚だ疑問ではあるが、少なくとも存在の認識はしてもらえたのではないだろうか。

6/3の T-ACT 懇親会の宣伝という側面については、ビラ配りが功を奏したのか当日大盛況であった。ただし当企画との因果関係は不明である。

・得られた成果

ジャンパーの存在を少なく見積もっても100名ぐらいには知ってもらえた。

今後の課題

この企画を成功させるためのコツは、冷静にならないこと。

決して“なぜ私は奇抜なデザインのジャンパーを、見ず知らずの他人に着せようとしているのだろう”などと考えないことである。

経験者からのメッセージ

とりあえずやってみよう！

運営者側から見たパーティシパントの変化

それはジャンパーの貸出数の変化によって評価されるべきであろう。

T-ACT に関する感想

たのしかったです。



● ボウリング好き集合！ (13013A)

T-ACT プランナー 竹内 翔吾 (医学群医学類5年)

活動内容

現在の筑波大学において、実質的にボウリング部というものは存在しない。あるとしても、カラオケやダーツ、ビリヤードなどと併せて、ボウリングにも時々行くというだけの、遊び系のサークルだ。一方で東京大学や早稲田大学、千葉大学などには、ボウリング部が存在するのに対して、筑波大学にそれが存在しないという理由には、大学からボウリング場までの距離と移動手段確保の困難さと、ボウリングに必要な諸経費の高額さが最も重要な障害として挙げられる。また、根本的な問題としては、近年ボウリングの競技的な性格に関する認知度が、特に若者の間で低くなってきており、奥深い楽しみ方を知らないということもある。

活動としては、周辺のボウリング場のなかで条件の良いところを探し、ボウリング場でボウリングを和気あいあいと楽しみつつ、ルールやマナー、奥深さや真の楽しみなどを知ってもらうことである。目標の第一段階としては、T-ACTとして公式に活動することで、筑波大学生1万人の中の潜在的なボウリング好きをより効率的に集め、新入生を招き入れ、ボウリングを楽しめる人口の押し上げを行っていく。このためには、ピラを作成し、往く大学生にアピールしなくてはならない。第二段階としては、中・長期的に、ボウリングを練習し、サークルや部のような形としての活動の土台をしっかりと作り上げていく。最終目標としては、固定的なメンバーが集まり、周辺大学との交流戦や、大会に出場するような団体となり、ボウリング部を設立するためのメンバーを集めることである。

活動計画

- 5月 活動開始。
ボウリング場と、具体的な交渉。
協力者集め。新歓を行う。
- 5～9月 ボウリング練習。
毎月、月例会実施。適宜、大会などに出場。
- 10月 T-ACTでの活動終了。最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。
今後の活動について、サークル・部を設立できるかどうかを、検討する。

活動期間

平成25年4月16日～25年10月15日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：千田光平 (医学類)
- P：入江賢児 (医学医療系)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 5月30日 ボウリング場と交渉成立。
- 7月2日 函館大学ボウリング部西村准教授が協力者となる。以後情報交換あり。
- 8月 メンバー集まるも、返事が得られず、活動なし。個人的な活動は継続。

・目標達成度

低

・得られた成果

ボウリング場との交渉、ピラの作成、有識者の獲得は成功した。しかしながら、メンバーに対するこちらの返事が遅くなり、結局コンタクトが取れなかった。

今後の課題

多忙のため、ピラ作成、配布などもままならず、メンバーの獲得に失敗した。この点について、迅速に行う必要がある。

経験者からのメッセージ

行動力が必要である。

運営者側から見たパーティシパントの変化

なし。

T-ACT に関する感想

自身の行動力や、時間の欠如によって、成功しなかった。次回は、より素早くメンバーを確保し、計画を進行させたい。

EXCHANGE ～海外体験～ 第4弾 (13014A)

T-ACT プランナー 藤田 綾 (社会・国際学群国際総合学類4年)

活動内容

2011年度に、筑波大学では54カ国・地域の大学・機関と229協定が締結されており、研究者、学生交流を行っています。特に学生交流を含む協定は203協定あり、全部で629人分あります。しかし、その多くの協定枠が使われていない、その存在自体知られていないという状況にあります。大きな原因の一つは情報が公開されていないことにあります。

「知っていたら留学していたかも」、「気付いたら、遅かった」という学生達の声に代表されるように交換留学に関する情報は、一般の学生からはアクセスしづらい状況にあります。

また交換留学に限らず、学生が海外でチャレンジする方法(私費留学、ワーキングホリデー、インターンシップ、世界一周など)はいくらでもあります。大学を介していないため、まとまった情報は多くありません。つまり、海外に行くことを志した所から、さらに一歩二歩積極的に動かなければ、情報を入手できない状況にあります(入手出来たとしても、それが適切ではないために問題が生じる場合もあります)。

また海外でチャレンジする手段を決め、準備を進めていく上でも様々な障壁があります。特に交換留学は手続きが複雑で時間がかかる反面、全てのプロセスを理解している人が少なく、情報も公開されていないため、多くの人が何らかの形で必要以上に苦労しています。

チャレンジを終えた後も、海外生活経験者には多くの困難が待っています。交換留学なら互換手続き、休学をした学生は復学手続きが必要となります。就活や進学準備も周りの学生と比べ、遅く始めたり短い時間で取り組んだりする必要が出てきます。

こういった問題に対処するには、情報のストックと共有が必要だと思えます。

そこで、浮かんだアイデアが、University of Tsukuba International Community (UTIC) というネットワークを作ることです。このネットワークを通じて経験者の知識・情報をストックし、海外でチャレンジする学生を応援します。また経験の共有を通じ、互いに学び刺激し合えるような、そんな環境を提供するのもUTICの目的の一つです。

2012年度上半期の活動を引き継ぎ、以下の活動を実施していきたいと思えます。

- Facebook 上での情報の共有、交流イベントの開催
- 学期に1～2回の海外生活経験者報告会(海外生活体験フェア)
- OB・OGを招いて、海外渡航経験者のその後を話してもらう。
- チューター支援による留学生と日本人の交流促進
- 渡航中の学生からの情報発信
- HP、ブログ、SNSを通じて上記の活動の広報

以上の活動を通じて、経験者と海外に行きたい学生の結びつきを強めていきたいと思えます。また、今回はOB・OGを招いたイベントを企画したり、留学生と協力したりすることで、卒業生、留学生との結びつきを強めていきたいです。

具体的な目標は、2013年度の終わりまでにFacebook上の参加メンバーを現在の483人から、600人に増やしていくことです。

活動計画

- 4月 グローバル系新歓(16日、24日)
- 5月 海外生活体験フェア①(16日)
- 6月 お帰りパーティー(帰国組+これから行きたい学生の交流)
- 7月～9月 情報発信(ブログ記事を中心に)
- 10月 海外生活体験フェア②、カウンセリングweek(留学生もカウンセラー)
- 11月 ぶりふお①
- 12月 海外生活体験フェア③(渡航準備に重きを置いて)
- 1月 ぶりふお②?+年度末報告会
- 2月～3月 T-ACT申請+報告書作成

活動期間

平成25年4月14日～26年9月13日



T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：山崎将俊（生命科学研究科）、中本佳宏（生命科学研究科）、青木伴晃（国際総合学類）、矢野美幸（国際総合学類）、小野五輝（国際総合学類）、宇土健太（国際総合学類）、石原みほし（国際総合学類）、小島彩（国際総合学類）、桑原未来（国際総合学類）、藤木耀（国際総合学類）、建部祥世（日本語日本文化学類）、佐々木拓海（生物資源学類）、秋本百合香（比較文化学類）、春日大樹（人文学類）

P：吉武博通（ビジネスサイエンス系）

活動報告

活動成果

・活動内容

○週一で運営メンバーミーティング

○実施したイベント

4月 新留学生×チューター交流会実施：12カ国40名の留学生と日本人学生の参加

5月 海外生活体験フェア

6月 Bridge Forever とのコラボイベント（筑波大 OB・OG と現役生を繋ぎ海外でのキャリアを考えるきっかけをつくる）

7月 おかえりパーティー～海外経験者と話そう～

今後の課題

- ・イベントはどれも予想以上の集客で、高い満足度と評価を得て成功に終わった。今後は、留学生センターや、グローバル・コモンズなどどのように連携を図っていけばよいか、双方の意思や問題意識の共有が課題である。
- ・広報に関しては、ポスター、ビラ、ML、Facebook や twitter など SNS、ブログなど多様な手段を活用した。関心の高そうな学類には比較的手が届きやすいが、理系の学類や院生にはやや届きにくいので、今後より広く広報できるよう心掛けたい。
- ・イベントの際の場所取りに毎回苦労している。集会届、場所利用届を2週間前に提出しなければならないので、イベントの企画自体を早めに始める必要がある。

経験者からのメッセージ

意志とやる気のある人が少し集まるだけで、筑波大・筑波大生に大きなインパクトを与える何かをつくることができます。

問題意識や挑戦してみたいことがあるのならば、まずは T-ACT に相談して、企画を立ち上げ、仲間を募ることから始めてみてください。

仲間がいるということ、共通意識を持って取り組むということ、人の背中を動かすというのは、とても有意義で、大学時代にしかできない楽しさがあると思います。

つくばで、0 から少しでも多くの 1 が生まれるのを期待しています。

運営者側から見たパーティシパントの変化

○4月 新留学生×チューター交流会実施：12カ国40名の留学生と日本人学生の参加

→新しく来た留学生が日本人学生やほかの留学生と触れ合うきっかけを作ることができ、参加者はみな連絡先を交換するなどして楽しそうに交流していた。

○5月 海外生活体験フェア

留学を終えた経験者にとっては良いアウトプットの機会となった。また新入生の参加者が多く、直接経験者の話が聞くことができ留学をひとつの選択肢として考えるきっかけとなるなど、刺激を受けて満足していた様子だった。

○6月 Bridge Forever とのコラボイベント（筑波大 OB・OG と現役生を繋ぎ海外でのキャリアを考えるきっかけをつくる）

→筑波大 OB、OG や、海外で活躍している人の話をきいて、いろいろなキャリアに鼓舞されていた。在学中の海外チャレンジを生かしてどんなキャリアに進むことができるのかに興味がある人にとって良い経験となった。

○7月 おかえりパーティー～海外経験者と話そう～

→夏に帰国した学生と、これから留学を目指す学生が計30名ほど集まってそれぞれの経験を伝えるフランクな場として成功した。公な資料からはわからないような、気軽な質問ができ、下級生はとても満足していたようだった。

T-ACT に関する感想

T-ACT では、広報物の印刷やイベントでの物品の貸し出しなどで多大なご協力をいただき、大変感謝している。もっとそれぞれの企画を知り、相互に広報を活発に行えて参加しやすいしくみがあると良いと思った。

Wall Art Festival 2013 報告会 (13017A)

T-ACT プランナー 篠田 いぶき (生命環境学群生物資源学類3年)

活動内容

白い壁さえあれば芸術祭はできる—
インドの子どもたちにアートの力を伝えたい—
そんな想いから始まった Wall Art Festival.
今年2月、4回目の Wall Art Festival がインドの小さな村で開催されました。
Wall Art Festival (WAF) には、つくばからも連続して何人かが参加しています。
そこで今年もつくばで報告会を開催したいと思います！
内容としてはアーティストトーク、WAF 紹介ムービー上映、写真展示のほか、楽しい企画を考案中です。
報告会を通じて皆さんに WAF について知ってもらうだけでなく実際に WAF の雰囲気味わっていただきたい、そして来年につながる報告会にしたいと考えています。

活動計画

- 4月末 活動開始
話し合いを進めて計画を練る
- 5月 会場、日時決定
広報活動
- 5月下旬 報告会 (アーティストトーク、紹介ムービー上映、写真展示等)
※飲み物、軽食付き、参加費300円
活動終了
メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成25年4月30日～25年6月16日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：秋山茉莉花 (生命科学研究所2年)、田中みさよ (人間総合科学研究科2年)、鈴木萌 (人間総合科学研究科1年)、小島彩 (国際総合学類3年)、町田紗記 (芸術専門学群3年)、中三川凛 (芸術専門学群3年)
P：村上史明 (芸術系)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 4/24 ミーティング、T-ACT 申請
- 5/10 ミーティング
- 5/23 ミーティング
- 5/18 備品準備
- 5/28 イベントの実施 (昼：チャイピクニック、放課後：報告会)

※報告会

ドキュメンタリー映像上映

ライブペインティング

WAF オーガナイザー&アーティストトーク

みんなで絵を描こう (ワルリ画風に)

6/5 反省会

・目標達成度 (その根拠も述べる)

80%

イベントに来てくれた人には、WAF というイベントについて知ってもらえただけでなく参加者全員で一つの絵を完成させるという体験を通じて何かをみんなで作り上げるという WAF の雰囲気を味わってもらえたので目標を達成できた。また、夜の本番の回に来られない人に、昼間のチャイピクニックのような機会があったのは、今回のいい点ではないかと思う。

ただ、もっとイベントの告知を早くしていれば他にも来られた人がいたかもしれない。より多くの人に WAF のことを知ってもらうことも目標であったので、この点で達成度はマイナスであった。

でも規模が小さいなりに、良い雰囲気だった。最後の絵を描くのも、人数・スムーズさ共にちょうどよかった。終わった後に、ゲストに話を各々聞きにいったりできる雰囲気でもよかった。

・得られた成果

実際に WAF にボランティアとして参加しようと思うか思わないかにかかわらず、WAF について新たに興味を持ってくれる人ができた。また、その方々と WAF の運営メンバーの方、アーティストの方、実際に WAF へ参加したメンバーのつながりが生まれた。このつながりは今後生きてくると思う。

今後の課題

広報の開始をもっと早く始められたらよかった。

遅くなってしまった原因として、ゲストの方との日程調節に時間がかかってしまったこと、教室を借りるのに手間取ったことなどがある。

経験者からのメッセージ

T-ACT はとりあえず一回やってみたらいいと思います。

わからないことがあったら T-ACT の先生方に聞けば教えてくれます。

運営者側から見たパーティシパントの変化

WAF の一部を見て知って、最後にはわくわく感を抱いてくれていた。

T-ACT に関する感想

印刷も簡単にできて助かりました。



第二回・天の川クリーンプロジェクト (13020A)

T-ACT プランナー 藤井 啓太 (理工学群工学システム学類1年)

活動内容

入学して広い土地を持つ筑波大学に期待の心を躍らせる身の回りの新一年生。敷地内に川と噴水があることにも驚く。そして僕を含めた多くの人が声をそろえてこう言う、「水汚いねー。」と。昼食を食べていても「これで水がきれいならねー。」と。

だったら掃除しようじゃないか。汚い川もみんなできれいにして心地いい環境を自分たちで作ろうではないか。綺麗な川と噴水を前に昼食を食べよう。

かなりの大人数で、短期間で一気に掃除することを目標とします。天の川が綺麗だったらなと感じた方、みんなできれいにしようという考え方に賛同していただける方、是非ご参加ください。よろしくお願いします。

活動計画

- 5月上旬 活動開始
- 5月～6月 メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
広報活動
- 7月 一斉活動日
- 8月 報告書作成

活動期間

平成25年5月7日～25年7月8日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：船坂拓海 (工学システム学類)、舟橋聖人 (工学システム学類)、小林怜夏 (工学システム学類)、増田康介 (教育学類)、片木仁 (生物資源学類)、高橋拓也 (工学システム学類)
- P：京藤敏達 (システム情報系)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 5/7 stat the project
- 5/28 ビラ作成
- 6/3 ビラ配り
- 6/4 土子さん初ミーティング
施設部初訪問
- 6/10～6/14 企画書作成
- 6/13 学生部土子さんに企画書提出
- 6/17 放射線安全管理部アイソトープセンターにアポ取り
生物環境学群生物学類長濱教授に活動報告
第一回・天の川クリーンプロジェクト参加者鮭川さんとミーティング
同上主催者町田さんに活動の相談
当日借りるシャワー室の下見 (1度目)
- 6/20 放射線量測定器借りる
天の川放射線量測定
堰に用いる板の調査
シャワー室下見のアポ取り
- 6/21 放射線測定器返却
- 6/24 T-ACT の授業で広報活動
- 6/28 施設部でミーティング
- 7/2 堰を作成・挿入
- 7/4 天の川の水抜き開始
- 7/5 当日使用の道具借り回り
学生生活課にリアカー借りる
1E1階にリアカーごと搬入
警備員室に日曜日の作業の報告
長靴30個確保
- 7/6 シフト確認・前日メール送る

- SNS で飛び入り参加の呼びかけ
- 7/7 一斉活動
土嚢袋を追加購入 (250袋3900円)
シャワー室の利用時間を1時間延長 (12時~20時に変更)
- 7/8 土子さんに土嚢袋の運搬用トラックを頼めなくなり、学生生活課福富さんをお願い
農林技術センターに土嚢袋を捨てに行った
トラックを洗った (暑かった)
施設部に道具を返却、土嚢袋の追加購入代金を支払っていただきたいとお願い
学生生活課にリアカー返却
- 7/12 長靴を片付けた
- 7/23 報告書作成
挨拶回り T-ACT フォーラム、学生生活課、施設部を訪問
施設部中島さんに土嚢袋代金をもう一度お願い
- 7/31 施設部から土嚢袋代金をいただいた
- 8/8 土嚢袋の件を報告

・目標達成度

90%

理由：当日、水温の上昇により小魚が死んでしまったため

・得られた成果

池、川がきれいになった。

今後の課題

藻・ヘドロの量が想定を大幅に上回ったので、土嚢袋の量が足りなくなりました。

パーティシパントの人があまり来てくれず、午前中は困りました。

経験者からのメッセージ

行動力より金だ！ by 藤井

金より行動力だ！ by 増田

原動力は女だ！ by 舟橋

努力は報われます by 船坂

写真係楽しいよ、でもね、自分が写らないんだー by 小林

金より行動力より魚だ！ by 片木

運営者側から見たパーティシパントの変化

みんな黒くなった。(肌が www)

最後の2時間は団結力が上がった。

仲良くなった。

T-ACT に関する感想

(^金 ω 金^)

フォーラムの設備がとても良いです！

暑かったです。



● 院生プレゼンバトル2013 (13022A)

T-ACT プランナー 本多健太郎 (人間総合科学研究科 M2)

■ 活動内容

■ 問題意識

「学群生のみなさん、大学院生がどんな研究をしているか、知っていますか？ 大学院生のみなさん、学群生や一般の方に対して、あなたがどんな研究をしているか、わかりやすく伝えられますか？」

さまざまな研究科や学群・学類を有する筑波大学では、さまざまな最先端の研究が行われています。しかし、このような研究の成果は、普段の生活ではなかなか知ることはできません。特に、自分の所属と遠い分野であればあるほど、どんなことを研究しているのか知る機会は少ないというのが現状です。

また、近年、科学コミュニケーションなどのことばに代表されるように、科学者・研究者が一般の人にもわかりやすく研究内容を伝える必要があります。これは、大学での研究に携わる大学院生にも当てはまります。

しかし、学群生や一般の方ももちろん、大学院生同士ですらもお互いの研究を伝える機会は、そんなに多くはありません。しかも、研究プレゼンテーションを「ただ聞く」だけなら、興味のある分野の学会に行けばいいじゃない・・・。

そこで私たちは、「院生プレゼンバトル」と称して、2011年度から研究プレゼンテーションと学術交流を図る企画を運営してきました。

■ 企画内容

「院生プレゼンバトルは、大学院生による研究プレゼンテーションの No.1 を選ぶ企画です。」

3 回目となる今回は、10月19日～20日（口頭発表部門予選）と、11月3日～4日（本戦）の日程で、大学院生による研究発表会を行うだけでなく、来場者も審査員として参加できるイベントを開催します。

プレゼンターとして参加する大学院生は、自分自身が日頃行なっている研究についての発表を行います。ここでは、学群生や一般の方にもわかりやすく、そして、魅力的な研究プレゼンテーションが求められます。プレゼンの方法は、口頭発表とポスター発表があり、どちらかを選ぶことができます。口頭発表では、予選を設け勝ち抜いた数名が本戦に進みます。

来場者は、大学院生の研究プレゼンテーションを見聞きするだけでなく、その場で質問が可能だけでなく、審査員として投票もおこないます。ここで集められた得点票は、集計を経て、発表を行った大学院生の中から特に優秀だった3名程度を決定し、表彰します。また、未来の研究者枠として、筑波大学近隣高校より高校生を審査員として招待し、高校生 No.1 賞も同時に選びます。

■ 参加方法

「院生プレゼンバトルは院生だけの企画ではありません！」

院生プレゼンバトルは、大学院生だけの企画ではありません。発表者は院生に限りますが、運営や一般審査員として院生だけではなく学群生や教員・職員のみなさまにもぜひ参加していただきたいと思っています。

■ 参加方法と参加に伴うメリット

「プレゼンターとして」

筑波大学で自信の専門をもつ大学院生であれば、誰でもプレゼンターとして院生プレゼンバトルにエントリーをすることができます。ふつう、学会発表には参加費用がかかりますが、院生プレゼンバトルでは入賞すれば賞状のほかに副賞も授与されます。

また、その結果は運営母体であるつくば院生ネットワーク (TGN) のホームページ上に掲載され、世界中からその情報にアクセス可能な状態になります。TGN のウェブサイトが継続される限り、優れたプレゼンテーションとして、専門領域や年代の枠を越えて広く評価されたという成果が記録されます。

昨年の参加者からは「専門分野の人たちだけが参加する学会では得られないような質問をされておもしろかった。ひとつひとつのコメントも嬉しかった」「大勢の人たちの前でプレゼンができて、とても楽しかった！」という声もありました。

「審査員として」

院生プレゼンバトルでは、来場者は、誰しもが審査員になることができます。発表を聞き、それに対する評価やコメントをすることができます。また、質疑応答時間やポスター発表のコアタイム、本戦終了後に予定されている交流会では、プレゼンターと直接ディスカッションをすることができます。このように、ただ聞くだけでなく参加の一員になることで、院生プレゼンバトルを来場者自身が、この企画をもっとおもしろくしていくことができます。

「運営として」

院生プレゼンバトルの運営は、TGN が中心となって行なっています。この企画の運営にあたり、院生だけではなく学群生の視点も是非取り入れたいと考えています。院生プレゼンバトルは、自分たちの手で自由にルールをつくることができます。「院生になったら、院生プレゼンバトルに出場したい！」と思っている学群生の方々には、特に運営に参加してほしいと思っています。「こんな院生プレゼンバトルなら、ぜひ出場したい！」と思えるような楽しい企画をつくっていきましょう！！

■企画立案の経緯

「院生プレゼンバトル2011、2012より、さらなる進化を！」

院生プレゼンバトルは2011年にスタートしました。イベントには、多くの方にご来場いただき、とても盛り上がりました。そして「来年もぜひ続けて欲しい」という声を多数いただきました。

3度目の開催になる院生プレゼンバトルは、昨年、一昨年の反省点を活かし、さらに楽しんでいただける企画にしていきたいと考えています。具体的には、下記の事項について改善を行います。

- ・評価項目の見直し
- ・もっと快適な会場での開催
- ・ポスター発表部門の充実
- ・筑波大学外からの参加者の拡充
- ・院生だけでなく、学群生からも運営メンバーの募集（次世代運営の育成）

■最終的な目標

「アカデミック×エンターテイメント＝院生プレゼンバトルの浸透」

院生プレゼンバトルは、アカデミックな研究プレゼンテーションをわかりやすく魅力的に伝え、来場者の知的好奇心をくすぐるものです。一見、難しいと思われがちな研究プレゼンテーションをエンターテイメントとして、届けることができます。このような企画が、筑波大学・つくば市をはじめ、さまざまな場所で行われるようになることを願っています。

■運営メンバー募集

院生プレゼンバトルの運営に参加するメンバーを募集しています！

総合大学であるという強みを存分に発揮し、プレゼンバトルを、筑波大学を、そして私たちの第二の故郷であるつくばの地を、もっと面白く魅力的なものにしていきましょう。

院生・学群生を問いません！運営は、個々人の専門や特技、活動目的などに合わせて柔軟におこなっていきます。各班、昨年の経験者がしっかりサポートしますので、興味のあるフィールドで、運営も楽しんでもらえればと思っています。

（昨年度の役割分担の事例）

- ・マネジメント
- ・開催規約策定
- ・広報&記録
- ・発表者対応&交流会
- ・機材 & 調達管理
- ・集計
- ・当日運営

活動計画

- 5/10 運営メンバー募集開始
（随時、参加可能です。当日運営のみでもOKです）
運営ミーティングは2週に1回程度を予定
- 6月中旬 場所・日時の詳細決定、公式広報開始
- 6月下旬 企画詳細決定
- 7月中旬 プレゼンターエントリー開始、審査員決定
- 10/19(土)～20(日) 口頭発表部門予選会・上映会
- 11/3(日)～4(月) ポスター発表部門・口頭発表部門 本戦、交流会
- 11月中旬 反省会 & 交流会

活動期間

平成25年5月20日～25年11月10日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：秋山茉莉花（生命環境科学研究科）、塩谷天（生命環境科学研究科）、尾澤岬（数理物質科学研究科）、角谷雄哉（人間総合科学研究科）、栗之丸隆章（数理物質科学研究科）、佐藤良太（システム情報工学研究科）、平良希望（人間総合科学研究科）、田中みさよ（人間総合科学研究科）、藤田佑樹（システム情報工学研究科）、比嘉健太（システム情報工学研究科）、松原悠（人間総合科学研究科）、三松沙織（生命環境科学研究科）、阿部義和（システム情報工学研究科）、宮ノ原直樹（システム情報工学研究科）、肖程峰（システム情報工学研究科）、田口真彦（数理物質科学研究科）、藤井英樹（数理物質科学研究科）、及川和也（情報学群）、須賀光（情報学群）、吉澤俊祐（数理物質科学研究科）、小山初音（生命環境学群）、竹股ひとみ（生命環境学群）、田中宏明（人間学群）、大串智美（図書館情報メディア）、善甫啓一（OB）、榎田翼（OB）山本泰弘（職員）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 5月7日 第一回ミーティング
本番までのスケジュールと必要となりうる役割分担について協議した
- 5月21日 第二回ミーティング
役割分担の方法、連絡手段、メンバー募集等について協議した
- 6月5日 第三回ミーティング
会場や規模、実施日程について協議した
- 6月18日 第四回ミーティング
実施基盤となる発表要領と審査基準、広報について協議した
- 7月3日 第五回ミーティング
発表要領、商品、T-ACT 電子掲示板による広報、エントリー方法等について協議した
- 7月25日 発表要領公開
- 7月30日 第六回ミーティング
エントリー受付、会場レイアウト、リハーサルについて協議した
- 8月1日 エントリー受付開始
- 8月21日 第七回ミーティング
機材の準備や購入物品や動作試験の方法、担当などについて協議した
- 9月9日 第八回ミーティング
本戦会場下見、予選会に向けた事前準備について協議した
- 9月27日 第九回ミーティング
エントリー案内の強化方法、賞品の調達先等について協議した
- 10月9日 第十回ミーティング
予選会準備等
- 10月12日 予選会場下見
予選会会場にて下見・プレゼンターの機器チェックをおこなった
- 10月22日 リハーサル・第十一回ミーティング
大学会館ホールにて、機器チェック等をおこなった
- 11月3日 ポスター発表部門
- 11月4日 口頭発表部門本戦
- 11月12日 反省会、報告資料等作成

・目標達成度

【60点】

半年近く前から準備を進めていたにもかかわらず、広報が滞ったうえ、潜在的なプレゼンターに対する有機的なつながりの構築が思うように進まなかった。結果エントリー数が急減し、予選会の日程縮小をせざるをえなくなった。

しかしながら、小規模になってしまったことが逆に、プレゼンター同士の密なコミュニケーションという、本来の目的に近いカタチを生むことができたのではないかと、アンケート結果などから感じられた。

その他にも、特に初期やテスト期間、学会シーズンなどにおいて運営面での脆弱性が散見された。役割分担はただタスクを割り振るだけでなく、責任の所在や納期、求められる品質の合意形成など、事前に確認すべきことはいくらかもあったはずであるが、それを明確に提示・協議することができていなかったのが原因と考えられ、これは大いに反省すべきことのひとつに挙げられる。

また招待審査員の学長・副学長を始めとする多くの来賓の方々に対してご案内を差上げた際に、文書が開けない状態で（文字化けした状態で）送付してしまい、しかもそれが直前まで気付かなかったことが原因で、秘書の方や学生生活課の方々にも多大なるご迷惑をおかけしてしまったことは、特に反省すべきことであった。

雙峰祭の2日間では、機器トラブルという重大な失敗や、VTR 上映室が十分活用されなかったなど、様々な課題が生じた。

運営メンバーは少ないながらも、特に企画後半では役割分担が徐々に明確化し始め、それぞれの責任範囲を全うするスムーズな活動ができた。改めて一緒に運営ができてよかったと感じた半年間であった。

また当日スタッフとして、説明不足にもかかわらず臨機応変に対応していただいた方々にも改めて感謝を申し上げます。

・得られた成果

アンケートの集計結果などは下記ウェブサイトに記載した。

<http://tgn.official.jp/?p=3585>

今後の課題

目標達成度記入欄に記載した

経験者からのメッセージ

限られたメンバーの中で活動をするためには、役割分担をする必要であるが、ただ単によくある担当を立てるのではなく、その企画をおこなううえで重要な事項はなにかをよく吟味し、それに則した担当を立て、さらに問題が起きた時はだれがサポートするのか、責任の所在と裁量の大小についてはじめによく協議することが重要ではないかと感じた。

運営者側から見たパーティシパントの変化

当初は新規メンバーも多く、対面する機会もさほど多くなかったため、やや遠慮しがちな雰囲気があったが、ミーティングだけでなく食事を兼ねたり、飲み会を開いたり、直接やりとりをする機会を経るに従ってうまく回るようになった。

特に院生と学類生など、遠慮が起こりやすい環境であったため、もっと配慮をするべきであった。

T-ACT に関する感想

T-ACT 懇親会など、企画者同士が顔を合わせる機会をたくさん設けてほしいと感じました。T-ACT を介して別々の団体が知り合う機会が得られるということは、多くの企画が一括で管理されているからこそ成せる業であり、広い筑波大学で人と人が出会う数少ないチャンスだと思います。

実際に会ってみるとコンセプトも内容も近いのに、お互いに人手不足ということがよくあり、非常にもったいないと感じました。



● ラック～ Lack & Luck ～ (13025A)

T-ACT プランナー 多賀 世納 (生命環境学群生物資源学類4年)

活動内容

アルベルト・アインシュタイン
フレデリック・ショパン
ミケランジェロ
夏目漱石

多くの人々が人生の中で触れる芸術・科学の分野で大きな業績を残し、多くの人々に夢を与え、多くの人たちを言葉で奮い立たせ、影響を与えた人々です。

今回私が企画するラックは魅力的な人たちに出会える幸運—Lack—と、自分に足りないもの—Luck—を再確認できる場を提供するものです。

私たちの大学では学問、サークル、課外活動において非常に魅力的な活動をしている人や、魅力的な事を普段から考えている人がたくさんいます。

しかし、なかなかその人達が行っている活動・考えについて話が聞ける機会というものはありません。

授業中に横になった学生、コナクリの列に並んでいるときの前後の人が

アカペラ全国大会の舞台に立った人

フランスへ農業修行に行った人

そう考えると少し、ワクワクしてきませんか？

人は何かしらの魅力を必ず持っています。

各人、自分自身が気づいていない魅力もあるはずです。

その自分の魅力に、今様々な活動をし、自分の魅力を発揮し磨いている人と触れ合うことで再確認、または発見する場を提供する。

それがラックです。

ラックは前半と後半に分かれています。

前半はゲストのプレゼンです。

主に筑波大生をゲストとして呼び出し、その人の魅力を自由な形で参加者にみせていただきます。

後半は、ゲストが何かしらの疑問を投げかけ、その疑問に参加者の方々が向き合うことで自分の魅力の再確認をしてもらうグループワークの時間です。

きっとそこで出したあなたの意見は自分をはじめゲスト、他の参加者に有意義なものになるはずです。

活動計画

5月 活動開始

5月27日 第2回 ラック 中居秀美さん

6月～8月 第3回 ラック 開催

第4回 ラック 構想

9月末

活動期間

平成25年5月22日～25年11月22日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：河嶋伊都子（生命環境科学研究科）、綾塚達郎（生命環境科学研究科）、橋本沙也加（生命環境科学研究科）

P：五十嵐沙千子（人文社会系）

活動報告

活動成果

・活動内容

2013年5月27日 ラック第2回中居秀美さんによるお話

内容：中居秀美さん（国際総合学類4年 元 Table Fow Two (TFT) 代表 現アカペラサークル Doo-Wop サークル員）のこれまでの TFT における活動と、その活動になった彼女のこれまでの生きかたについてのお話。

・目標達成度と得られた成果

目標達成度は20%です。

しかし、目的は100%達成することができました。

私がラックを立ち上げた理由は『自分の興味はどこにあるのか』を見極めたかったからです。興味を何事にも

持つことなくただ大学で勉強し将来に向けての知識の備蓄をするということにどこか刺激不足を感じていたために湧き出てきた“渴望”に気付いたからです。

ラックにおいてわたしが達成した目的は『自分が没頭できることみつける』ことです。そのきっかけとして、わたしが心の底から興味を持ち、活動に賛同でき、尊敬する人のお話を聞くことで“わくわくすること”、その人が没頭している活動における、わたしが『解決させたい』と思える問題点はないかを聞くことが主なラックの活動内容の狙いでした。

非常に幸いな事に中居秀美さんのお話を聞くことで“没頭”できそうなことを見つけることができました。

彼女の TFT のお話は食べ物による国際協力のお話しでした。わたしも国際協力に興味があり高校の頃から国際協りに沿う活動を行ってきました。彼女の、自分の活動を彼女の人生の過ごし方から振り返るお話しから、わたしの国際協力活動の源になった昔の“想い”に目を向ける大切さを感じました。わたしの国際協力への“想い”の中に“子どもと接する”ことが大きなパートを占めていることを感じ、子どもと接する機会が普段の生活にないことから、そのような機会を求め新たな活動を始めました。

今は『常総100km 徒歩の旅』という夏の5日間で小学生4～6年生と共に県内を100km 歩く教育事業に“没頭”することができています。ですから、私がラックを創立した目的は達成できました。

つくばの就活とは何だ (13027A)

T-ACT プランナー 米倉 元気 (人間学群心理学類4年)

活動内容

問題意識：

「陸の孤島」であるがゆえに、就職活動において情報を手にすることが困難な筑波大生。つくば時間に流され、いつまでも学生でいられるような気がしている筑波大生。でも真面目で力もある。

そんな筑波大生が大好きだから、だからこそ「就職活動」なんかに負けて欲しくない。就職活動は、自分の人生と向き合う大切な時間だからこそ、もっと前向きに、楽しみに就活に向き合ってほしい。「就活」を「知る」ということをキッカケに、自分の将来に真剣に向き合っていく。そんな想いを持って動き出しました。

企画立案の経緯：

就職活動を通じて出会った筑波大学就活仲間と話し、同じ想いを共有したことがキッカケで活動がスタートしました。

最終目的：

イベントに参加してくれた15卒の筑波大学生が「就活」というものに対して、具体的なイメージを持ち、なにかしらの具体的な行動をより早くとること。

企画概要：

- ・つくばの就活概要
- ・内定者座談会
- ・グループディスカッション体感ゲーム

活動計画

- 5月 活動開始 T-ACT 申請
MTG スタート
コンセプト決定
開催時期を決定 (6/7 (金) 18:30～)
内容決定
- 6月7日 イベント「つくばの就活ってなんだ」実施
中旬 反省会、まとめ資料提出

活動期間

平成25年5月15日～25年6月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：鮎川亮太 (社会学類)、太田汐里 (応用理工学類)、常念彩 (比較文化学類)、池田絵美 (比較文化学類)
P：海後宗男 (人文社会系)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 5月13日 初回顔合わせ
- 5月21日 ミーティング
- 5月22日 ミーティング
- 5月4日 ミーティング・リハ①
- 5月6日 リハ②
- 6月7日 イベントの実施

・目標達成度 (その根拠も述べる)

70%

筑波大学唯一の就職活動スタートアップ講座として、無名にも関わらず80名を超える参加者が集まったことは、影響力という点でよかった。

しかし、時間が短かったため、より細かい内容を聞けるような座談会を充実させられなかったこと、15卒就活生のつながりがあまり作れなかったことは反省点である。

・得られた成果

TAKE@WAY 主催のイベントへの動員など、次に繋がるアプローチを参加者ができたこと

今後の課題

・募集の段取り、計画化

申し込みフォームでは50名が集まったが、実際に集まったのは80名。内定者を含むと90名となり、計画どお

りに進まない現状があった。原因としては、当日ぎりぎりまで広報していたところにあると思うので、もっと早い段階から動き出し、採算をつけるような段取り作りをする必要があったと感じる。

経験者からのメッセージ

プランナーはもちろん、ひとつのイベントを動かすために必要なのは、信頼できるオーガナイザーだと感じました。ぜひ想いを共有できる素晴らしい仲間と共に、自分の「やりたい！」を実現して欲しいと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

TAKE@WAYの主催するイベントに参加している人がいたり、後日インターンシップに関して相談してくる人がいたりしたなど、実際に「行動」に移すことができていたのは、良い変化だった。

T-ACT に関する感想

T-ACT フォーラムの方には、たくさんの助言をいただき本当に助かりました。

またこれからもよろしく願いいたします！

就活 Start up! 夏期インターンシップを利用したキャリア成長応援プロジェクト (13029A)

T-ACT プランナー 鈕持 駿 (社会・国際学群社会学類4年)

活動内容

全国様々な地域から学生が集まり、多様な学生を有する筑波大学。しかし、キャリアという面を見てみると首都圏から離れた立地が起因となり情報が少なく、学生のポテンシャルや彼らの情熱を存分に活かせていません。それを解消するために私たちは現役筑波大生と筑波大のOB・OGと協力をして筑波キャリアネットワークという団体を立ち上げました。そして、今回この団体の主催で説明会を開催し、それによって、2015卒の筑波大生にキャリアについてこの時期からしっかりと考え始めるきっかけをつくる機会を提供させて頂こうと思いました。この説明会、また今後の筑波キャリアネットワークの活動の目標は筑波大生の可能性を引き出し、本当に自分が進みたいと思った道に進めることです。

活動計画

- 6～7月 プロモーション開始。主に掲示板や facebook、私たちのウェブサイト（現在製作中）など。また、プロモーションのための説明会の開催も検討中（6月中旬）
- 7月12日 イベント当日。イベント内容は2つのパートを予定①就職活動前にしっかりとキャリアについて考えることの必要性を伝えるパート（筑波大内定者＋筑波出身の講師によるディスカッション形式）②実際に夏の活動の一つとしてのインターンシップにどのようなものがあり、参加方法やどのような内容があるかを紹介。
- 7月～8月 インターンシップに参加をする人たちへ事前研修の提供（インターンシップでの経験を最大化させるため）
- 9月～10月 インターンシップの振り返りと事後研修を予定

活動期間

平成25年5月21日～25年10月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：山崎俊紀（応用理工学類）、英慶信（社会学類）、鮎川亮太（社会学類）、日野、平山
P：久保田優（就職課）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 6～7月 プロモーション開始。主に掲示板や facebook、私たちのウェブサイト。プロモーションの一環で説明会も行った。
- 7月12日 イベントを開催した。当日は約70名が参加した。イベント内容は①講師による、キャリアについての講義②どのようなインターンシップがあるか、やどんな企業があるかについて筑波出身の社会人とディスカッション形式での説明会。
- 7/12以降 イベント参加者に対して個別に就職活動や、キャリア、留学等の進路相談に個別に応じた。

・目標達成度

80点。

集客目標には届かなかったが、このイベントに参加した学生はその後、インターンシップに参加したり、キャリアについて考え相談に来たりする子も多かったから。

・得られた成果

2015卒筑波大生がキャリアについて、早いうちからしっかりと考えてくれるようになった。

今後の課題

ドタキャン率が多かったので、リマインドメールをこまめに送るなどの対応をしっかりと行えばよかった

経験者からのメッセージ

何をやるにしても1人じゃできません。Visionを共有してくれる仲間を見つけて、巻き込んでやりたいことを実現して下さい。

運営者側から見たパーティシパントの変化

就職活動に関して早い時期から高い意識を持ってもらうことができた。実際に夏からインターンシップに参加する子も多く出た。

T-ACT に関する感想

特になし

えいがをつくろう ～スタッフ・キャスト募集のお知らせ編～ (13031A)

T-ACT プランナー 大城 太郎 (生命環境学群生物資源学類4年)

活動内容

来年以降に開催される学生映画祭 (TOHO シネマズ学生映画祭など) への出品を目標として、機材力・人望・コミニカグラウンド・ゼロの二人で映画を撮ろうと意気投合し、有志を集うべく企画を立案します。

脚本はおろか、コンセプトもろくに固まっていませんが、企画段階から全員野球で一つの作品にしていこうと考えています。

つきましては、映画で一花咲かせたい方を募集させていただきます。スタッフ・キャストに興味のある方・話だけでも聞いてあげてもいいよという方、ぜひご一報を。

活動計画

5/28～9/30 キャスト・スタッフ募集期間

6月 定例ガイダンス：毎週 (月)・(金) 18:30～ @芸バチ

7月 不定期ガイダンス：希望者に随時連絡します。

8～9月 企画・活動報告会議：調整中

10月以降 撮影開始

活動期間

平成25年5月28日～25年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：腰塚友宣 (日本語・日本文化学類)、西村太佑 (情報メディア創成学類)、河西祐輔 (比較文化学類)、崔志元 (医療科学類)、青木弘美 (人文学類)

P：稀代麻也子 (人文社会系)

活動報告

活動成果

・活動内容

映画製作に携わる人員を募集した結果、11名の応募があり、うち8名が活動に加わることになりました。

今後の課題

・メンバーの一致団結の問題

互いにスケジュールの調節が難しく、共同作業を進めることが難しかった。

経験者からのメッセージ

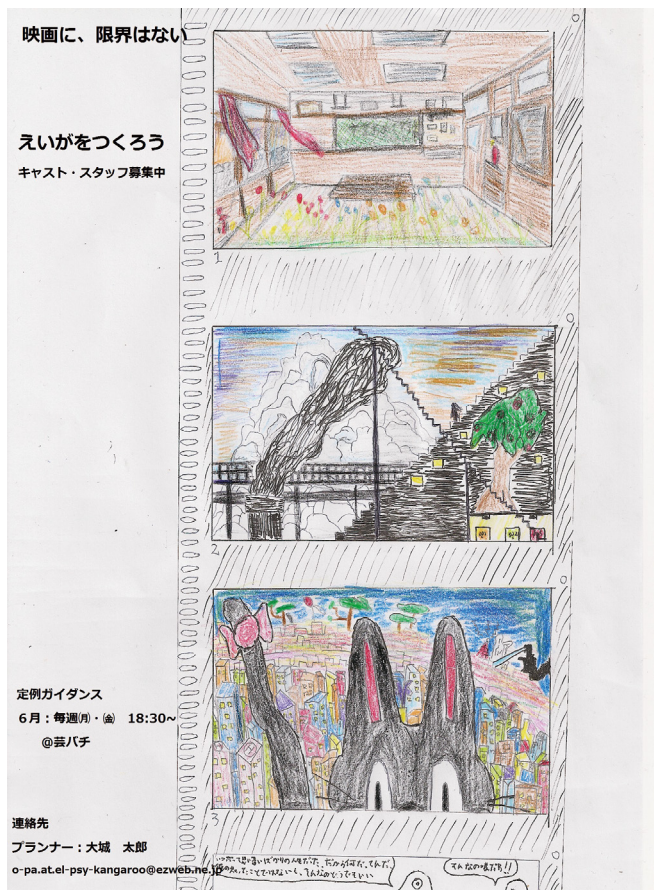
少し自分には大きすぎるようなことも、行動に移してやってみればできます。

運営者側から見たパーティシパントの変化

よくわかりません。ただ、今後の活動次第で結束力は向上するかもしれません。

T-ACT に関する感想

特になし。



ゆめ花火 (13032A)

T-ACT プランナー 加藤 愛香里 (医学群医学類5年)

活動内容

1. 企画概要

筑波大学附属病院に入院している子どもたちが「夢の花火」をテーマに描いた絵を筑波大学学園祭で実際の「ゆめ花火」として打ち上げる。(打ち上げ玉は4号玉(直径12cm)を使用する。)花火は音楽や解説とシンクロさせるなど、子どもたちが楽しめるような流れを目指す。また、鑑賞場所に行くためのバスの乗車時間や、待ち時間も楽しめるよう、花火に関連した企画を用意する。以上のような演出を、花火研究会などの他団体にも協力してもらいながら行う。製造・打ち上げは山崎煙火製造所に協力していただく予定。当日は雙峰祭のフィナーレで打ち上げ、打上場近くに患児に対応できる特別会場を用意し、子どもたちに花火を見てもらう。

日時：2013年11月4日(月・祝) 18:15~21:15頃(予定)

場所：筑波大学 3K318(予定)

対象：花火の絵を描いた患児、及び附属病院において診療中の患児およびその家族

2. 背景

様々な病気により入院生活を余儀なくされている子どもたちが、親元を離れて見知らぬ環境で治療を受ける精神的、肉体的ストレスは計り知れない。闘病をがんばる子どもたちを目の当たりにして、自分たちに何かできることはないかと考えた。

昔から人々の心を魅了するものとして花火が注目されてきた。花火には苦しみや悲しみを忘れさせてくれるほどの美しさがある。闘病中の子どもたちが心に夢と希望をもち、これからも生き抜いていく糧になることを期待する。そこで、筑波大学附属病院協力のもと、医学生を中心とした有志グループで、「夢の花火」をテーマに闘病中の子どもたちが描いた絵を実際の花火にして打ち上げる企画「ゆめ花火」を立ち上げることに至った。

3. 目的

小児がんなどの理由により、長い闘病生活をおくる小児患者に、一時でも病気の苦しさを忘れるような楽しさを味わってもらおうとともに、たくさんのサポーターがいることを感じてもらうことで、夢と希望を持ってもらう。

協力していただく方々や、当日打ち上げを鑑賞する観客の方々が、長期の治療が必要な小児の現状について知り、考えるきっかけとなる。さらに、メディアを通じて「ゆめ花火」を紹介できれば、より多くの人に小児医療への関心を持ってもらうことが期待できる。

また、企画する学生にとっては、社会的弱者としての病弱児とその家族とふれあいを通じて、学生の立場で可能な支援を実践する機会である。

活動計画

6月~8月 活動開始

メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る

また、資金を「社会貢献プロジェクト」および「桐医会」からいただけることが決定した。

「雙峰祭」の開催が決定次第、花火の図案募集を行う。

9月 煙火に相談する。

11月 打ち上げ予定。

活動期間

平成25年5月28日~25年11月4日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O：藤井聡子(医学類)、隈本朝喜(医学類)、栗原真帆(医学類)、山足公美絵(医学類)、中島里佳子(医学類)、門野彩花(医学類)、飯塚玄明(医学類)、澁井香葉子(看護学類)、岩橋優花(医療科学類)、松浦文奈(人間総合科学研究科)

P：福島敬(医学医療系)

活動報告

活動成果

・活動内容

6月25日、7月2日、8月10日、9月7日、9月17日、9月22日、9月27日、9月29日、10月9日、10月19日、10月23日、10月27日、10月30日

ミーティング

7月 病院長に挨拶

8月7日 病院のアートを育てる会出席

9月 花火の図案募集

9月 教室の下見

11月4日 ゆめ花火実施

・目標達成度

100%

根拠：1. 実施後のアンケートでは、全家族が満足度のスコアを一番上のものにしてくれたこと（フェイススケール）

2. 仲間が増え、今年のゆめ花火を企画側で実施した学生が増えたため、来年以降にかなり期待ができること

・得られた成果

子どもたちが喜んでしゃいでいたこと、そして保護者も楽しんでいたことが一番の成果です。

今後の課題

入院中の子どもを招待するという企画の性質上、参加者の人数を正確に把握するのが当日となり（体調等で参加の是非が変わるため）、予定数よりも20人程度増えたこと。

これは、企画側の医療学生は分かっていたことではあるが、協力してもらった各サークルなどにはうまく伝わっていなかったため、突然の人数変更のようになってしまった。

経験者からのメッセージ

企画に賛同し、一緒に活動してくれる仲間が多いと楽です。

運営者側から見たパーティシパントの変化

終了後のアンケートでは、「自分でかいた絵が花火になってうれしかった」「すばらしいイベントでした」「こんなに嬉しいことは久しぶりでした」「来年もぜひ継続してください」等の意見をいただきました。

子どもたちがとても楽しそうにはしゃぎ回っていたのが印象的でした。また保護者にとっても、保護者同士の再会の場となり、会話が弾んでいました。

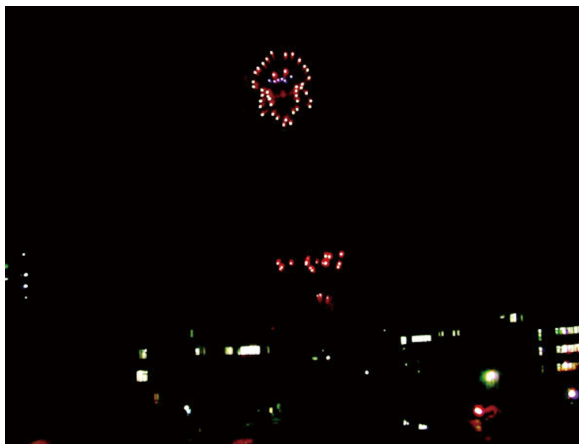
T-ACT に関する感想

相談・印刷等お世話になりました。

また students への寄稿も良い経験となりました。

ありがとうございました。

今後もなにかありましたらよろしくお願いいたします。



プレゼンひろば (13034A)

T-ACT プランナー 佐藤 良太 (システム情報工学研究科 D2)

活動内容

筑波大学での学術的な交流を促進するインフラの一つとして、定期的な活動を行う。院生や学群生が自身の研究プレゼンを異分野の人へ向けて行う機会を創る。

活動計画

- 7月～ ・隔週金曜18時半から、筑波大学附属中央図書館エントランスホールにて活動する
- ・認知度向上のため、ポスターやフライヤーを作成する
- ・内容は活動予告と運営スタッフの募集とプレゼンターの募集

活動期間

平成25年6月8日～25年12月8日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：角谷雄哉 (人間総合科学研究科)、秋山茉莉花 (生命環境科学研究科)、三松沙織 (生命環境科学研究科)、小山初音 (生物学類)、竹股ひとみ (生物学類)、尾澤岬 (数理物質科学研究科)、田中みさよ (人間総合科学研究科)、栗之丸隆章 (数理物質科学研究科)、田口真彦 (数理物質科学研究科)、藤田佑樹 (システム情報工学研究科)、本多健太郎 (人間総合科学研究科)、松原悠 (人間総合科学研究科)、藤野未来 (化学類)
- P：上原由紀 (附属図書館管理課)

活動報告

活動成果

・活動内容

図書館夜のプレゼンひろばの継続的開催

<開催日> いずれも18時半から19時半ごろまで @中央図書館

6月7日

6月21日

7月5日

7月19日

8月2日

10月4日

10月18日

11月15日

12月6日

その他、facebook、TGN ホームページ、中央図書館公式 twitter を利用した広報活動を随時行った。

筑波大学駅前キャンパスの開催

7月25日

筑波大学定例記者会見で、各メディアに駅前キャンパスの開催を通知。

8月3日、8月10日、8月31日

それぞれ2名のゲストスピーカーによる講演を実施。

9月15日

永田学長を訪問し活動報告。

11月2日

筑波大学雙峰祭において、T-ACT 活動報告 (ポスター展示)

・目標達成度

<概ね満足>

図書館夜のプレゼンひろば

MMI からプレゼンひろばに移行し、継続的に異分野交流の場を創出することができた。以前に比べ、聴衆者も増加した。また、来年度以降の運営スタッフも確保し、継続的に運営ができる体制を構築した。

筑波大学駅前キャンパス

3日間テーマを組み、市民や観光客を対象に研究トークを実施した。反響は大きく、各種メディアに取り上げられ、また、永田学長や市原つくば市長 (筑波大生との市政懇談会に於いて) にも、本企画に対する絶賛の声を頂いた。

また、この企画を見るためにつくばにいらっしゃった方々もおり、地域のイベントという観点からも成功を収めた。

今後こうしたイベントを、定期的に行っていきたいと考えているが、その道筋についてはまだ明確になっていない部分が多くあり、課題として残されている。

・得られた成果

□図書館夜のプレゼンひろば

本年度、17回の開催を行うこととなっている。(2014年2月まで)

異分野交流の懸け橋として、定常的なインフラ作りを行うことができた。

□筑波大学駅前キャンパス

筑波大学のみならず、筑波研究学園都市の顔として大きな成果を上げることができた。

また、下記のように多くのメディアの注目を集めた。

■2013年7月25日 筑波大学定例記者会見

■2013年7月25日 筑波大学公式ウェブサイト「TGN 主催：『駅前キャンパス』の実施について」

■2013年7月27日 常陽新聞朝刊「筑波大院生ら科学の街紹介来月、つくばで駅前キャンパス」

■2013年8月2日 朝日新聞朝刊「ミニガイド筑波大が駅前キャンパス」

■2013年8月3日 日本経済新聞朝刊「最先端の科学紹介筑波大院生親子や高校生対象つくば駅改札口前」

■2013年8月6日 茨城新聞朝刊「“科学の街”体感してTXつくば駅構内で研究者が授業」

■2013年8月6日 ラジオつくば「つくば You've got 84.2 (発信 chu)！」ゲスト出演

■2013年8月27日 日本経済新聞朝刊「こだまつくば、駅の顔づくりに挑め」

■2013年9月6日 茨城県企画部つくば・ひたちなか整備局 つくば地域振興課つくばスタイルブログ「通りすがりの科学～筑波大学『駅前キャンパス』」

■2013年10月7日 筑波大学新聞「つくば院生ネットワーク つくば駅でプレゼン 学園都市の魅力を伝える」

今後の課題

□プレゼンひろば

広報体制がいまだ充実していないため、要検討である。

運営は、今後とも継続的に行っていきたい。

また、MMIでは教員の参加があったが、マンネリ化していることもあるためか現在は図書館職員と学生のみの参加となっている。参加者の幅をもっと広げていきたいと考えている。

□筑波大学駅前キャンパス

イベント自体は成功を収め、今後も継続を希望する声が多い。

単発のイベントにするのではなく、定期的に行うことができるよう制度設計をしていきたい。

経験者からのメッセージ

T-ACTは、学生の「やりたい」という気持ちを大切にしてくれる場所です。

大学公認のプロジェクトとしての後ろ盾は、思わぬところで役に立つことがあります。

「思い立ったら吉日！」です。

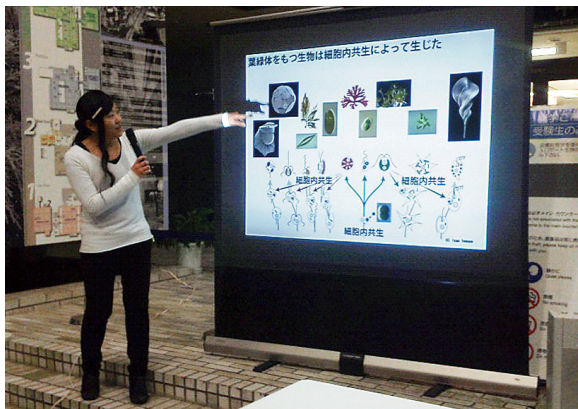
運営者側から見たパーティシパントの変化

普段参加するだけの学術講演会やサイエンスカフェの裏側で、スタッフがどのように動くのか身をもって感じることができ、運営側の苦勞を知ることができた。また、講演者などとのやり取りによって、社会性が身につけてきたように感じる。

T-ACTに関する感想

T-ACTには物品貸し出しをはじめ、多くのご支援を頂きました。どうもありがとうございました。

要望としては、T-ACTを院生が使うのにはハードルがあるような気がします。学群生対象の授業とは別に院生対象のオリエンテーションがあってもいいのかなと思うところです。



Tsukuba International Debate Project (13038A)

T-ACT プランナー ASHRAPOV FARRUKH (人文社会科学研究科 M1)

活動内容

Tsukuba International Debate Project in English language will provide students with opportunity to improve their arguing skills and better use of tolerance. Students in debate project tend to enjoy discussing current issues and if they don't already have a strong voice and good presentation skills, they will learn these abilities in a fun, safe environment.

Students will learn to create factual/logical, ethical and emotional arguments to persuade others that their "side" is correct. The project uses the formal debate format (American and British parliamentary).

The project's goals are:

- teach and train students in the fundamentals of debate and public speaking
- teach students how to properly research the discussing issue
- train students to be more confident speakers
- help students build leadership skills and improve individual responsibility
- compete with other debate clubs in future
- teach students to work collaboratively
- improving of speech and debating skills will help students to thrive academically and provide them with an advantage in their future careers.

活動計画

The team of Tsukuba International Debate Project in English language consisting of Japanese and international students meets every Monday from 18:30 till 20:30 at 8A building room #101.

June-July 2013: Learning of basic debate skills and American Parliamentary debate format, exercises on improving presentation and public speech skills

July-August 2013: Debate sessions on topics related to economics, social and cultural issues.

1. Death penalty: shall it be practiced or banned
2. Same-sex marriage: for and against
3. Internet censorship: violation of right or safety measures
4. Progressive tax system

August-September 2013: no debate activities due to summer break.

August 10: trip to Oarai together with debate project members

September-October 2013: Learning of British Parliamentary format, conducting debate sessions on following topics

1. GM Foods - Feeding the World or Destroying the Planet
2. The Ethics of Intervention - Human Rights, National Sovereignty and the Balance of Risk
3. Legalising the Drugs Trade: Reducing Crime or Increasing Addiction
4. Animal Experimentation - Indispensable or Indefensible?

October-November 2013: debating with another debate clubs from Tokyo University, Waseda University, etc.

November-December 2013: Public Debate on a topic in front of professors and students of University of Tsukuba, concluding the results of 6 months activities of the debate project.

活動期間

平成25年 6月3日～25年11月25日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O : 笠谷しいな (人文社会科学研究科)

P : QUIMPON Nathan Gilbert (人文社会系)

活動報告

活動成果

- ・活動内容

The team of Tsukuba International Debate Project was meeting every Monday from 18:30 till 20:30 at 8A building room #101.

○ June 3, 2013

Starting of the Tsukuba International Debate Project, explaining goals, introducing participants

○ June 10, 2013

Conducting training on American Parliamentary Debate Format, participants learned how to debate on different topics according to this format

Participants had short role play on argumentation skills (they had to prepare speech and present it to others proving that their point is more important)

○ June 17, 2013

Participants had exercises on improving presentation and public speech skills (Reading the text of US President about Challenger Space Shuttle's case, the speech of Neil Kinnock on elections)

○ June 24, 2013

Presentation on fallacies of argumentation in debates

○ July 1, 2013

Debates on topic: Shall death penalty be practiced or banned?

○ July 8, 2013

Debates on topic: This House Believes that same-sex marriage should be banned

○ July 15, 2013

Debates on topic: Internet censorship is a violation of right

○ July 22, 2013

Debates on topic: This House believes that whaling should not be banned. After the debates, topic was discussed with Professor Quimpo and participants received valuable remarks

○ July 29, 2013

Debates on topic: Progressive tax system

○ August 10, 2013

All Debate Project members went to climb Mount Tsukuba

○ August-September 2013: no debate activities due to summer break.

○ September 2, 2013

Training on British Parliamentary format, participants had debates on topic: GM Food – Feeding the World or Destroying the Planet

○ September 9, 2013

Debates on topic: The Ethics of Intervention – Human Rights, National Sovereignty and the Balance of Risk

○ September 16, 2013

Debates on topic: Legalising the Drugs Trade leads to reduction of crime (case of Holland)

○ September 23, 2013

Debates on topic: Animal Experimentation should be banned

○ September 30, 2013

Debates on topic: This House would ban Hate Speech

○ October 7, 2013

Debates on topic: This house would allow first-time offenders to, with the consent of the victims, pay compensation to them in place of a prison sentence

○ October 14, 2013

Debates on topic: Trans-Pacific Partnership is in the interests of the small and medium-sized negotiating countries.

○ October 28, 2013

Debates on topic: Commodification of indigenous cultures

○ November 4, 2013

Concluding the results of 6 months activities of the debate project, participants told their impressions about Debate Project and expressed their wishes about how it should be continued in future

つくばインターナショナルディベートプロジェクトは毎週月曜日の18:30から20:30まで8A棟の101号室で活動。

○ 2013年6月3日

つくばインターナショナルディベートプロジェクトを開始、目的説明、参加者紹介。

○ 2013年6月10日

アメリカ議会議論形式を用いてトレーニングを行い、参加者はこの形式に従って異なった議題のディベート方法を学ぶ。

参加者は討論技術を用い短いロールプレイ（役割演技）を行う。（彼らはスピーチを準備し他の人に彼らの点

がより重要であると証明するプレゼンを行う必要があった。)

- 2013年 6月17日
参加者はプレゼンテーションや公的なスピーチ技術の改善に勤しんだ。(スペースシャトル・チャレンジャーについてのアメリカ大統領のテキストや選挙におけるニールキノックのスピーチを読む。)
- 2013年 6月24日
ディベートにおける論証の誤った推論についてのプレゼンテーション
- 2013年 7月 1日
ディベート議題：死刑は執行されるべきか禁止されるべきか
- 2013年 7月 8日
ディベート議題：同性結婚は禁止されるべきか
- 2013年 7月15日
ディベート議題：インターネット検閲は権利の侵害になるか
- 2013年 7月22日
ディベート議題：捕鯨は禁止されるべきか
ディベートの後で Quimpon 教授と議論がなされ参加者は貴重な発言を受けた。
- 2013年 7月29日
ディベート議題：累進課税制度
- 2013年 8月10日
全参加者にて筑波山登山
- 2013年 8月中 夏季休暇の為活動なし
- 2013年 9月 2日
英国議会議論形式でトレーニングを行う
ディベート議題：GM Food (遺伝子組み換え食品) は世界の食料供給か惑星の破滅か
- 2013年 9月 9日
ディベート議題：干渉倫理－人権、国家主権とリスクのバランス
- 2013年 9月16日
ディベート議題：薬物取引の合法化は犯罪減少につながるか (オランダの場合)
- 2013年 9月23日
ディベート議題：動物事件は禁止されるべきか
- 2013年 9月30日
ディベート議題：憎悪表現の禁止
- 2013年10月 7日
ディベート議題：被害者の同意を得て実刑の代わりに賠償金を支払うことにより初犯者を許すこと
- 2013年10月14日
ディベート議題：TPP (環太平洋パートナーシップ) は中小規模の交渉国の為にあるのか
- 2013年10月28日
ディベート議題：先住民文化の商品化
- 2013年11月 4日
6か月間のディベート活動の成果を含め、参加者はディベートプロジェクトについての印象や今後も継続すべきかの希望を述べた。

今後の課題

The Project has finished and nothing was planned in new semester because many of participants have graduated from Tsukuba University and left Japan

たくさんの参加者が筑波大学を卒業し日本を離れるため、新学期の予定は何もなく終了した。

経験者からのメッセージ

Support more international projects where Japanese and foreign students can learn more about their cultures and cooperate in certain activities.

日本人学生と外国人学生が文化についてより学び、ある一定の活動において協力できる国際的なプロジェクトをより支援してほしい。

運営者側から見たパーティシパントの変化

Participants by the end of Debate Project became more confident in presenting their thoughts, improved their critical thinking, became good friends with each other. Some of participants also improved their English language skills.

参加者はディベートプロジェクトの最後には、自らの考えを述べる事により自信を持つようになり、批判的思

考を改善しお互い信頼関係を築けた。幾人かの参加者もまた英会話技術を向上できた。

T-ACT に関する感想

Thank you for supporting Tsukuba International Debate Project, it was pleasure to cooperate with T-Act members throughout whole period of the project activity.

プロジェクト活動の間、つくばインターナショナルディベートプロジェクトへの支援、ありがとうございました。また T-Act の方々と協力することは喜びでした。



Pieces of Peace (13039A)

T-ACT プランナー 小堀 詠美 (生命環境学群地球学類4年)

活動内容

9月21日は国際平和の日 (Peace Day) と呼ばれる世界中の平和や戦争区域の停戦、非暴力にささげる日です。この日は1人のイギリスの男優、ジェレミー・ギレイの働きかけにより、2001年に国連によって制定されました。しかし悲しい事に日本ではこの日の事自体や、制定までにたどった経緯について知っている人が少ないのが現状です。

私たちは、Peace Day の存在を広める事だけでなく、この活動を通して自分たちの身近にあるちょっとした平和について考える機会を人々に与えられたらと考えています。

活動計画

- 6月 国際平和映像祭へ映像作品を出展中
(6月中に予選の結果発表)
- 6月～9月 写真展のための写真撮影
(もし国際平和映像祭の予選が通れば、映像作品に手直しを加える)
- 9月中旬～下旬 学外での Peace Day 写真展 予定
(国際平和映像祭の予選が通れば9月21日の映像祭にて作品上映)
- 10月上旬 学内での Peace Day 写真展
CLOVER と共同で、ドキュメンタリー映画 The Day After Peace と私たちが制作した映像の上映会

活動期間

平成25年6月1日～25年10月13日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 串間琢郎 (医学類)、SITTIPHAN JIYAVORANANDA (芸術専門学群)、其田有輝也 (地球学類)
P: 三輪佳宏 (医学医療系)

活動報告

活動成果

・活動内容

9月21日 国際平和映像祭2013への参加

今年度は撮影した写真をもとに作成した映像を国際平和映像祭へ出展した。

予選を通過し、本選である9月21日の映像祭へ参加し、自分達の映像作品のプレゼン等を行った。

受賞には至らなかったものの、たくさんの方に自分達の作品を見ていただく事ができた。また、筑波大学内でやっている写真の活動の方にも興味を持ってくれた人がいたため、大学内での活動の紹介にもなった。

10月21日～10月25日 Pieces of Peace 写真展開催

3A棟1階のラウンジにて写真展を開催した。約80枚の写真を展示し、お昼休みや授業間の休み時間など、たくさんの人に見て頂く事ができた。

10月25日 国際平和映像祭 in つくば開催

3A207にてPieces of Peace活動のもととなった映画「ザ・デイ・アフター・ピース」の上映会を行った。スタッフも含め17名の方が参加して下さり、上映後の感想シェア会では活発に意見交換がなされた。

今後の課題

アクションの内容が写真を撮る人、映像をつくる人などかなり限定されてしまい、運営側に参加していても参加量の少ない人が多くいました。仕事の分配量が適切にできなかったと感じています。このためモチベーションの低下などを招いてしまい、運営側をどのように参加させるかという点で困難であると感じました。積極的に参加したいと言ってくれたメンバーも結局何をしたら良いのかわからないという状態に陥ってしまいました。

経験者からのメッセージ

自分の感じた事思った事をつらぬいて良いと思います。やりたいと思った事を実行してみる事は確かに大変だけど、自分の直感を信じてやり通してみてください。新しい自分の面が見えてくると思います。人を動かす事、物事を実行する事。言うのは簡単だけれど実際やってみると難しい事がたくさんできます。それをT-ACTというサポートシステムを通じて「やってみる事」はとても良い事だと思います。

たとえ失敗しても「とりあえずやってみる事」は学生の特権だと思うので存分に失敗をしてみてください。新しいものや人のつながりが見つかると思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

上映会後は一方向からのピースデイに対する意見だけでなく、多角的面から見たピースデイに対する意見が多く出ました。このような違った面からの意見はとても貴重だと感じました。

自分の将来やりたい事やしてみたい事をピースデイにからめた意見も多く出ました。

T-ACT に関する感想

全面的に協力して下さり、とても作業がしやすかったです。本当にありがとうございました。



希死回生～自殺予防のための啓発活動～ No.5 (13040A)

T-ACT プランナー 高橋 あすみ (人間学群心理学類3年)

活動内容

活動内容プロジェクトの最終目標は、筑波大学の学生、教職員に、自殺に対する問題意識を持つ機会を提供し、自殺に対する誤解や偏見を減らすこと。そして、自殺志願者、自殺者を生まない大学環境づくりに貢献することである。

No.5では、No.4で企画したイベント系の啓発活動を実施する。イベント系企画は、定常的な啓発より対象が限定されるが、少しでも興味のある人には効果があると考え、また気軽に参加しやすく、自殺予防を明るくとりえてもらえるはずである。

シンポジウムや講演会の参加、学内での啓発活動も続けていく。引き続き、自殺予防や自殺問題について私たち希死回生自身も、深く学び考えられる活動を行いたい。

以下には、No.1申請時に掲載した企画立案の経緯を載せる。

日本は自殺大国である。自殺の問題は「年間自殺者数が3万人を超える」ということだけではない。自殺志願者への自殺対策は、自殺対策基本法が定められてから徐々に進められているが、自殺に関する誤解や偏見は社会に根付いたままである印象を受ける。

「死にたいなら死ねばいいんじゃないの？」と考える人は多いと思う。私も以前は「自殺はひとつの生き方なのでは？」「生きるのが辛い人に生きろというのは酷じゃないの？」と考えていた。しかし、『自殺未遂～「生きたい」と「死にたい」の心理学(高橋祥友、2004)』という本で、自殺は「さまざまな問題に圧倒され、『自殺』しか問題を解決する手段がないといった、いわば心理的視野狭窄の状態に追いやられた末に起こされた行動」という文面に衝撃を受けた。自殺はつまり、「死にたくて」死ぬのではないのだ。

実際、「死にたい」という思いを、「勝手に死ねばいい」「死にたいと言う人は自殺しない」などと言って見捨てたり突き放したりすることで、本当に失われる命が存在する。裏を返せば、専門的知識がなく何の術を持たない人でも、自殺志願者を理解し手を差し伸べるだけで、ひとつの命を救うことができるかもしれない。自殺対策は自殺の危険をはらんだ人や、それをサポートする専門家だけのものではない。自殺に関心のない人、自殺に嫌悪感のある人などが、自殺について正しい理解を持つことで、自殺志願者を排除する社会ではなく、支えられる社会にベクトルが向くのではないだろうか。

活動計画

- ・“七転び八起き～こころとからだのセルフケア～” 実施(7月)
- ・“SAVING10,000～自殺者1万人を救う戦い～上映会 in 筑波大学” 実施(10月)
- ・愚痴言い合いイベント実施(冬)
- ・留年・休学生向けブックレットの作成(医学研究室と協働)
- ・定常的な啓発活動(HPや電光掲示板等を用いて)

[その他現時点で実施を考えている活動内容]

- ・外部の講演会・シンポジウムなどへの参加

活動期間

平成25年7月1日～25年12月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：皆吉智之(人間総合科学研究科)、東雄貴(比較文化学類)、池田雄太郎(システム情報工学研究科)、岩岡寛海(障害科学類)、佐々木夕莉(心理学類)、長峯聖人(心理学類)、岡本雄太(医学類)、村澤秀樹(人間総合科学研究科)

P：杉江征(人間系)、太刀川弘和(医学医療系)

活動報告

活動成果

- ・活動内容

【7/5開催 七転び八起き～こころとからだのセルフケア～】

「疲れて元気がでない」「やる気が出ない」といった学生を集め、体育系教授の坂入洋右先生を講師としてお招きし、実践型のセミナーを開催した。15名程の学生が集まり、自分でもできるセルフケアの方法を教わった。1時間程度の講義の後は、つながりづくりを目的に懇談会も行った。終始なごやかに進み、アンケートでは参加者の評判もよく、小規模ながら成功をおさめることができた。

【10/18開催 “Saving10,000～自殺者1万人を救う戦い～上映会 in つくば”】

上記映画の監督レネ・ダイグナンさんをお呼びし、映画の上映とレネさんによる講演のイベントを行った。広報の甲斐があり、40名近い学生・外部からの参加者が集まった。メッセージ性の強い映画の内容と、レネさん

の情熱的な講演により、参加者のアンケートは感想や意見でびっしり埋まった。「自分にも何かできることがある」「自殺はみんなで考える問題」ということを考えた、気づいたという感想が多く、「自殺問題について考えてもらう機会を提供する」目的で開催した今回のイベントとしては、予想以上に大きな成果を得たと思う。

【その他】

- ・昨年2月に医学系のワークショップで提案した「休学生・留年生向けブックレットの作成」案が可決され、実際に「休学生向けリーフレット」が作られることになった。我々はパートナーの先生を通して意見を出し、完成に向けて協力している最中である

- ・9月に自殺予防学会に参加

・目標達成度

無事にふたつのイベントを完遂することができ、また、イベントふたつの参加者の評判もよく、希死回生として非常に実りある回になったと感じている。今回は一方的に発信する「啓発活動」に限定せず、広く「自殺予防活動」としてイベントを実施できてよかったと思う。イベントを開催するにあたり、メンバーの結束も強まり、自殺予防へのモチベーションも高まったようにも感じられた。

一方、定常的な啓発活動はネット上、イベント時の資料配布にとどまってしまったので、次回はもう少し力を入れたい。

※今回、イベントの活動成果をPDFにまとめたものがあり、もし要望があればデータをお渡しするので、こちらも参照していただければと思います

今後の課題

- ・目的、対象を絞っても、最適と思われるイベントの日時場所をなかなか決定できなかったこと。広報にかかわることでもあるし、イベント内容を左右することなので、情報収集をしつつ早めに決めたい
- ・広報の仕方ですぐに学校の職員さんに迷惑をかけたこと。下調べをしっかりと、何事も早め早めに実行したい

経験者からのメッセージ

今回イベント中心の活動になったので、イベントについて。やはりイベントでの悩みどころは「いかに集客するか」だと思います。今回私たちがやって効果があったと思うのは、ネット上での情報拡散と、友達への宣伝です。

ネットでは、告知サービスを使ってイベントページを作り、URLをTwitterやFacebookで何度も情報公開しました。筑波大学HPの在学生向けイベントにも投稿。友達へはピラを配ったりメールをしたり、うとうとしたかもしれません…(笑)。

また、イベントに来てくれた人とメンバーが、直接お話しする時間をイベントで作ることも重要だと思います。コンセプトがちゃんと伝わって、今後のつながりができるとよいと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントというか、イベントに参加してくれた人について。

みなさん「心の問題」や「自殺問題」にもともと何かしら興味のある方だったと思う。だからこそ今回のイベントでは「打てば響く」印象だった。イベント参加後のアンケートに多くの人が多くの感想を残してくれたことから、参加してくれた人にとって何か変化や気づきがあったと思いたい。

T-ACTに関する感想

T-ACTシステムの「募集メール」が、300人ほどに送ったところ50人くらい届かなかったので、システム登録者の整理をしてほしい。



筑波大生専用キャリア支援サイト「つくキャリア」を作ろう！（13041A）

T-ACT プランナー 鈕持 駿（社会・国際学群社会学類4年）

活動内容

筑波大生は都心と比べてどうしても情報量が少なく、留学や起業、そして就職活動をする時などもそれが起因して中々一歩を踏み出したり、効率のいい選択をしたりする事が難しい状況です。そんな状況を先輩のノウハウが蓄積された筑波大生向けの情報サイトを作る事で解決し、そして全筑波大生に納得のいくキャリア形成をしてほしい。私たちはそのような想いで活動しています。

最終的な目標はこのウェブサイトを紹介して筑波大生とOB・OGが繋がり、現役生がキャリア選択をする際に参考となる情報を確実に提供できる事、そして彼ら彼女らの納得のいくキャリア形成に貢献をする事です。

活動計画

- 7月 茨城テレビでのテレビ特集で活動紹介
- 8月 筑波大学構内でのピラを使っの運営者 & ライター募集 記事目安70本
- 9月 筑波大学構内でのピラを使っの運営者 & ライター募集 記事目安80本
- 10月 筑波大学構内でのピラを使っの運営者 & ライター募集 記事目安90本
- 11月 筑波大学構内でのピラを使っの運営者 & ライター募集 記事目安100本
- 12月 筑波大学構内でのピラを使っの運営者 & ライター募集 記事目安110本
- 1月 筑波大学構内でのピラを使っの運営者 & ライター募集 記事目安120本

活動期間

平成25年7月1日～26年1月1日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

〇：山崎、英、山崎、鮭川、日野、平山

活動報告

今後の課題

ドタキャン率が多かったので、リマインドメールをこまめに送るなどの対応をしっかりと行えばよかった

運営者側から見たパーティシパントの変化

就職活動に関して早い時期から高い意識を持ってもらうことができた。実際に夏からインターンシップに参加する子も多く出た。

T-ACT に関する感想

特になし

Eating Place Map for Muslim Project (13044A)

T-ACT プランナー 榎府 奈緒子 (社会・国際学群国際総合学類3年)

活動内容

ムスリムをはじめとする食事制限のある留学生が増えてきていますが、大学内の食堂、周辺の飲食店ではそのような人のための配慮があまりなされていないことが多いと感じています。また、ハラルカフェの閉店によって留学生の中には食事の場がなくなってしまい不自由を感じている留学生も多いことを知りました。学食や周辺の飲食店の方にご協力頂いて食事制限をしなくてはいけない可能性のある食べ物（豚肉、アルコールなど）がわかるメニュー作りやその協力店をマップにして必要な留学生に活用してもらうのが最終目的です。

活動計画

7月 活動開始。ムスリムとの意見交流会。
9月 注意すべき食品の一覧表作成。飲食店に協力依頼
10月～ 飲食店に協力依頼。マップ作り。

活動期間

平成25年7月9日～26年1月9日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O : Nur Akmal Binti Azis (国際総合学類)、鈴木大 (応用理工学類)、堀内栞 (比較文化学類)
P : 吉原ゆかり (人文社会系)

活動報告

活動成果

・活動内容

7月5日 : 日本人参加者とのミーティング
7月16日 : 19日のミーティングに向けての打ち合わせ
7月18日 : 留学生とのミーティング
7月24日 : モスク訪問、アンケート実施依頼
7月26日～ : ウェブアンケート作成
8月26日～9月31日 : ウェブアンケート実施
7月24日 : 紙媒体のアンケート集計
10月16日 : アンケート集計、計画についてミーティング
11月9日 : マニュアル作り
12月24日 : 学生厚生課に協力依頼
1月14日～ : 学食の業者へ個別連絡
1月23日 : 学食の方と話し合い
1月24日 : 学食の方と話し合い

・目標達成度

60%

留学生とのミーティング、マニュアルを作り学食へ導入の働きかけをするなど予定していたことの一部は実現することができたが、予定通りには進められなかった。

一方で、他大のハラル事情をネットで調べて参加者で共有したり、他大学で直接留学生から話を聞いたり計画にはなかったことができた。加えて、ハラルについて理解のある学食の方などとも交流できる機会を持つことができた。

・得られた成果

ハラムに関する食品表の作成
学食への交渉
他大のハラル導入状況の情報シェア

今後の課題

・参加者の偏り

この問題に問題意識を持つ人は留学生が圧倒的に多く、日本人が少なかった。このプロジェクトを進めるためには日本人の問題への理解と日本人の協力者が必要だったが日本人の参加者が少なかった。

・日本人の宗教に対する考え方

日本人の多くは留学生の食の問題に問題意識がなく、「ハラムの食品を食べても健康被害が出るわけではないのですね？」など宗教への理解を持っていない方に粘り強く説明する必要があった。

経験者からのメッセージ

自分が考えていたプランが思い通りに進むことは少なく、悩んだり困ったりすることもあると思います。そこで、周りの人と話したり相談したりする余裕を持つことが自分にもプラスになります。失敗を恐れずに、気持ちに余裕を持って取り組んでください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

特になし

T-ACT に関する感想

もっとメンバー集めをしやすいシステムが欲しい。

四角大輔トークライブ@筑波大学 (13046A)

T-ACT プランナー 安里 高泰郎 (人間学群心理学類1年)

活動内容

【気づきの場】を創り出す。

元アーティストプロデューサーの四角大輔さんをお招きして講演会を開催する。

結果として自分のやりたいこと、好きなことを探求する筑波大生を一人でも多く増やす。

活動計画

7月上旬 第一回ミーティング

四角さんについて知る。(他大学での講演会聴講、著書購読)

9月上旬 定期ミーティング開始

10月上旬 四角さんをお招きしての講演会

10月中旬 振り返りミーティング

活動期間

平成25年7月9日～25年10月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：鮎川亮太 (社会学類)、桑原未来 (国際総合学類)、長塚信二 (システム情報工学研究科)、関根茉以 (障害科学類)、大川畑詩衿 (看護学類)、佐賀ゆり香 (社会学類)、末永加奈 (社会学類)、米倉元気 (心理学類)、津留奏太 (社会学類)、塚本真理 (芸術専門学群)、高森桃子 (知識・情報図書館学類)、吉原美香子 (知識・情報図書館学類)

P：五十嵐泰正 (人文社会系)

活動報告

活動成果

・活動内容

7月上旬：第一回ミーティング

四角さんについて知る。(他大学での講演会聴講、著書購読)

9月上旬：定期ミーティング開始

11月中旬：四角さんをお招きしての講演会

11月下旬：振り返りミーティング

・目標達成度

30%

(理由は今後の課題参照)

今後の課題

丁寧な運営を心がけていたが、先方の都合により切迫した準備期間となってしまう途中から丁寧な運営を行うことが出来なかった。

結果、メンバー一人一人が主体的にかつ楽しく運営に関わるのではなく、どこか義務感に縛られる形で運営に参加することになってしまった。

経験者からのメッセージ

どのような結果になろうともメンバーはもちろん、企画に関わる全ての人とのコミュニケーションを大切にしていかなければ企画の成功はない。

でも、実際にやってみることは大切で、やりただけで終わらせないこと！

運営者側から見たパーティシパントの変化

講演者の四角大輔氏は講演会を何度もやっているプロなので四角氏の伝えたいことは十分に伝わったと思うし四角氏の力をお借りして我々も筑波大学生に【気づき】を得てもらうという目的を達成できたと思う。

T-ACT に関する感想

現状に満足です。

少し Web が見づらいので改善していただけるとありがたい。

(ログインの仕方やその場所がわかりづらい)

Tsukuba Ensemble Project 部屋で眠る管楽器のためのアンサンブル(13047A)

T-ACT プランナー 佐藤 一輝 (理工学群物理学類2年)

活動内容

楽器を買ってもらったけど大学に入って吹く機会がない、もっと少人数で気軽に音楽をしたい、大学の音楽サークルはどれも入りづらくて…etc

折角の楽器や技術、演奏欲を眠らせているのはもったいない！

眠っている楽器を持ち寄って、10月・12月にアンサンブルの発表をします。

ジャンルは、ジャズとポップスをメインにしますが、その他、クラシックなどもOKです。

楽器のスキルは問いません。金管・木管も問いません。編成に縛られず、皆で楽器を吹くことを目的にします。楽器持ち大歓迎です！

活動計画

7月 活動開始

メンバー集め

7月時点でのメンバーで選曲→楽譜入手→配布

7月～10月 月に3回、1～2時間程度の全体練習

10月末 第1回発表会@未定

12月末 クリスマスコンサート(第2回発表会)@未定(屋内?)

活動期間

平成25年7月1日～25年12月27日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：佐藤愛(情報メディア創成学類)、塩田麻彩(日本語・日本文化学類)、岡村栄里奈(工学システム学類)、中居直也(数学類)、樋川泰祐(数学類)

P：東山和幸(数理物質系)

活動報告

活動成果

・活動内容

7月16日 第1回ミーティング 活動方針、選曲方法、メンバーの集め方等の話し合い。大まかな組織作り。

- ・課外活動練習施設で活動していたものを、5C棟内で練習する
- ・メンバーの日程を合わせ、全員が来られる日を毎月3回程度選んで練習
- ・曲目を3曲決定。10月の演奏会に向けて練習を開始。

8、9月 夏休み期間中は空調が入らない事による練習と楽器自体への悪影響や、メンバーのサークル活動を考慮し、活動は一時休止。

10月 毎週金曜日の放課後に活動を開始。各回にミーティングを行う。

- ・11月から、活動を火曜練習、金曜練習の週を交互に作ることを決定。
- ・練習時間を考え、二曲に減らす。
- ・アンサンブル譜の作成、編曲、配布。
- ・twitterアカウントを作成。広報、メンバー集め用。
- ・友人にも声をかけ、参加できるようなら来てもらう。

10月28日 夏休みに練習ができなかったこと、メンバーの欠席により、演奏会中止

11月 10月の話し合いで、新しく火曜日も活動することに決まったので、この月から実施。→途中から、火曜、金曜練習を毎週入れる。

11月22日 メンバーでホームパーティーを開催。コミュニケーションを図る。

12月 火曜、金曜の週二回、練習を行う。

12月20日 クリスマスコンサート予定日。

活動の途中でメンバーが欠けてしまい、断念。

昼休みのアンサンブルコンサートを開くという目標は結局果たすことはできなかった。また、楽器を持っていかつ放課後に余裕のある人に参加者が限られてしまうため、思ったようにメンバーを増やすことができなかった。

しかし、T-ACTで活動をし、団体としての仕組みがかなり整ったこともあり、今後も学生団体として継続して活動していくことになったのは大きな収穫だと思う。

今後の課題

- ・定期的に参加という形の活動では、メンバーを集めるのに限界がある。
- ・当初はピラを配る、宣伝動画を作るなど考えたが、どうにも時間もなく、担当者や企画者の負担が大きくなってしまった。
- ・活動についてのメールをくれたり、参加するとは言ってくれたりした皆さんも、日程が合わず、結局新メンバーは一人しか集まらなかった。
- ・企画当初のメンバーも、サークルの代替わりを受けて3人ほど減ってしまった。
- ・場所取りや練習日程、方法、さらにコンサート運営に当たっては企画から実施計画、演奏曲目の掲示のしかたなど、ほとんどすべての活動を一人でこなした。一番余裕があるのが自分だという自覚はあったものの、つらかった。人数が少ないので仕事を割り振ることができなかった。
- ・T-ACTとしての活動は終わってしまったが、今後も団体としては継続していくことになった。この期間中に練習の運び方や基本的な日程が決まった事が大きいと思う。

経験者からのメッセージ

- ・団体の組織作りはとても大切。途中で変わってもいいから、その時点で良いと思われるものをできるだけ早く作り、整備しておくべきだと思う。
- ・ミーティングは、大きな議題が特になくても開いた方が良い。それだけでコミュニケーションの場が持てるし、メンバーに悩み事や行き詰っていることを相談できる。
- ・活動、話し合いはできるだけ定期的に、早めに決める。予定が埋まらないうちに。

運営者側から見たパーティシパントの変化

結局、楽器をどうしても吹きたいと思ってくれているメンバーだけが残った印象。少人数ながらも充実した練習だったと思う。活動が定期的になり、活動内でも時間に区切りを設けたりするにつれ、より積極的に取り組んでくれたし、改善点もどんどん上げてくれるようになった。

T-ACT に関する感想

具体的に何ができるのか分からずかなりの時間を使ってしまった。

当初はT-ACTに頼りすぎてしまったし、最後の方は自分たちだけで活動した。T-ACTにどの程度頼ってよいのか、どこからは自分たちで進めなければいけないのかが分かっていなかった。

T-ACTに入ることでできることだけでなく、それまでの手順、手続きも教えてほしかった。また、T-ACTではできないこと（貸出備品の内容など）も教えてほしかった。



演劇集団 NO PLAN (13048A)

T-ACT プランナー 勝又 紀章 (理工学群工学システム学類3年)

活動内容

演劇を身近なものであること、その魅力を知ってもらうにより、つくばでの演劇文化を振興することを目標とする。

現在日本では、一般的に演劇を見る機会が少ない。

学芸会や文化祭などで芝居を行うことはあっても、年をとっていくと、全くかかわる機会がなくなってしまう。

この原因の一つに、今の日本人に「時間がない」ことがあげられる。

演劇は公演に際し役者、スタッフ、演出、かかわる人間全てのスケジュールを合わせたものでしか提示できない。

また、公演時間自体がアドリブ等によって変化することもあり、開演時間も観客土壇場に入ってくれば遅くすることもある。

大体何分と示せても、必ずいつまでに終わると明示できないうえ、いつはじまるかも明示できない。

更に公演ができるような広い場所は限られたものであり、劇場まで足を運ぶのも手間である。

東京などであればまだしも、つくばや茨城では劇団がそう多いとは言えず、移動時間がネックとなり演劇を見られない人もいるのではないかと考えた。

また、音楽や映像についてはテレビコマーシャル等で見ることはあっても演劇のコマーシャルはなかなか見かけない。

演劇について情報を手にするには自分から情報を手に入れに動かなければならない。

しかし、時間がないから自分から情報を集めることは難しい。

それではあまり元々興味のなかった客は期待できず、芝居が芝居好きだけの内輪向けのものになってしまい、外への発信は薄くなり、さらに初見の客が入ってくる可能性を狭めてしまう。

そのため、日本人が公演をやっていることを知らないから、あるいは知っていても公演に行くだけの時間を留意しにくい芝居に関われないのではないかと考える。

そこで私は、面倒さを芝居が身近で行われているものにするすることで、情報面については広報活動に力を入れることで解決しようと試みようとしている。

前者について、私ができること、あるいはこの企画でできることはつくばで一回の公演を打つことである。

私ができることは、東京などに行かなくても見られる、身近な芝居を提供することで、多少なりとも時間的拘束を減らし、芝居を見ることの垣根を下げることである。

後者についてはビラ配りやポスター貼り、twitter、等々思いつく限りいろんな手段を用いて行いたいと考えている。

より多くの人の目に触れて欲しいため、大学外でも内でも行いたいと考えている。

楽しい、もっと見たいと客席に座った人に思わせるような公演ができれば幸いであり、その客席が多く埋まっていることが私にとって幸いである。

そして、その流れで別のつくばでの劇団の観客となる、あるいは自分から芝居を作っていく人間がその中でも一人でも現れれば、それで目的が達成できたものであると考える。

活動計画

8月 活動開始

メンバーを集め、公演内容について話し合いをし、

演出、役者を決め、練習を開始。

スタッフの割り振りを決め、広報の準備を開始する。

9月 舞台図完成、機材確定。

10月6日 公演を行う。

10月8日～ 片づけ、会計報告、反省会。

10月末 活動終了

メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成25年8月1日～25年10月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：岡田昂太郎（工学システム学類）、百生成美（日本語・日本文化学類）、南角建人（教育学類）、岡田耶万葉（比較文化学類）、吉原祐輔（数学類）、大田佳苗（比較文化学類）、三宅映未（芸術専門学群）、星野諭、桜義一、青山周平（情報メディア創成学類）、小田桐光輝（知識情報・図書館学類）、根本絢子（人文学類）

P：延原肇（システム情報系）

活動報告

活動成果

・活動内容

2013

- 8月13日 第1回ミーティング
- 9月7日 顔合わせ
- 9月12、18、25日 スタッフミーティング
- 10月5、6日 公演

・目標達成度

80%程度の達成度であると私は感じている。

というのも、公演は無事に行えた、という点で私の中で十分な達成度があり、かつ客数は普段サークルで行っているものよりも多かったものの、広報が不十分で学外者があまり呼び込めなかったことによる。

公演の内容自体は好評であり、メンバーともまたやりたいと思えるレベルの内容と雰囲気だったため、また機会があれば似たような公演を行い、筑波演劇を新興していきたい。

・得られた成果

各劇団の舞台の建て方の違い等、次回以降行う際の土壌を作ることができた。

今後の課題

今回はメインスタッフを同劇団の人間で固めたためやり方の違いが致命的な点では発生しなかったものの、別の劇団の人間で分業して行っていた場合おそらく成立しなかった。

劇団系のサークル所属の人間でないと演劇に関するノウハウが得られないため、もっと気軽にハウツーを学ぶ場所を提供できるといいかもしれない。

経験者からのメッセージ

安全面に気を付けてやってください。

許容電力の大きさ、客席と舞台、照明のスペース、借りた機材の保管場所等々。

考えるべきことはたくさんあるため細部にまで気を使ってください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

大変楽しんでいただきました。

T-ACT に関する感想

ご後援いただきありがとうございます。

いろいろと書類手続きが楽でよかったです。

私からの要望は特にありません。

ただ、演出が広報物に T-ACT のロゴを入れなければならないのをどうにかできないか、と常に言っていた記憶があります。

● 世界食料デー月間イベント ～ One dish One hope ～ (13049A)

T-ACT プランナー 富山 夏樹 (社会・国際学群国際総合学類1年)

● 活動内容

10月16日は、世界食料デーという、国連が制定した世界の食料問題を考える日です。筑波大学では、一昨年度からTFTとYEHが共同で、世界食料デーについて知ってもらうイベントを行ってきました。

昨年度は、「世界の食」に着目し、筑波大生に「食べ物への感謝の気持ち・食べられることのありがたさ」を感じてもらうことをメインとしました。

今年度は、飢餓と飽食の現状、フードロス、食への感謝、自分の行動が飢餓状態の人々の幸せにつながることの実感、の4つについて、イベント参加者に食べることから知ってもらうことを目的にし、活動したいと思えます。

具体的には、食堂(3学食堂、1学食堂、医学食堂などに交渉中)にTFTメニューを提供してもらい、その1食分の売り上げのうち20円を二団体で10円ずつ分割し、それぞれの支援国への寄付金とします。

1か月間、食堂を支援国の写真やモチーフで装飾し、コラムの展示をします。3学食堂のテレビで、食料デーについて知ってもらうための、自作のムービーを放映します。

11月に、ご飯会を開催し、支援国の料理の提供と学生によるワークショップを行います。参加費をとって、収益分は、両団体で折半して、寄付金に回します。

● 活動計画

- 6月～7月 活動開始
YEHとTFT両団体を中心として話し合いを進めて計画を練る
- 7月～8月 学生食堂に交渉に行く
係分担
予算などを立て、予算見積書を提出する
学食へ提案するメニューを考える
- 9月 装飾の材料の買い出し、コラムの作成、ムービーの作成など
- 10月 イベント開始
広報の開始、学食の装飾、コラムの展示、ムービーの放映
ご飯会の会場となる教室、機材の確保
- 11月 ご飯会
支援国の料理の提供と学生によるワークショップ
ご飯会来場者にアンケートを配り、イベントの効果や感想を募る
イベント終了
メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる
収支報告書を提出する

● 活動期間

平成25年10月16日～25年11月15日

● T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：江橋由夏(生物資源学類)、佐々木めぐみ(生物資源学類)

P：林久喜(生命環境系)

活動報告

活動成果

・活動内容

11月まではほぼ活動計画通り進んだ。

11月12日 リハーサル

11月13日 前日準備

11月14日 ご飯会当日

・目標達成度

ご飯会当日に来場者アンケートをとったところ、約7割の人が「食べることから知る」でかかげた4つの項目について、「よく実感できた」と回答したため、目標はおおむね達成できたと思われる。

・得られた成果

運営側としては、会議の進め方、広報の仕方、食糧問題についての知識などが身につけられたのではないかと思う。

参加者の方には、食についての意識を少しでも深めることができたのではないかと思う。

今後の課題

3 学食堂にコラムを展示するつもりだったが、あまり貼れる場所が少なく、人目にもつきにくかった。

経験者からのメッセージ

まずは、自分の知り合い、友人に協力を要請したほうが良い。自分ひとりでやるのにも限界がある。

運営者側から見たパーティシパントの変化

食についての意識を深められたのではないかと思う。

T-ACT に関する感想

・ありがとうございました。

協力 Youth Ending Hunger 茨城 × TABLE FOR TWO 筑波大学

「世界食料デー」月間@筑波大学

One dish One hope

期間：10月16日～11月15日

「世界食料デー」月間って？

10月16日は世界食料デー、国連が定めた世界の食料問題を考える日です。日本では国際機関やNGO/NPOが呼びかけて、世界食料デー前後の期間を「世界食料デー」月間とし、さまざまなイベントを行っています。筑波大学でも、2011年から、Youth Ending Hunger 茨城とTABLE FOR TWO 筑波大学の協力を得て、学食を装飾で盛り上げたり、学食で1食買うごとに途上国に寄付金が渡るシステム(TFT)を導入したり、講演会を行うなどの活動をしてきました。

今年は**パワーアップ**して**食事会**を開催！

ぱく＊ぽか

一緒に食べようアフリカンディナー

食事会	ワークショップ
企画の協力団体であるYEH 茨城、TFT 筑波大学の支援先であるウガンダとケニアの料理を提供します。 × チャパティ（ウガンダ）、サモサ（ケニア）	・アフリカの国へ実際に行った学生の体験談 ・参加者も楽しめる参加型のゲームなどで食について考えよう！

日時：11月14日（木） 18時半～
 場所：student commons（1A棟2階）
 参加費：400円
 お問い合わせ：国際総合学類 畠山夏樹 world.food.day.tsukuba@gmail.com

承認番号：13049A

TMPアーティストライブ2013～学園祭ライブで皆さん、スタッフ、アーティスト全員で「驚き、衝撃、感動」を共有しよう!!～(13050A)

T-ACT プランナー 澤田 悠太 (理工学群社会学類2年)

活動内容

「学園祭ライブの伝統を筑波大学に創って、もっと学園祭を盛り上げたい。」1人の学生が持った小さな純粋な夢は、昨年、同じ志を持った仲間と、それに賛同する地元のイベンターさん、音楽店の協力、そしてT-ACTフォーラムの先生方の協力を得て、昨年の学園祭で「筑波大学学園祭ライブ～音楽と映像の融合～」といった形で実現されました。また、昨年の学園祭ライブではDEDEMOUSE、MOP OF THE HEAD、THE APRILSといった実力派プロミュージシャンと大学会館ホールの真っ白な壁へのVJ映像投影との融合といった未だかつてないライブイベントの形も示され、最終的には集まった250人を超える皆さんの大歓声に包まれて奇跡の成功を遂げました。実際に足を運ばれた方もいるのではないのでしょうか？学園祭ライブプロジェクトの実行委員は「つくばミュージックプロジェクト」として今年も活動を続け、「今年の学園祭ライブは去年のものよりも更に更に更にパワーアップさせよう」という意思の元、すでに何度もミーティングを行っています。今年は「TMPアーティストライブ2013」とタイトルも新たに、500人の皆さんの動員を目標にしております。また、皆さん、スタッフ、アーティスト全員が『驚き、衝撃、感動』を共有できる最高のライブを作り上げ、筑波大学の学園祭ライブの伝統と新たな伝説を刻もうと頑張っています。

音楽やコンサート運営に興味のある人、筑波大学の魅力をもっともっと外に発信したいと思っている人、学園祭を最高に楽しみたい人、音楽が人と人とを繋ぐ現場を目撃したい人……。理由はなんでも構いません。スタッフ、皆さん、当日スタッフをしてくださる方、どんな立場でも構わないので、もし少しでもこのプロジェクトに興味のある方がいたら是非とも「つくばミュージックプロジェクト」のホームページよりお問い合わせください。待っています！

活動計画

- 8月 活動開始
これまでのミーティングをもとに、アーティストのオファーや当日の演出の決定、また、広報活動を始めて行く。
- 9月～10月末 広報活動、チケット販売、機材の準備や確認を本格的に進めていく。
- 11月3日 TMPアーティストライブ開催！！
- 11月中 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめ、今後の活動につなげる。

活動期間

平成25年8月1日～25年11月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：森夏紀（知識情報・図書館学類）、重野健斗（数理物質科学研究科）
- P：松田裕雄（体育系）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 8月 出演者へのオファーの完了
- 9月 チケットの販売 & 広報活動開始
- 10月 広報活動（高校へのプレゼン、学内ビラ配り、学内CM放映、学内ポスター貼り、地域へのポスター貼り、学内団体へのプレゼン、SNSでの情報拡散など）
- 11月 本番（来場者 約300人）

・目標達成度

70%（根拠：目標の来場者500人には届かなかったが、昨年より収益と来場者の数を増やすことができたから。また、エントランスでの特設ステージなど新しい工夫を施すことができたから。）

・得られた成果

来場者と収益のアップ。エントランスステージや広報方法など新たな企画や取り組みに挑戦できたこと。

今後の課題

- ・来場者の増進のための更なる工夫（出演者のジャンル、イベントのコンセプトの明確化、チケット価格、付加価値）



- ・運営費の調達やギャラ交渉
- ・より効率的な広報活動

経験者からのメッセージ

一人で全ての仕事を抱え込んだほうが負担は大きくても動きやすい部分はあるとおもいますが、そこをいかに仲間（パーティシパント）と分業してクオリティの高いものを作り上げられるかが腕の見せどころだと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

中にはフェードアウト気味の人もいましたが、開催日が近づくにつれ、「このイベントは自分が成功させてやるんだ。」という気持ちで取り組んでくれたメンバーのおかげでなんとかやっていました。ありがとうございました。

T-ACT に関する感想

今年の活動を振り返ると、本当に、本当に T-ACT 様にお世話になりました。来年以降も続けていこうと思っているのですが、いまの現状ですと T-ACT 登録をさせていただかなければ正直まだまだ運営が厳しいです……。ぜひ来年もお力添えしていただければと思います。よろしく願いいたします。大久保先生、古谷さん今年も本当にお世話になりました！今後ともよろしく願いいたします。

Tsukuba Music Project

アーティストライブ '13

～驚き・衝撃・感動～



オウリカラ



Kao=S



give me wallets
give me wallets (DJ set)



Sa-ya (give me wallets)



テラダキョウスタ (日の経)



skimo (MIXXTURE/SUGCO)

ライブに行くのは初めてという方から無類の音楽好きな方まで迫力の映像と音楽が融合した世界を筑波大学で体感してください。

11.03.SUN OPEN 14:30 START 15:00

@ 筑波大学 学生会館ホール

筑波大生限定券	前売り 1500 円	当日 2000 円
高校生以下	前売り 1000 円	当日 1000 円
【氏名・購入枚数・学籍番号（筑波大生のみ）】を明記の上、こちらのアドレスまでご連絡下さい。予約済メールを返信させて頂き、後にチケットに引き換えさせていただきます。 アドレス: tsukuba.music.project@gmail.com		
一般	前売り 2000 円	当日 2500 円

一般向けチケットはe+からご購入頂きます。
 詳しくは当ライブ特設サイトHPをご覧ください。
 アドレス: <http://tmp-artist-live2013.wix.com/tmp-artist-live2013>

Twitter: @Tsukuba_Music_P 

出演アーティストが変更・キャンセルになった場合による払い戻しは一切行われません。予めご了承ください。

HAPPY PINNING! (13051A)

T-ACT プランナー 堀江 翔太 (数理物質科学研究科 M1)

活動内容

Pinterest というピンボード風の写真共有サイトがあります。
ここに筑波大学のグループボードをつくろうという企画です。
たとえば・・・
これで芸術学群の作品を見られたら、
これで筑波実験植物園の植物が見られたら、
これで図書館に新入荷する本が見られたら、
これで電子顕微鏡や MRI の画像が見られたら、
これで NIMS の「材料の力」のような写真が見られたら、
(例がマニアックかもしれませんが、とにかく大学には面白いピンボードができるポテンシャルがあると思います。)
絶対楽しいです。
楽しいボードをつくることが目標です。
とくに研究者の方を巻き込めたらと思います。
たくさんの人を (大きさに言えば大学関係者全員?) 巻き込んで一つのものをつくるという、スケールが大きい企画 (になってほしい) です。
最終的にはグループボード参加者が新たな参加者を呼ぶという形で、ひとりでのボードが動いていくと思います。そうなればプロジェクトは完了です。
うまくボードが機能すれば大学としても有効な広告媒体にもなり得るはずで、日本の大学では初めてかもしれません。
日本ではあまり知られていないようなので、とにかく Pinterest がどういうものか知ってもらえたらと思います。Pinterest の公式ウェブサイトとウィキペディアでの Pinterest の URL を以下に示します。こんな写真をのせたらいいのではないかという例として、NIMS のサイトも以下に示します。
<http://pinterest.com/>
<http://ja.wikipedia.org/wiki/Pinterest>
<http://www.nims.go.jp/chikara/index.html#column>

活動計画

時期は不明ですが、活動内容は大体次のような感じです。
活動開始
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
まずはどんなボードをつくりたいか、参加するみんなで決めていきます。参加者の中でイメージが固まってきたら、ひな形となるボードを作ります。
あとは、できるだけたくさんの人に対して、Pinterest を紹介しつつ、グループボードに参加してもらえように交渉していきます。
コンテンツはあっても写真がない場合は、写真にする作業があるかもしれません。
活動終了
メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる
グループボードは少々の管理をしつつ続いていくのではないかと思います。

活動期間

平成25年6月23日～25年12月22日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 木野内、増田

活動報告

活動成果

・活動内容

10月29日 法律相談

・目標達成度

法律相談で必要だとされた規則もできておらず、ほとんど目標は達成していない。

・得られた成果

進めるにあたっての課題が見えてきたことが成果と言える。

今後の課題

不特定多数の人が参加する場所を作りたかったので不測の事態に備えてルールを決めておかなければならず、あらゆる状況を考慮するという点でなかなか大変だった。

就職活動と重なるとなかなか集中して活動できないのでその時期は避けたほうがいい。

つくちよこプロジェクト2013 (13058A)

T-ACT プランナー 森 拓也 (人文・文化学群比較文化学類1年)

活動内容

つくばのまちちよこ「つくちよこ」プロジェクトのスタッフを募集します。
まちちよことは、地域の大学生たちがプロデュースしたフェアトレードチョコレートです。
まちちよこについての詳しい説明は→ <http://machichoco.jimdo.com/> まちチョコ/
毎年、つくばフェアトレード推進委員会 (FRAT) がプロデュースし、「つくちよこ」の開発・販売を実施しています。

今回の T-ACT 企画では、できるだけ多くの方に「つくちよこ」を知ってもらい、親しみをもってもらうため、企画をサポートするスタッフと一緒にさまざまな活動を実施していきます。

今回の企画では、

- ・「つくちよこ」スタッフによるつくちよこパッケージデザインの考案
- ・「つくちよこ」を置いていただくお店をプランニング
- ・考案されたパッケージデザインをもとにシール or タグのデザインを作製
- ・作成されたシール or タグをちよこに貼り付け

……を実施する予定です。

本企画では販売活動は含まず、あくまでスタッフや多くの本学生にフェアトレードを理解してもらい、フェアトレードの認知度を高めることを第一目標とします。

つくばの新たな名物を自らの手でデザインしてみたい！

地域の活性化に一役買いたい！

せっかく大学に来たのだから何か新しいことをやってみたい！

……と考えている人、ぜひ来てください!!! 大歓迎です!!!

活動計画

10月 T-ACT 承認

オーガナイザー募集、ポスター作成

オーガナイザーとフェアトレードの趣旨・活動内容を確認・共有

つくちよこパッケージデザインの考案 (数種類)

つくちよこを置いていただくお店をプランニング

11月 つくちよこパッケージデザインの決定

考案されたパッケージデザインをもとにシール or タグのデザインを作製

作成されたシール or タグをちよこに貼り付け

12月 「つくちよこ」をポスターで宣伝 (予定)

活動期間

平成25年10月1日～25年12月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 佐藤文香 (生物資源学類)、山岸彩夏 (生物資源学類)、糸澤文香 (社会工学類)、中村聡子 (社会工学類)

P: 平石典子 (人文社会系)

活動報告

活動成果

・活動内容

10月09日 ミーティング (つくちよこのスタンス)

11月13日 ミーティング (フェアトレードについて)

11月20日 ミーティング (フェアトレードについて)

11月25日 ミーティング (フェアトレードについて)

12月03日 ミーティング

12月09日 ミーティング (つくちよこを置いてもらう店の候補・パッケージデザインの種類)

12月25日 ミーティング (つくちよこプロジェクトの今後の予定確認)

オーガナイザー・パーティシパントともに全然人が集まらなかったのは残念である。

しかし、つくちよこを置いてもらう店やパッケージデザインはまだ決定していないが、ある程度の案を出すことができた。今後は T-ACT ではないが、FRAT のほうにその案を持ち帰りいくつかの案の中から最終決定をする予定である。目標達成は30%ほどだろう。

今後の課題

どうしても人が少なかったので、計画通りに mtg が進みませんでした。

あとは…フェアトレードのことを理解している人は（筑波大学に限ったことではないが）本当に少ないということを感じました。

経験者からのメッセージ

やはり宣伝は大事ですね…

またどんなに宣伝しても自分の思うほど人は集まらなかったです。世の中は甘くないんですかね…？

それでも、プランナーとしてさまざまな働きかけをすることはとても忙しいのですが、その中に自分の新たな発見を促します。実際、僕は1つの活動のリーダーとして動くのは人生の中で初めてで、多くの新しいことを体験しました。

プランナーとしての経験は100%今後の人生になにか役に立つことがあるでしょう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

もう少しフェアトレードについて理解できるよう mtg をできればよかったですね…

T-ACT に関する感想

T-ACT 申請の前から T-ACT フォーラムの方には色々とお世話になっているのですが、いつ何時訪れても丁寧でわかりやすい対応をしていただき、大きな力となりました。

T-ACT 企画を自ら遂行していく過程で、T-ACT は学生の「なにかをやってみたい」をサポートする場として最適なものであると思いました。

今後も積極的に T-ACT を活用していきたいと考えています。

ありがとうございました。

【インプロ×ダンス】プロの講師から表現する楽しさを学ぼう！（13062A）

T-ACT プランナー 大西 衿沙（理工学群応用理工学類3年）

活動内容

■問題意識

- ①自己肯定感の低い筑波大生
→自分の表現が正解として認められる場であるインプロを通して、ありのままの自分で堂々として生きるきっかけを作る。
- ②既存の枠組みの中でしか動かない筑波大学生が多い。
→もっと飛躍的な研究、活動ができるのではないか？普段触れ合うことのない表現活動に触れ、既存概念を揺さぶることで創造性が高まるということが明らかになっている。

■企画立案の経緯

- ①筑波大生にもっと身体も心も解き放って表情のある生活を提供したい
- ②演劇を通して地域や大学を更に豊かにしたい

■最終的な目標

- ①インプロやダンスを通して、自分自身を表現する方法がたくさんあることを知り、表現力豊かな学生を増やす。
- ②自分を堂々と表現する筑波大学生を増やし、主体性が高く相手を尊重できる学生であふれる大学にする。

活動計画

- 10月 講師陣とワークショップの内容の相談
広告作り開始
- 11月 広告掲示・配布開始
ワークショップの内容を講師陣と詰める
- 11月24日 第一回ワークショップ開催
反省会
- 12月7日 第二回ワークショップ開催
反省会
- ～12月31日 メンバーで最終振り返りをし、活動報告書をまとめる

■ワークショップの内容

その後、参加者と連絡を取り合ったりしてつながりを広げる。
今後の演劇の活動や地域交流の活動に生かしていく。

■NPO 法人劇団クリエの講師（梅原美穂さん、大滝順二さん、上原久栄さん）を選んだ理由。

- ・つくば市在住で、筑波大へアクセスしやすかったから。
- ・大人から子供まで、また初めて演劇やダンスを経験する人からプロを目指す人まで、指導する生徒の層が厚く広く、初めての人でも楽しめる場を作れる方々だから。

活動期間

平成25年10月23日～25年12月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：下村理愛（教育研究科）
- P：荒川麻里（人間系）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 10月 ミーティング
- 11月 先生と相談
- 12月15日 イベントの実施

・目標達成度

計画していたのと同じくらい参加者を募ることができた。
表現することの楽しさや、教育の面についても話すことができた。
目標を達成することができたと思う。

・得られた成果

インプロやダンスを使った表現の楽しさを伝えることができた

今後の課題

人数を集めることが大変でした。

経験者からのメッセージ

早め早めに行動することが大切だと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

短い間でしたがみんな楽しくできましたと思います。

T-ACT に関する感想

とても楽しく活動できました。ありがとうございました。

また利用したいと思います。

セクシュアルマイノリティ×学校教育 (13068A)

T-ACT プランナー 渡邊 葉子 (教育研究科2年)

活動内容

“日本人の20人に1人はセクシュアルマイノリティ (性的少数派)”

そう言われながらも、セクシュアルマイノリティの知識を学ぶ機会はとて少なく、学校現場でも教えられないため、当事者の子どもたちは「おかしいのは自分だけなんだ」と誰にも相談もできず、一人で抱え込んでしまうことが多いのが現状です。

「誰にも理解してもらえない」「明るい未来を想像できない」そんな孤独感や自己否定が原因で、当事者は非当事者に比べ自殺率が1.6倍高くなるということが明らかになりつつも、依然としてセクシュアルマイノリティに関する教育は行われていません。

今回の活動では今まで教育界でタブー視されてきた「セクシュアルマイノリティ」に関する知識を概観するだけでなく、当事者が実際に学校で経験してきた問題に対して、その事例を取り上げながら、「教師がどう取り組まなければならないか」をワークショップ形式で討論します。そしてセクシュアルマイノリティ当事者が教師に望む声をヒントにしなが、教師にどのような心構えが必要かを提案します。この活動をすることにより、正しい知識を持った教員志望者・教師を増やすとともに、本当の教育者としてあるべき姿を一緒に考えましょう。

※対象は教師 (or 志望者) だが、興味のある方は誰でも参加可能

活動計画

- 10月 活動開始
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 11月 具体的なスライドの作成・広報活動
- 12月15日 講演&ワークショップ実施日 @1C210
- 12月末 活動終了 反省会の実施・報告書作成

活動期間

平成25年10月5日～26年1月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 堤夏鈴 (比較文化学類)、内田彰 (情報科学類) 須藤れいな (医学類)、山道巧弥 (情報メディア創成学類)、岡田夏実 (比較文化学類)、奥田展也 (芸術専門学群)、濱田一喜 (システム情報工学研究科)

P: 竹谷悦子 (人文社会系)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 10月5日 ミーティング
- 10月19日 ミーティング
- 11月1日 ミーティング
- 11月15日 ミーティング
- 11月28日 会場申請
- 12月5日 ミーティング
- 12月13日 ミーティング
- 12月15日 イベント実施
- 1月25日 反省ミーティング

・目標達成度

目標は「セクシュアルマイノリティの現状を知ってもらい、教師としてどう行動すればいいか考えさせる」ことだったが、ほぼ満足のいく内容だった。会実施中の質問なども活発に行われ、アンケートでは今までセクシュアルマイノリティに関して知らないこと・気づけなかったことに気づけたという声が多数寄せられた。全体を通して、多くの参加者にセクシュアルマイノリティの方に対する配慮に関してのきっかけづくりができたので、大いに満足のいく結果となった。

・得られた成果

今回参加者はほぼ初心者ばかりの構成だったが、それぞれの知恵や経験を持ち寄り、会の運営から実施に導けたことは大きな経験となった。この経験はメンバー各々の自信にも繋がり、次の企画への大きな足かけにすることができた。

今後の課題

まず時間管理に関してだが、準備期間や当日のタイムスケジュールがうまくできなかったことが挙げられる。

準備期間の遅れは告知の遅れにも繋がり、「当日行きたいけど用事がありどうしてもいけない」などの声も聞こえた。告知は会に来てもらうための重要なアクションなので、少なくとも1ヶ月前には告知する必要があったように思われる。

また会場を押さえるにあたり、サークルと違いT-ACTは1か月前からしか会場を借りられないので、やりたい会場があっても他のサークルに押さえられるなどして、会場確保には大きな苦勞をした。

最後に内容に関してだが、当事者性（当事者が話をしないと現実味を得られないが、かえって当事者が発言することにより、他の当事者でない人間が発言した時に、信頼が低くなること）の問題が浮上した。これに関しては、あえてセクシュアルマイノリティ当事者や非当事者という明示をせず会を進めた。しかし、かえってそれが「実際にセクシュアルマイノリティの声を聞きたかった」という感想に繋がった。どこまで当事者性を出せばよかったが課題となった。

経験者からのメッセージ

時間管理、スケジュールの把握は大切です。特に集団でT-ACTの企画をする場合、早い段階でメンバーの空いている時間を確保しないと後で苦勞すると思います。また会場の雰囲気づくりも大切に、いかに会場全体を巻き込んで会を進められるかが重要なカギだと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

元々興味がある人が来たので、最初から真面目に話を聞いてくれ、質問も多く飛び交った。またこの会で得られた気づきも多く、実際に自分の生活を振り返って反省している人もいた。

時間が1時間もオーバーしてしまっただが、誰も不満も漏らさず、最後まで真剣に聞いていた。アンケートの回答率もかなり高かった。

T-ACTに関する感想

特にはないです。大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

● アミーゴ！ アミー語！ ポルトガル語！（13069A）

T-ACT プランナー 大島 靖子（人文社会科学研究科 M1）

活動内容

サッカー、カーニバル、アマゾン…そんなイメージが強いブラジルですが、実は、現在、約150万人ともいわれる、世界最大の日系人社会を擁する国でもあります。日系ブラジル人は、かつて日本からブラジルへと移住した人々とその子孫です。そして今、日本には、約20万人の日系ブラジル人が「出稼ぎ」労働のために“還流”・滞在していますが、多くの日本人はその事実気づいていません。また、気づいていても、日系ブラジル人に対する誤解や偏見があるのが現状です。日系ブラジル人の方々の多くは、日本人が嫌がる非正規雇用の3K労働に携わっており、自分のルーツであるはずの国で大変な苦勞を強いられています。また、日本の公立学校では、日系ブラジル人の児童生徒たちが、言葉や文化の違いなどから、いじめに遭ったり、なじみずくに不登校になってしまったりという事態が発生しています。学校側も、日系ブラジル人児童生徒は、言葉が通じないという理由で、指導が難しいと感じ、積極的に関わろうという学校は少ないのが実態です。

ブラジルの公用語はポルトガル語です。残念ながら、筑波大学では、正規の科目としてのポルトガル語の授業が行われていません。しかし、ポルトガル語を学ぶことを通して、英語だけではなく他の言語を学ぶことの大切さと楽しさと自分の世界が広がる実感、そして何より、日本に住み、大変な苦勞をされている日系ブラジル人の方々への敬意と絆が生まれるきっかけになればと願い、この企画を立案しました。

活動計画

活動の許可がいただけましたら、チラシ、ポスター、電子掲示板による生徒募集活動を行います。

ポルトガル語の授業の第一回は、12月中旬以降を予定しています。

以降、参加学生の希望を聞きながら、週一回程度を目安に、ポルトガル語の授業を行っていきたいと考えています。授業は、ネイティブ講師として、筑波大学のブラジル人留学生と、ノンネイティブ講師として大島（私）がチーム・ティーチング形式で行います。ネイティブ講師となるブラジル人留学生は既に確保しています。

活動期間

平成25年11月11日～26年4月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：Eduardo Rezende Graminho（生命環境科学研究科）、KANASIRO ALVARO KATSUAKI（人文社会科学研究科）、プレステス・ルーカス（農業生物資源1年）、ヘイナウド・コリオラノ・イアラ（農業生物資源1年）、マズロ・フェリペ（システム情報工学研究科）、Humberto M.N.（生命環境科学研究科）

P：明石純一（人文社会系）

活動報告

活動成果

・活動内容

2013年12月20日（金）18：30～20：30 第1回授業

内容：挨拶、自己紹介のしかた

今後の課題

一回しか実施できず、申し訳ありません。

経験者からのメッセージ

日程を早めに立て、場所を予約しておくことが大切だと思いました。

運営者側から見たパーティシパントの変化

皆さん、楽しそうに質問してくださいました。予想以上の反応をいただきました。ありがとうございました。

T-ACT に関する感想

特にありません。ありがとうございました。

つくば発ITベンチャー企業4社の経営者大集合!! 社長×社長のトークイベント (13072A)

T-ACT プランナー 池田 雄太郎 (システム情報工学研究科 M1)

活動内容

今勢いのあるIT企業の社長×社長の熱い対談!!
[[[[Fuller × BearTail × IntronWorks × クロノファクトリー]]]]

★★★★★イベント詳細★★★★★

【参加企業】

Fuller	CFO 高瀬氏 (システム情報工学科在学中)
BearTail	CEO 黒崎氏 (情報メディア創成学類在学中)
IntronWorks	取締役 常間地氏 (国際総合学類出身)
クロノファクトリー	CEO 平山氏 (体育専門学群出身)

【開催日】 11/12 (火)

第1部 トークイベント @ 筑波大学内 (決定次第、お知らせします)

18:30~19:00 各社自己紹介

19:00~20:30 トークイベント

20:30~20:50 質疑応答

【主催者から】

この企画を主催させていただいたシステム情報工学科1年の池田雄太郎と申します。現在、筑波の学生発ベンチャー企業でアルバイトさせていただいており、就職もIT関連の会社をしたいと考えています。

つくばには、優秀なITベンチャー企業がたくさんあります。学生のうちから起業した方もたくさんいます。そういった方の話を身近な立場として聞けるのはとても貴重で、筑波大学生でいられる今しかありません。その機会を逃すのは、とてももったいないと思います、今回このイベントを企画するに至りました。

今後は、つくばだけでなく日本で活躍する企業やグローバルに活躍する企業の経営者の方や起業経験のある方をお呼びして、同様なイベントを開催したいと考えています。そのためには今回のイベントの成功が必須となります。どうかお友達をお誘いの上ご参加ください!

よろしく申し上げます!

活動計画

10月30日	準備開始
11月1日~11日	広報活動など
11月12日	イベント開催

活動期間

平成25年10月30日~25年11月12日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 杉田宗一郎 (人間総合科学研究科)、合田崇章 (システム情報工学研究科)

P: 繁野麻衣子 (システム情報系)

活動報告

活動成果

・活動内容

11月5日イベント実施

参加者は30人前後で経営者4人の起業する経緯や大学生活、最近の近況などざっくばらんに話が聞くことが出来た。

事後にとったアンケート結果からも8割程度が満足との結果が得られた。(残りの2割は「普通」)

今後の課題

4人分のマイク環境を準備するのが大変だった。また参加者がもっと企画にコミット出来る仕組みを作るべきだった。(参加者参加型にすべきだった)

また司会を用意すべきだった。(いなかったので自分でモデレーターをやった)

経験者からのメッセージ

トークイベントは難しいです。気をつけてください笑

運営者側から見たパーティシパントの変化

ベンチャーの経営者の魅力を感じてもらえたと思います。

Astro Cafe ～そうだ、宇宙に行こう。～ (13077A)

T-ACT プランナー 吉田 正樹 (理工学群物理学類3年)

活動内容

今回の Astro Cafe では「宇宙旅行」をテーマに行いたい。先日、若田宇宙飛行士が宇宙に飛び立ったが、このニュースはますます日本人に宇宙に興味を持つきっかけとなり、さらに自分も宇宙に行きたいと思った人は少なくないだろう。

そのような中で宇宙空間を旅行する「宇宙旅行」というものがある。これは決して夢のような話ではなく来年には本格的にたくさんの人を宇宙に送り込む計画のようである。

人間が宇宙を実感出来る一番の方法は宇宙に行くことだろう。

なので、今回の Astro Cafe では日本で宇宙旅行を推進している方をお呼びして是非とも講演していただく。さらに来場者のみなさんに宇宙でどういうところに行き、何をして、何を見たいかを考えてもらいたい。きっと夢広がるような話になるだろうし、ますます宇宙に興味を持つきっかけになるのではないだろうか。

最終的な目標としては、筑波大学全体が宇宙に興味を持つようになり、大学全体で宇宙を盛り上げていきたい。

活動計画

- 11月19日 活動開始
メンバーを集め、話し合いを進め、今回の Astro Cafe で何をするか計画を練る
- 12月
・今回の Astro Cafe では人を呼んで講演して頂くことを目指すので、Astro Cafe の1ヶ月前までに講演して頂く方を決定し連絡をとる。これが行えない可能性も考慮する。
・ワークショップも行うので、その内容も十分に考える。
・当日のタイムテーブルの作成
・講演者の講演内容の勉強会を行う。
・Astro Cafe の開催場所の決定
・Astro Cafe 宣伝のためのピラを製作し1月に入り次第、順次配布していく。
・SNS を利用した宣伝
- 1月
・次回の Astro Cafe で今回の反省を活かせるようアンケートの準備もする。
・ピラ配布、SNS を利用した宣伝
・1週間前には茶菓子の購入
- 1月21日(火) Astro Cafe 開催日
- 1月末 活動終了
メンバーで最後の振り返りを行い、アンケート、活動報告書をまとめる

活動期間

平成25年11月19日～26年1月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：佐々木さゆり (物理学類)、宮川銀次郎 (物理学類)、洪依静 (知識・情報図書館学類)、犬塚健人 (工学システム学類)、木立佳里 (物理学類)、塩谷知弘 (物理学類)、桐原崇亘 (数理物質科学研究科)、山岸祐介 (システム情報工学研究科)、日原弘太郎 (情報科学類)、原田匠 (システム情報工学研究科)、高村有加 (看護学類)
- P：中井直正 (数理物質系)

活動報告

活動成果

- ・活動内容
- 11月19日 火曜日 活動開始
- 11月22日 講演者を呼ぶことをほぼ決定
- 11月26日 火曜日 企画名決定
第1回 MT
講演者は大貫さんでほぼ決定
講演費は10000円くらい→予算がほぼできる
- 12月3日 火曜日 第2回 MT
タイムテーブルほぼ出来る
宣伝方法について考える
・アイアイモール
・先生にピラお願い
・12/16の T-ACT の授業でピラ配り

12/16をビラ完成の目安にする

- 12月7日 宇宙就活
講演者大貫さんで決定
ポスターほぼ完成
- 12月9日 開催日決定
- 12月10日 火曜日 第3回 MT
- 12月16日 T-ACTの授業でビラ配り
- 12月24日 火曜日 第4回 MT
教室決定
すごろくを作成
- 12月30日 参加フォーム完成
- 1月6日 百香亭予約
HP完成
- 1月7日 火曜日 第5回 MT
宇宙旅行についてセミナー
- 1月8日 ビラ配り始め
ポスター掲示
市民活動センターポスター掲示完了
- 1月11日 メールー斉送信
アンケート作成
- 1月14日 第6回 MT
ポスター書籍部等に掲示
大貫さんと当日の予定確認
- 1月17日 動画完成
- 1月21日 火曜日 第7回 MT
教室の机配置完成
- 1月22日 すごろくのコマ完成
買い出しの計画
- 1月23日 買い出し
- 1月24日 金曜日 講演資料印刷
アンケート印刷
AstroCafe！！
- 1月28日 火曜日 反省会

・目標達成度

今回の AstroCafe の目標参加人数は60人であった。しかし、TSC メンバーを除いた参加人数2人であった。そういう意味では、達成度は低かった。ひとまず、無事終わらせることは出来たので達成度は50%くらいだろう。

・得られた成果

今回の AstroCafe は今まで中心に行ってきたメンバーではなく、全く新しいメンバーで行った。その中で、広報や講演者を呼ぶなどたくさんの経験をする事が出来た。

また、講演者を呼ぶということを行ったので、社会人のマナーというものを色々考える機会が多かった。

今後の課題

やはり、参加者が少ないと寂しかった。AstroCafe の内容自体を言うと、講演者の講演内容は大変面白かったし、講演後に行ったワークショップはとても盛り上がった。

その分、参加者が少ないのはとても残念だった。

参加者がここまで少なかった理由として開催時期の問題が考えられる。今回の AstroCafe 開催時期は、11月の学園祭が終わって準備期間を考えて決まった。しかし、この時期は、1、2年生はテスト勉強、3年生は就活、4年生は卒論と皆が忙しい時期であった。当然メンバーも忙しく、なかなか準備が大変であり中心で働く人数がとて少なかった。去年までは3学期制であったので、去年と同じイメージで日程を決めてしまい、考えが甘かった。次回以降は、時期をきちんと考慮して決めたい。

また、広報について。ここのところ参加者が少なかったので今までとは違った広報を、と考えていて、ポスターを色々なところに貼らせていただいたりビラを置かせてもらったりしたが、減った数を見るとあまり効果がなかったように思えた。効果的な広報について考える時間もあまりなかったのが残念だった。

経験者からのメッセージ

楽しめれば良いとは思いますが、当然参加者が多いほど楽しめると思います。広報について、ちょっと考えたことは是非やってみて効果的な広報の方法を考えてみるといいと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者の方々は講演も熱心に聞いていて、皆さん講演後には直接質問に聞きに行くほどであった。また、ワークショップもとても楽しんでいるようであった。さらに、Astro Cafe 後に行われた懇親会にも皆さん参加されていた。懇親会時にも話は盛り上がり、とてもいい経験が出来ていたのではないかと思う。

T-ACT に関する感想

細かいことなど、何度も聞きに行きましたが、たくさんの助言ありがとうございました。厚紙など物品がとても豊富で助かりました。

【就活生向け】選考突破！ JOBWEB 代表取締役による面接の本質セミナー(13082A)

T-ACT プランナー 池田 雄太郎 (システム情報工学研究科 M1)

活動内容

就活活動において面接は最も重要と言えます。なぜなら、エントリーシート・筆記試験・グループワークと様々な選考がありますが、最終的な関門は必ず面接だからです。

しかし、面接で苦労する学生は毎年後を絶ちません。何故か。それは、面接の本質を理解していないからです。このセミナーは「〇〇な質問には××と答えるとウケがよい」といったような小手先のテクニックを教えるものではありません。面接の本質を掴み、何をどのように見極めているのかを知る事が目的です。

ベンチャー企業から大手リーディングカンパニーまで、面接官トレーニングや採用戦略を立案するコンサルティングを手がけてきたジョブウェブの佐藤孝治さんを講師にお呼びします。

活動計画

12月1日(日) 広報活動開始

12月13日(金) セミナー

活動期間

平成25年12月1日～25年12月13日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：合田崇章 (システム情報工学研究科)

P：繁野麻衣子 (システム情報系)

活動報告

活動成果

・活動内容

30人弱の参加者があり、満足度も高かった。

イノベーションフォーラム in つくば2013 (20130004V)

受入団体名：茨城県企画部科学技術振興課 (13001G)

活動内容

「イノベーションフォーラム in つくば」は茨城県、茨城県教育委員会、つくば市、つくば市教育委員会、日本経済新聞社が主催する、高校生のためのイベントです。科学技術の集積地である「つくば」に全国から1,000人以上の高校生を集め、「イノベーション」について学ぶ機会を提供します。講師にはノーベル賞受賞者や最新技術の開発に挑む研究者、画期的な新製品を世に送り出すビジネスマンなど、豪華な方々を予定しています。ボランティアスタッフのみなさんには、このイベントの運営をお手伝い頂きたいと思います。高校生に普通の学校生活では提供できない機会を提供し、日本の未来をつくるイベントです。是非、多くの方にご参加頂けることを期待しています！

活動実施日(期間)

平成25年 8月20日

参加学生

T-ACT ボランティア：1名

その他：3名

活動報告

・受入団体担当者

学生の皆様には各教室のディレクター補佐や、生徒のサポート、パソコン操作や照明、音響などの操作をお手伝いいただきました。定員の1,000名を超える約1,200名の方にご参加いただきましたが、お陰様で事故も無く無事盛況の内、終了することができました。

学校支援学生ボランティア「スクールフェロー（SF）」(20130005V)

受入団体名：茨城県県南生涯学習センター（12001G）

活動内容

茨城県県南地域の小中学校をはじめ、市町村教育委員会の子ども向け事業に、県南地域在住学生をボランティアとして派遣することにより、子ども達の健全育成を図るとともに、学生の自己啓発に資する一助とする。学生の活動内容は、学校などが作成する活動計画（スクールフェロー依頼票）をもとに、学校など学生が協議して決定する。

活動実施日(期間)

平成25年6月1日

参加学生

T-ACT ボランティア：0名

その他学生：1名

活動報告

・受入団体担当者 ※活動した学校担当者より

「つくば市立葛城小学校運動会」における活動について

小規模校である本校においては、行事運営（運動会）の際、教職員の数が少なく児童の指導支援に苦慮している。今回は学生を配置していただき、運営上大変スムーズに行うことができた。

係活動補助については児童とともに活動していただいたり、担当教員の補佐的立場で臨機応変に対応していただいたりして円滑に進行できた。特別支援対象児童の補助については、前日に学校を訪問していただき児童の観察、支援の仕方等を打ち合わせすることができ、当日は適切な支援をしていただいた。子どもたちの行事への参加も意欲的で大変満足できる活動になった。

ボードゲームの広場 (20130007V)

受入団体名：つくばボードゲーム愛好会 (12002G)

活動内容

小学校（低学年）の児童たちと、オセロ、将棋、チェスなどで一緒に遊ぶことで放課後の子供たちの居場所づくりを行う。

活動実施日(期間)

○通年 毎週水曜日15:00~17:00

※学生が参加した日数28日

○平成25年11月23日（つくば光の森）

参加学生

T-ACT ボランティア：実数3名（延べ数26名）

その他（将棋部、オセロサークル）：

実数14名（延べ数42名）

活動報告

・受入団体担当者

筑波学院大学 OCP（オフキャンパスプログラム）の学生と一緒に、園児～小学生の子ども達及びその保護者たちにオセロ、将棋、チェスなどの指導や対局を行った。

（詳しくは Facebook「つくばボードゲーム愛好会」にて掲載）

・学生参加者

『システム情報工学研究科 M1 嶋津龍弥』

つくば市の小学生を対象にボードゲームの楽しさを伝える活動を行った。小学生は積極的な子や人見知りをする子など様々な個性を持つ子がいたが、毎回活動の最後には仲良くボードゲームを楽しめた。活動の成果として、普段あまり接しない子供たちがどのような価値観を持って行動しているのかを知ることができた。活動中に椅子に登ったり、過度なじゃれあいをしたりする子供がいて、怪我の恐れが伴う行動を子供たちに危ないと理解させることが今後の課題となる。

『理工学群 数学類3年 新井良征』

参加した子供たちにチェスを教えた。当初はチェスができる子供たちが少なく私と対局する形が多かったが、最近では子供たち同士で対局をするようになった。活動を通して、子供同士や親子の様子を観ることで、何を考えているのかなど、今まで観えなかったものが少しずつ見えるようになった。また、難しいチェスのルールを、解ってもらえるように伝えられるようになった。子供（親子）の様子を今後もしっかり観て、どういう様子なのかを把握できるようになり、教育実習など人と関わる時に活かしたい。物事を解り易く伝えるための工夫をもっとしたい。



第41回筑波山梅まつり 縁結びイベント (20130013V)

受入団体名：一般社団法人つくば観光コンベンション協会 (13008G)

活動内容

筑波山梅まつりにおける縁結びイベントの企画、実践

活動実施日(期間)

- 平成26年2月22日～3月23日(梅まつり実施期間中随時)
- 平成26年3月15日(梅ビンゴイベント)

参加学生

T-ACT ボランティア：2名(サポーター1名含む)
その他(筑波学院大学)：3名

活動報告

・受入団体担当者

学生達に企画を投げ自由な発送でアイデアを出していただき、筑波山梅まつりにおける「若い新たな考え」を付加することができました。「梅ビンゴ」(ビンゴカードを手に番号がくくりつけられた梅の木の番号を探し当てる)は当初の終了時刻よりも大幅に早く定員となり大人気でした。最初はみなさん「お客さんくるのかな・・・」と不安な表情でしたが、多くのお客様がくると積極的に、楽しそうにしている姿が非常にエネルギッシュでした。また、写真コン(「縁」の感じられる写真コンテスト)においては周知期間も短かったこと、ハードルが高かったことからあまり人気がでなかったが、反省点等を挙げ「来年はこうしよう!」と前向きに考え改めていたことに感心しました。こちらとしても準備期間が短く学生を困惑させてしまったことがありました。しかし、スケジュールの厳守、報告・連絡はもう少し必要かと思いました。

・学生参加者

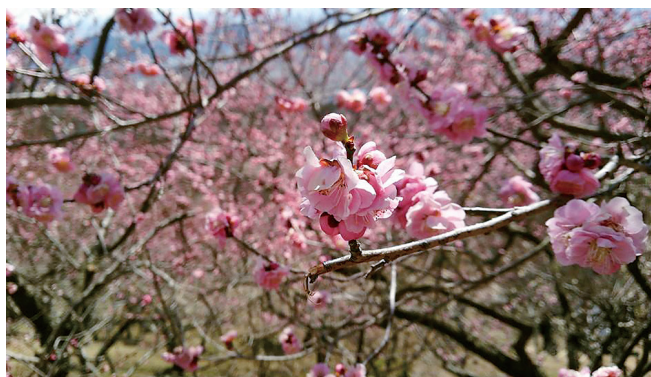
『心理学類1年 林賢佑』

【活動の成果】

筑波山梅まつりにおいて梅林を利用した「梅ビンゴ」、「カップル写真コンテスト」というイベントを行った。「梅ビンゴ」は100名以上の来場者に参加してもらい、「カップル写真コンテスト」は10組程度の参加者を得た。しかし当初予定していた長期間での「写真コンテスト」の実現、「街コン」の実施を果たせなかった。

【今後の課題】

まず企画を素早く行うことが必要であった。企画の内容を詰めることに時間がかかり、広報が遅れたために街コンの実施ができなかった。次に企画のリーダーであった私が、メンバーに仕事を割り振り、スケジュール管理を徹底することができていなかった。今回の反省を活かして是非リベンジを果たしたい。



友だち活動 (20130015V)

受入団体名：特定非営利活動法人青少年の自立を支える会シオン (13011G)

活動内容

学習支援、野外活動、就労体験、その他を通して入居者のエンパワーメントを高める。入居者の良いモデリングとなる。

活動実施日(期間)

通年 毎週水曜日15:00~17:00 ※学生が参加した日数28日

参加学生

T-ACT ボランティア：2名

活動報告

・受入団体担当者

ホームみらいの入居者のうち、女子入居者Sの担当となる。ボードゲームや食事作りなどを通し、徐々に距離が縮まってきたようだ。継続しての活動に期待をしたい。

・学生参加者

『人間学群心理学類 3年 佐々木夕莉』

施設では、入居している子どもたちと一緒に話やゲーム、夕食作りのお手伝いなどを行っています。始めはお互い緊張していましたが、回数を重ねていく度に段々と距離が近くなってきていると感じます。ただ、まだ距離があると感じるので今後どのように関わっていくかが課題です。活動では折り紙など、色々興味がありそうなものを持っていき一緒に遊んでいますが、まだ何がよいか分からず模索しながらやっています。もっとコミュニケーションを深めたいと思います。

2013 年度実施状況報告

つくばアクションプロジェクトは、学生が自らの関心に基づく多種多様な自発的活動（これを T-ACT と言う）を新たな人間関係を構築しながら実行するよう促進することで、学生の人間力を育成する筑波大学の人間力育成事業である。T-ACT は、学生が企画立案し展開される T-ACT アクション、教職員／学生支援組織が企画立案し展開される T-ACT プラン、地域活動団体が実施する社会貢献活動に自発的参加をする T-ACT ボランティア（2013年度スタート）の3種がある。T-ACT の諸活動は、学生・教職員・学生支援組織・地域による共創的コミュニティをベースに、アクティブな流動性をもつことを特徴としている。学生は、T-ACT の諸活動を通して、諸活動への積極的な参加力、経験から感じ取る体験力、他者と関わり協調するコミュニケーション力、人をまとめ率いる統率力、創造しそれを具現化する企画力という人間力を養うことになり、自主性と社会性を備え、将来社会を担う人材として成長することができる」と期待されている。

1. T-ACT 活動実績

2013年度4月の調査において（有効回答は学群生5871名、大学院生2539名）、本学内の学生における T-ACT の周知率は、学群生で53.8%、大学院生で39.1%であった（「T-ACT について知っている」に対して、「とても当てはまる」「少しあてはまる」と回答した割合。図2参照）。また、「T-ACT の活動に参加してみたいと思う」（「とても当てはまる」「少しあてはまる」と回答した学生は、学群生で24.7%、大学院生で19.1%であり、「T-ACT の活動に参加したことがある」（「1回」「2回」「3回以上」と答えた学生は学群生で6.9%、大学院生で7.7%であった（図3・4参照）。

2013年度の T-ACT アクション・プランにおける企画申請数及び承認数、T-ACT ボランティアにおける団体登録数及び活動承認数、それらへの学生参加者数、T-ACT フォーラム利用者数は次の通りである（但し、3月末日時点までに T-ACT 部会にて把握できた数に限られる）。2013年度は、T-ACT アクション・プランの企画申請数は109件（すべてアクション）であり、そのうち104件が承認された（図5参照）。参加者数は、学生プランナーは110名（重複者を除く実数は81名）、教職員プランナーは0名、教職員パートナーは86名（重複者を除く実数は63名）、学生オーガナイザーは285名（重複者を除く実数は271名）、学内者のパーティシパントは1049名（重複していないことが確認できる実数は229名）、学外者のパーティシパントは63名（重複していないことが確認できる実数は1名）であった（図6～8参照。但し、概数が報告された場合は計上していない）。T-ACT ボランティアにおける登録団体数は13であり、活動申請は36件であったが、団体登録がなされた上での承認活動数は15件であった（表1・2参照）。T-ACT フォーラムを利用しに来室した学生数は1474名だった（図9参照）。

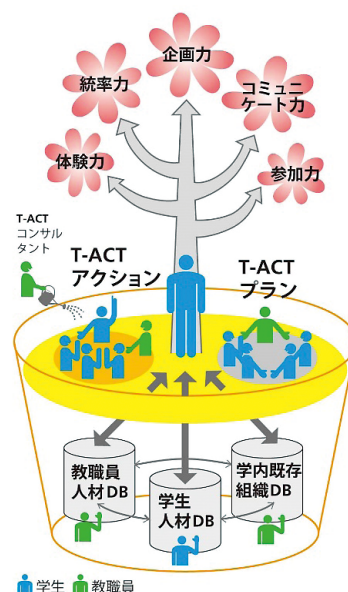


図1：共創的コミュニティ形成による T-ACT の展開と学生の成長

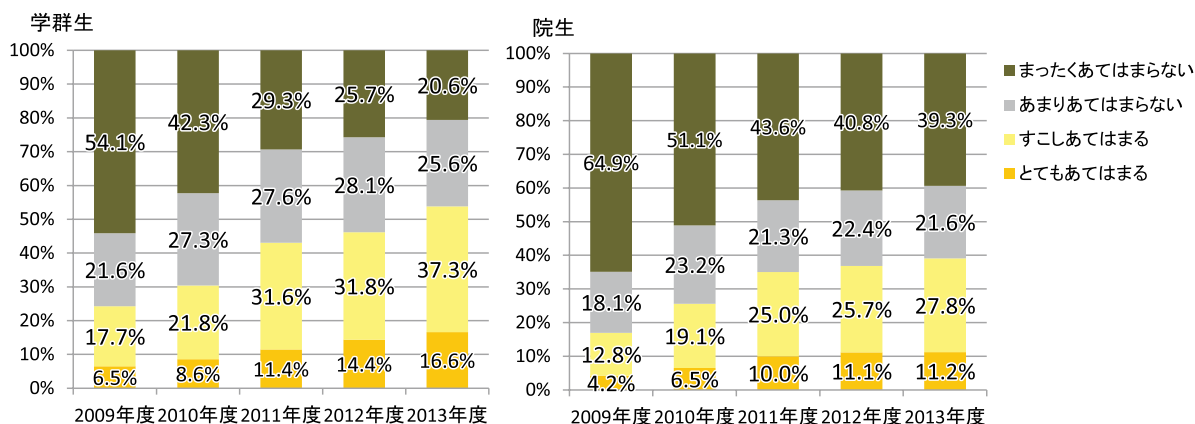


図2：過去5年間の T-ACT の周知率（「T-ACT について知っている」に対する回答）

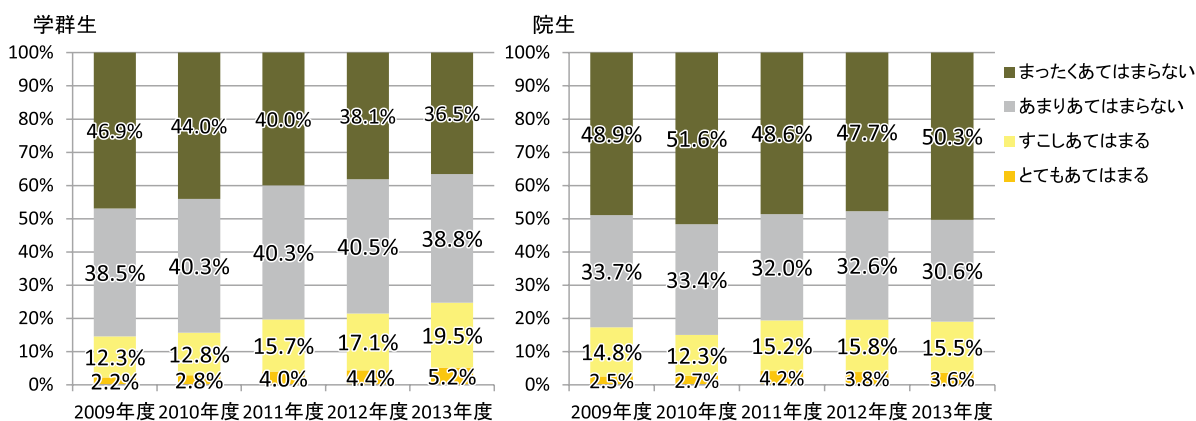


図3：過去5年間のT-ACTへの関心度
 (「T-ACTの活動に参加してみたいと思う」に対する回答)

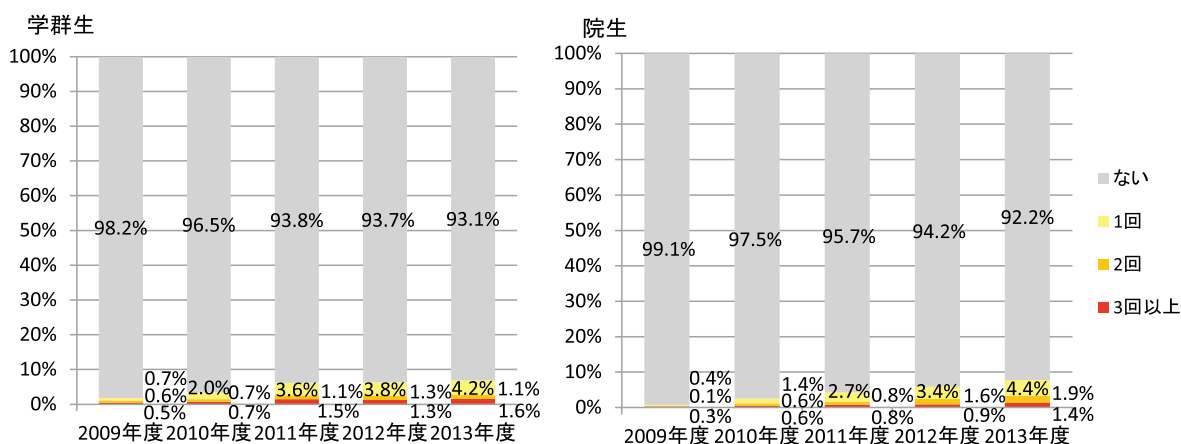


図4：過去5年間のT-ACTへの参加率

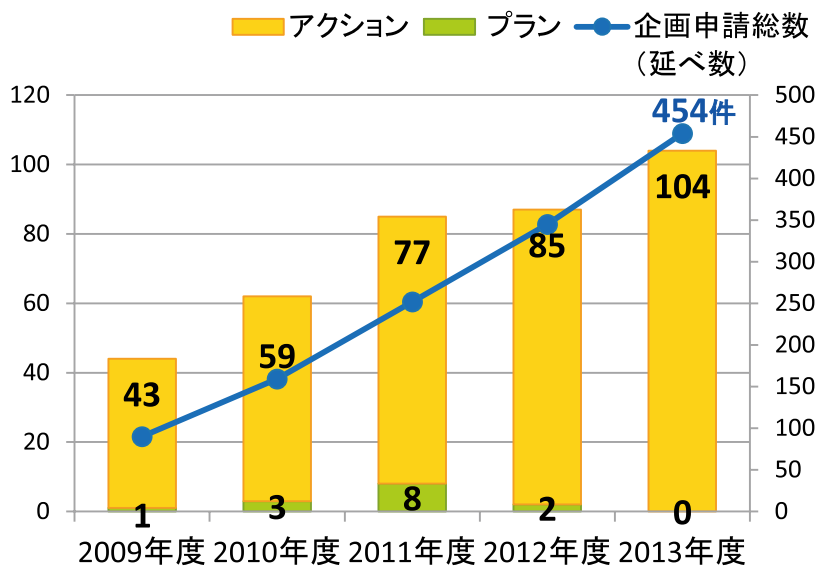


図5：過去5年間のT-ACTアクション・プランの企画承認数と企画申請総数

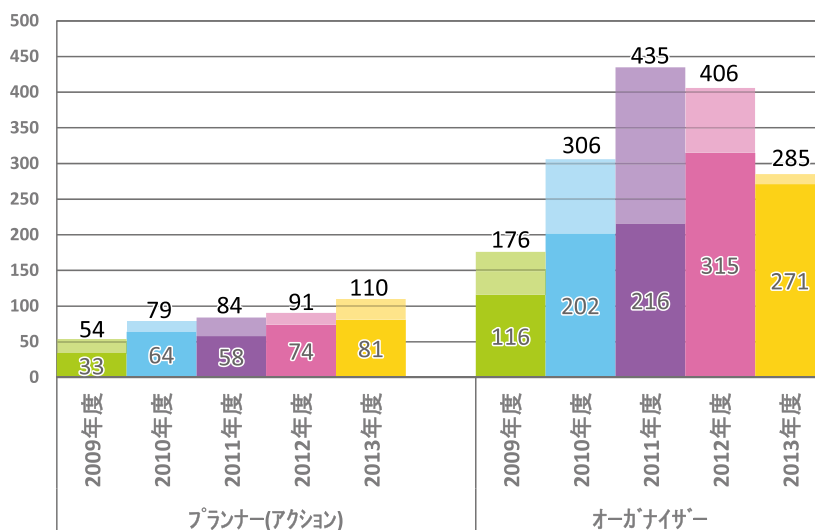


図6：過去5年間のT-ACTアクション・プランの参加者数（プランナー・オーガナイザー）
注）棒グラフの頂点までが延べ数を示しており、色の濃い点までが重複者を除く実数を示している

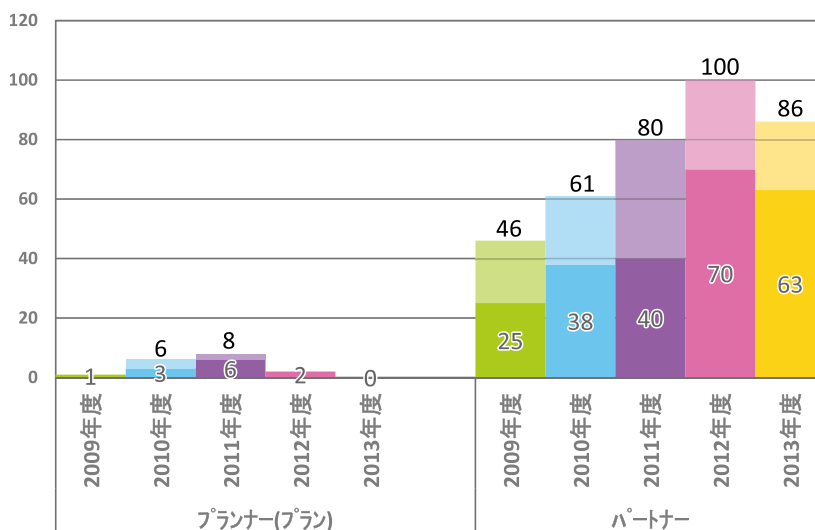


図7：過去5年間のT-ACTアクション・プランの参加者数（プランナー・パートナー）
注）棒グラフの頂点までが延べ数を示しており、色の濃い点までが重複者を除く実数を示している

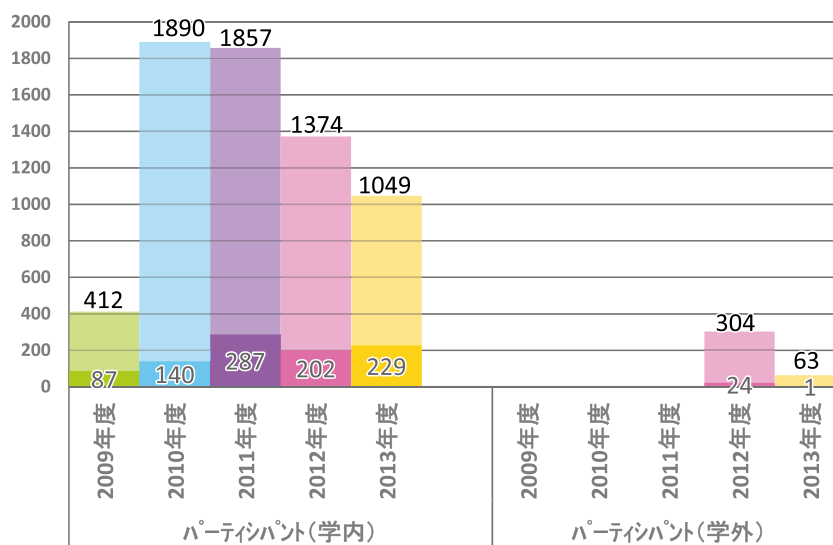


図8：過去5年間のT-ACTアクション・プランの参加者数（パーティシパント）
注）棒グラフの頂点までが延べ数を示しており、色の濃い点までが重複していないことが確認できる実数を示している。
また、パーティシパントを学内外別に集計したのは2012年度以降であり、2011年度までは便宜的に学内の項にまとめて図示した。

表1：これまでのT-ACTボランティアの登録団体数と活動承認数

	2012年度 ^{注1}	2013年度
登録団体	2	13
承認活動	2	15

注1)2012年度は2012年12月～2013年3月の期間

表2：これまでのT-ACTボランティアへの登録団体における本学学生の参加者実数

	2012年度 ^{注1}	2013年度
T-ACT	0	10
その他	21	18
計	21	28

注1)2012年度は2012年12月～2013年3月の期間

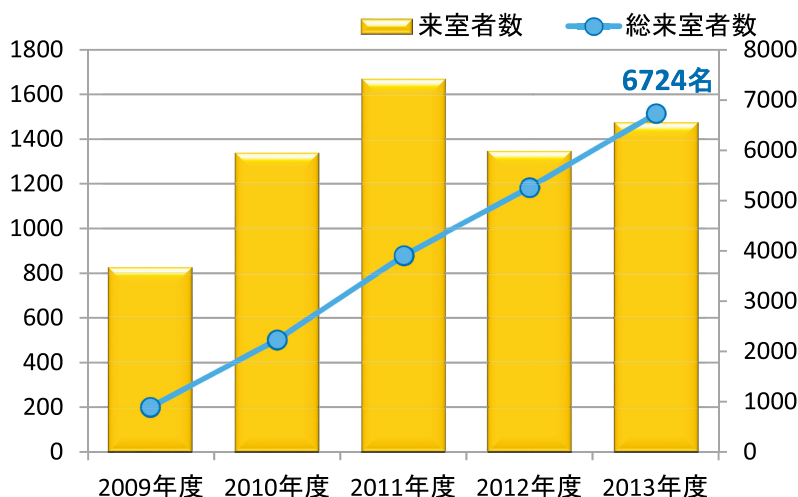
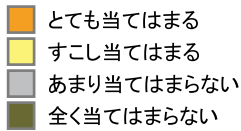


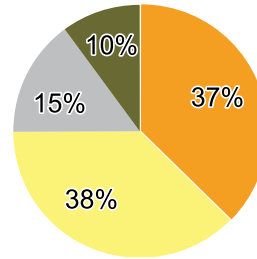
図9：過去5年間のT-ACTフォーラム来室者数

2. T-ACTによる人間力の成長

2013年度の活動の際にT-ACTシステムに登録した学生のうち140名（有効回答139名）が、活動終了後の人間力の成長に関するアンケートにweb上で回答した。参加力、体験力、コミュニケーション力、統率力、企画力の達成度に関する自己評価は以下の通りである。参加力と体験力について達成できたという回答（「とても当てはまる」「すこし当てはまる」）は全体の約75%を占めたが、コミュニケーション力についてはわずかではあるが下がり、達成できたという回答は全体の約70%であった。企画力について達成できたという回答は全体の約62%であることから、参加力・体験力・コミュニケーション力より達成することが難しいと感じられていることがわかる。統率力について達成できたという回答は過半数の約51%を占めるものの、活動を実現するために他者に指示的に働きかけることについて最も難しいと感じられていると言える（次頁参照）。

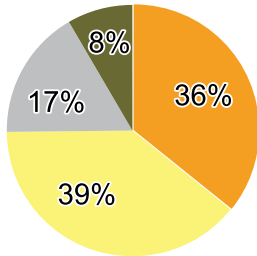


◇参加力
(積極的に活動に取り組むことができた)



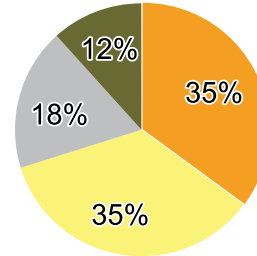
1. 活動の実現に向けて自分なりに努力できた
2. 活動に積極的に関わることができた
3. 活動の実行に貢献することができた
4. 活動にできるだけ多く参加できた
5. 互いに協力し合いながら、活動を進めることができた

◇体験力
(活動を通して、感じ取り、考えることができた)



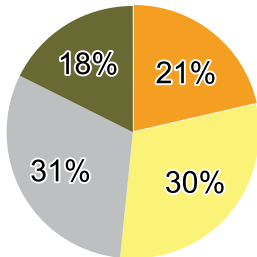
1. アクションを通して、新しいまたは忘れていた自分の長所に気づくことができた
2. アクションを通して、自分の改善すべき点を知ることができた
3. アクションを通して、喜怒哀楽を感じることもできた
4. アクションを通して、なんらかの新しい発想を得ることができた
5. いろいろな出来事を見聞きできた
6. 活動に参加して、いろいろと考えさせられる体験ができた
7. 自分について考えさせられる体験ができた

◇コミュニケーション力
(メンバーと関わりあうことができた)



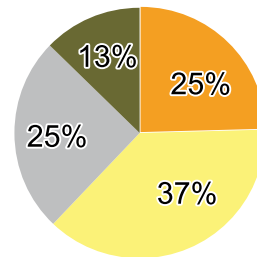
1. 他のメンバーに対して自分の意見を伝えることができた
2. 他のメンバーと積極的に関わることができた
3. 自分の気持ちを伝えることができた
4. 他のメンバーの意見に耳を傾けることができた

◇統率力
(メンバーをまとめることができた)



1. 他のメンバーに対して公平に接することができた
2. 孤立したメンバーがいないかどうか注意を払うことができた
3. 指示を出し、効率よくメンバーを動かすことができた
4. 活動の目的、あるいは目標を達成させることができた

◇企画力
(創造、計画し、実現することができた)



1. リーダーシップを発揮することができた
2. 活動に関して様々なアイデアを発想することができた
3. 活動を実現するために適切な計画を立てられた
4. 活動を実現する際に生じる問題点を予測しておくことができた
5. ある程度計画通りに活動を遂行できた
6. 活動に関する情報を多く集めることができた

3. T-ACT 表彰

活動の奨励を目的に、年に二度、企画の独自性が高く、参加者の人間力をより高めたと評価される企画を表彰している。2013年度に表彰された企画は下記の通りである。

表3：2013年度上半期・下半期に表彰された企画

賞	上半期		下半期	
	承認番号	企画名	承認番号	企画名
最優秀賞	12052A	チャリティーコンサート～想いを音符にかえて～	13032A	ゆめ花火
優秀賞	13007A	田舎じまんプレゼン大会！	12082A	つくバグ2013～子どもたちと生き物をつなぐ自然体験教室～
	13020A	第二回・天の川クリーンプロジェクト	13034A	プレゼンひろば
特別賞	12051A	学類生のための研究交流Ⅱ	13004A	校友会SNS改善委員会！
	12071A	楽演祭 music festival FOR players	13038A	Tsukuba International Debate Project
			13047A	Tsukuba Ensemble Project 部屋で眠る管楽器のためのアンサンブル
サポーター賞	13001A	Young Americans Asian Tour 2013 in Tsukuba に参加しよう！	13068A	セクシュアルマイノリティ×学校教育
			13039A	Pieces of Peace

4. 公開シンポジウム・活動報告会の開催

学生のさらなる活動と地域参画を促進するため、筑波大学内外に向けて学生の活動と T-ACT の成果を発信し、意見交換や交流による関連組織との連携を図るイベントを開催している。2013年度は、7月10日に活動報告会、12月5日に公開シンポジウムを開催した。

活動報告会は、「広げよう！ボランティアコミュニティ！」をテーマとし、学外から、横田能洋氏（茨城 NPO センター・コモンズ 常務理事・事務局長）と皿田恵子氏（市民活動センター センター長）を講師としてお招きし、地域活動に学生が参加することについてご講演をいただいた。また、T-ACT の活動の中で、地域貢献に向けた活動を代表して、「つくバグ～子どもたちと生き物をつなぐ自然体験教室～」「希死回生～自殺予防のための啓発活動～」「Team 8～もっと気軽に国際交流しよう～」「つくばの祭り交流会」がこれまでの活動と今後の活動計画を報告し、それを出発点に、学生が地域貢献活動に参画していくことをテーマに、地域の方々とともにディスカッションを行った。主体性と地域貢献活動におけるやりがいや学生がどのようなところから感じられるか、地域・社会に出ること広がる世界と自分自身の成長、地域・社会に出ることに対して自ら困ってしまっている壁などについて議論された。また、本学の地域貢献活動は、地域の方々には少ないと感じられていることが浮き彫りとなり、活動範囲や広報などの面でも本学の課題が感じさせられる有意義な報告会であった。

公開シンポジウムは、「未来の扉をあける T-ACT」をテーマとして開催した。T-ACT で活動してきた学生から、T-ACT での活動について、主体的活動だからこそリーダー経験を積むことができ、成功による自信と失敗からの学びを得られること、多様性を生み出せること、未来を見通して実現することは出来ないからこそ試しながら失敗しながら未来の自分を確かなものにする上で有意義であることが、実体験をもって報告された。また、外部講師としてお招きした本学卒業生でコピーライターの一倉宏氏から、未来を想像するのが一番難しいが、わがままに自分のやりたいこと、志を捨てずに、それぞれが多様性をもつ中にこそたくさんの可能性があるのだというメッセージを頂戴するとともに、本学が多様性を最も支援する大学であり、そのような場の一つとして T-ACT がなりえているであろうという評価を頂いた。

編集後記

学生支援 GP から本学の人間力育成事業となって2年が経ちました。T-ACTのプランナー・オーガナイザー経験者である T-ACT サポーターによる新歓の開催、サポーター賞の設置がなされました。T-ACT ボランティアでは、ボランティアスペースやボランティアアドバイザーの設置等、支援体制が整い始め、学生が T-ACT を活用して益々精力的、活発的に活動し、成長する場の礎が更に強化されたことが窺える1年でした。

2013年度は、企画申請数及びその承認数が100件を初めて超えました。新入生の T-ACT フォーラムへの来室も目立ち、学生の企画の多様性が、T-ACT 未体験の学生に「やってみたい」を実現させることができるのではないかという可能性や期待を抱かせ、一步を踏み出させてくれるのではないかと思います。最初の一步を踏み出すハードルは少し下がっている一方で、その後の歩を進められない企画もありました。歩を進めるにも、歩を止める、あるいは別の方向に向けるにも「仲間」の存在は重要であるように感じました。また、歩を止めた経験もまた糧にして、次に進むことができるようなサポートの重要性も改めて感じました。より多くの学生の様々な可能性の芽を育て、花を開かせられるよう大学として応えていくための一つの支援組織として、その他の学内組織・教職員をはじめ、地域や卒業生との連携の中、つくばアクションプロジェクトを推進していきたいと思っています。

T-ACT 専任教員

大久保智紗

ボランティアという言葉の語源は「志願兵」だそうです。T-ACT が掲げる「自発性、自主性のあ
る活動」というものにまさにフィットする言葉であると思いますが、特に「社会貢献的な」という意味合いが強調されている現代の「ボランティア活動」を行うためには、自身が地域そして社会の一員であると考えられるかどうかにかかっていると思います。それは、「人はひとりでは生きていけない」という青臭い言葉で表現されることなのだろうと思います。この言葉を自分なりに解釈しようとしてみると、何かを「やってみたい！」という気持ちが、「友達と楽しくできそうだな」といったような感情に加え、「私ならきっとこういうことができるな」や「僕がやるべきことだろうな」という感情も相まって、納得して取り組める活動につながっていくと思います。

T-ACT のボランティア事業はまだまだ始まったばかりといった感じですが、今回この報告書で紹介できた中でも、学生の皆さんの様々な活動の可能性を感じることができました。「やってみたい！」という気持ちを形にできる場所は「ボランティア活動」の中にもきっとあると思います。学生の皆さんのアイデアとチームワーク、そして地域の皆さんの協力により、今後はさらにこれまでの「ボランティア」のイメージを覆すような活動がどんどん出てくることを期待したいです。

T-ACT ボランティアアドバイザー

鈴木 庸

つくばアクションプロジェクト活動報告書

平成 26 年 5 月発行

筑波大学 T-ACT 推進室
〒305-8577 つくば市天王台 1-1-1
TEL 029 (853) 2222

2014



T-ACT

つくばアクションプロジェクト

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT